清武町埋蔵文化財調査報告書　第23集

NUMERIKAWA

滑川第3遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2007

清武町教育委員会

遠景

谷部アップ

滑 川 第 3 遺 跡

基本土層

実測前

礫下埋土

礫下埋土半截

完掘

SI-21《^{14}C年代：8970±70年BP》

検出

半截

逆茂木

遺構断面

SC-9

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成９年度事業区で実施した滑川第３遺跡の発掘調査報告書です。

滑川第３遺跡では、旧石器時代の石器や縄文時代早期の蒸し焼き料理施設である集石遺構、又、底に杭を仕掛けていた陥(おと)し穴など数多くの資料が確認されています。

今後は、これら先人達の残した貴重な郷土の文化遺産を、学校や地域と十分な連携を図りながら授業や体験講座の教材として存分に活用し、21世紀を担う子供たちの豊かな知識と誠実な心の育成に繋げていきたいと考えております。又、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような現地見学や歴史講座などの生涯学習の機会も積極的に設け、古の人々の息吹、想い、願いをより多くの方々に感じていただけるよう努めていく所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成19年３月

清武町教育委員会

教育長　水元　三千夫

例　　言

1．本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成９年度に実施された滑川第３遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査における測量･実測については、井田篤及び実測補助員が行った。
実測補助員：　　（50音順）

3．遺物・図面の整理及び報告書作成業務については、一部を平成９年度に清武町文化財管理事務所で実施し、残りを平成18年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した。
平成９年度
担　　当：井田
整理作業員：　　（50音順）
平成18年度
担　　当：井田、秋成雅博、今村結記
整理作業員：
（50音順）

4．本書で使用した写真については、調査に関するものは井田が撮影し、報告書掲載遺物については井田･秋成･今村が撮影した。又、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。

5．放射性炭素年代測定については、㈱古環境研究所に委託した。分析結果については、本書P98～100に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正^{14}Ｃ年代である。

6．石器実測及びトレースについては、一部をアイシン精機株式会社新規事業企画室及び株式会社九州文化財研究所に委託した。なおこれらの監修については、秋成が行った。

7．本書で使用した土層及び土器等の色調については､『新版　標準土色帖（1997年後期版)』の土色に準拠した。

8．本書では､磁北と座標北の２種類の方位を使用している｡(座標北を用いる場合のみＧ･Ｎと表示している｡)又、標高については海抜絶対高である。

9．本書に使用した記号は次のとおりである。
ＳＲ：礫群　ＳＩ：集石遺構　ＳＣ：土坑（陥し穴状遺構も含む）　ＳＸ：不明遺構

10．本書に使用した遺構内出土遺物及び包含層出土遺物の掲載番号については、各章ごとに表記している。
第Ⅱ章　旧石器時代遺物包含層出土遺物　‥　№１～74
第Ⅲ章　縄文時代早期遺物包含層出土遺物　‥　№１～135
第Ⅳ章　遺構内出土遺物　‥　№１～４　　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土遺物　‥　№１～189

11．本書に使用した土層番号は、第４図基本土層図の番号を使用している。

12．本書の執筆と編集については井田･秋成･今村が担当し、文責については本文目次に記している。

13．出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　　次

第Ⅰ章　はじめに　（文責）

第１節　調査に至る経緯と調査組織 …… 1　井田
　１．調査に至る経緯 …… 1　〃
　２．調査組織 …… 1　〃
第２節　遺跡の環境 …… 1　〃
　１．地理的環境 …… 1　〃
　２．歴史的環境 …… 1　〃
　３．周辺遺跡 …… 4　〃
第３節　調査の経過と方法 …… 4　〃
　１．調査の経過 …… 4　〃
　２．調査の方法 …… 4　〃
第４節　基本土層 …… 6　〃

第Ⅱ章　旧石器時代の調査

第１節　遺構･遺物の出土状況と出土層位について …… 7　秋成
第２節　各ブロックの調査について …… 7　〃
　１．Ａブロックの調査について …… 7　〃
　２．Ｂブロックの調査と出土遺物 …… 8　〃
　３．Ｃブロックの調査と出土遺物 …… 19　〃

第Ⅲ章　縄文時代早期についての調査

第１節　遺　　構 …… 25　井田
　１．集石遺構 …… 25　〃
　２．陥し穴状遺構 …… 36　〃
　３．土　坑 …… 36　〃
第２節　包含層出土遺物 …… 40
　１．土　器 …… 40　井田
　２．土製品 …… 41　〃
　３．石　器 …… 49　秋成

第Ⅳ章　アカホヤ火山灰層上位についての調査

第１節　遺　　構 …… 67
　１．土　坑 …… 67　井田
　２．竪穴状遺構 …… 68　今村
第２節　包含層出土遺物 …… 72
　１．縄文土器 …… 72　井田
　２．弥生土器 …… 82　今村
　３．石　器 …… 84　秋成

第Ⅴ章　まとめ

滑川第３遺跡について（総括） …… 97　井田･秋成･今村
滑川第３遺跡における自然科学分析 …… 98～100

調査抄録 …… 101

挿図目次

第１図　遺跡位置図（Ｓ=1/25,000）…… 2
第２図　遺跡周辺地形図（Ｓ=1/2,000）…… 3
第３図　グリッド図（Ｓ=1/600）…… 5
第４図　基本土層図（Ｓ=1/20）…… 6
第５図　旧石器時代遺物包含層出土遺物･遺構分布図【Ａブロック：器種別】（Ｓ=1/100）…… 9
第６図　Ａブロック接合資料分布図【石材別】（Ｓ=1/100）…… 10
第７図　旧石器時代遺物包含層出土遺物分布図【Ｂ・Ｃブロック：石材別】（Ｓ=1/100）…… 11
第８図　SR-１実測図（Ｓ=1/20）…… 12
第９図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図①：Ａブロック･出土位置不明（Ｓ=2/3･1/2）…… 13
第10図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図②：Ａブロック（Ｓ=2/3）…… 14
第11図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③：Ａブロック（Ｓ=2/3）…… 15
第12図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④：Ａブロック（Ｓ=2/3）…… 16
第13図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤：Ａブロック（Ｓ=2/3）…… 17
第14図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥：Ａブロック（Ｓ=2/3）…… 18
第15図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑦：Ａブロック（Ｓ=2/3）…… 19
第16図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧：Ａ・Ｂ・Ｃブロック（Ｓ=2/3）…… 20
第17図　縄文時代早期遺構配置図（Ｓ=1/600）…… 28
第18図　縄文時代早期集石遺構実測図①（Ｓ=1/30）…… 29
第19図　縄文時代早期集石遺構実測図②（Ｓ=1/30）…… 30
第20図　縄文時代早期集石遺構実測図③（Ｓ=1/30）…… 31
第21図　縄文時代早期集石遺構実測図④（Ｓ=1/30）…… 32
第22図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤（Ｓ=1/30）…… 33
第23図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥（Ｓ=1/30）…… 34
第24図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図（Ｓ=1/30）…… 36
第25図　縄文時代早期土坑実測図①（Ｓ=1/30）…… 38
第26図　縄文時代早期土坑実測図②（Ｓ=1/30）…… 39
第27図　SC-３実測図（Ｓ=1/30）…… 40
第28図　SC-３出土土器実測図（Ｓ=1/3）…… 40
第29図　不明土製品実測図（Ｓ=1/3）…… 41
第30図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図（Ｓ=1/600）…… 42
第31図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（Ｓ=1/3）…… 43
第32図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（Ｓ=1/3）…… 44
第33図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（Ｓ=1/3）…… 45
第34図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（Ｓ=1/3）…… 46
第35図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器【器種別】分布図（Ｓ=1/600）…… 50

第36図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器【石材別】分布図（S=1/600）…… 51
第37図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S=2/3）…… 52
第38図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S=2/3·1/2）…… 53
第39図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑実測図①（S=1/30）…… 67
第40図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑実測図②（S=1/30）…… 68
第41図　SX-２実測図（S=1/40）及びSX－２出土遺物実測図（S=1/3）…… 69
第42図　アカホヤ火山灰層上面検出遺構配置図（S=1/600）…… 70
第43図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器分布図（S=1/600）…… 71
第44図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図①（S=1/3）…… 73
第45図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図②（S=1/3）…… 74
第46図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図③（S=1/3）…… 75
第47図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図④（S=1/3）…… 76
第48図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑤（S=1/3）…… 77
第49図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑥（S=1/3）…… 78
第50図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器実測図①（S=1/3）…… 82
第51図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器実測図②（S=1/3）…… 83
第52図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土主要石器分布図（S=1/600）…… 85
第53図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図①（S=2/3）…… 86
第54図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図②（S=2/3）…… 87
第55図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図③（S=2/3・1/2）…… 88

写真図版目次

巻頭カラー１　滑川第３遺跡（遠景・谷部アップ）
巻頭カラー２　基本土層
巻頭カラー３　SI-21
巻頭カラー４　SC-９
写真図版１　SR-１…… 22
写真図版２　旧石器時代遺物包含層出土石器①…… 22
写真図版３　旧石器時代遺物包含層出土石器②…… 23
写真図版４　旧石器時代遺物包含層出土石器③…… 24
写真図版５　縄文時代早期遺構①…… 55
写真図版６　縄文時代早期遺構②…… 56
写真図版７　縄文時代早期遺構③…… 57
写真図版８　縄文時代早期遺構④…… 58

写真図版９　縄文時代早期遺構⑤…… 59
写真図版10　縄文時代早期遺構⑥…… 60
写真図版11　縄文時代早期遺構⑦…… 61
写真図版12　SC－３出土土器 …… 62
写真図版13　縄文時代早期遺物包含層出土土器①…… 62
写真図版14　縄文時代早期遺物包含層出土土器②…… 63
写真図版15　縄文時代早期遺物包含層出土土器③…… 64
写真図版16　縄文時代早期遺物包含層出土土器④…… 65
写真図版17　縄文時代早期遺物包含層出土石器…… 66
写真図版18　アカホヤ火山灰層上面検出遺構…… 89
写真図版19　SX－２出土土器 …… 90
写真図版20　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器①…… 90
写真図版21　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器②…… 91
写真図版22　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器③…… 92
写真図版23　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器④…… 93
写真図版24　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑤…… 94
写真図版25　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器…… 95
写真図版26　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器…… 96

表　目　次

第１表　旧石器（ナイフ形石器文化期）計測分類表…… 12・21
第２表　集石遺構（縄文時代早期）観察表…… 35
第３表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表…… 47・48
第４表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表…… 54
第５表　SX－２出土遺物観察表 …… 69
第６表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器観察表…… 79～81
第７表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器観察表…… 83
第８表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器計測分類表…… 86

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織

１．調査に至る経緯

平成７年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に滑川第３遺跡の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局から委託された清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

調査は平成９年８月１日から平成10年３月31日に行なわれ、調査面積は6,940㎡であった。

２．調査組織

調査主体	清武町教育委員会

調　査　（平成９年度）

事　務　局

教育長	湯地敏郎
教育次長	谷口忠誓
社会教育課長	戸高輝利
〃補佐兼文化係長	落合兼雄
〃主任	川越健
〃主任	伊東但

調　査　員

社会教育課主事	井田篤

整理作業　（平成18年度）

事　務　局

教育長	水元三千夫
教育次長	小城員久
生涯学習課長	落合兼雄
〃補佐	窪田清士
〃係長	伊東但

調　査　員

生涯学習課主任	井田篤
生涯学習課主事	秋成雅博
生涯学習課嘱託	今村結記
生涯学習課嘱託	平山景将

第２節　遺跡の環境

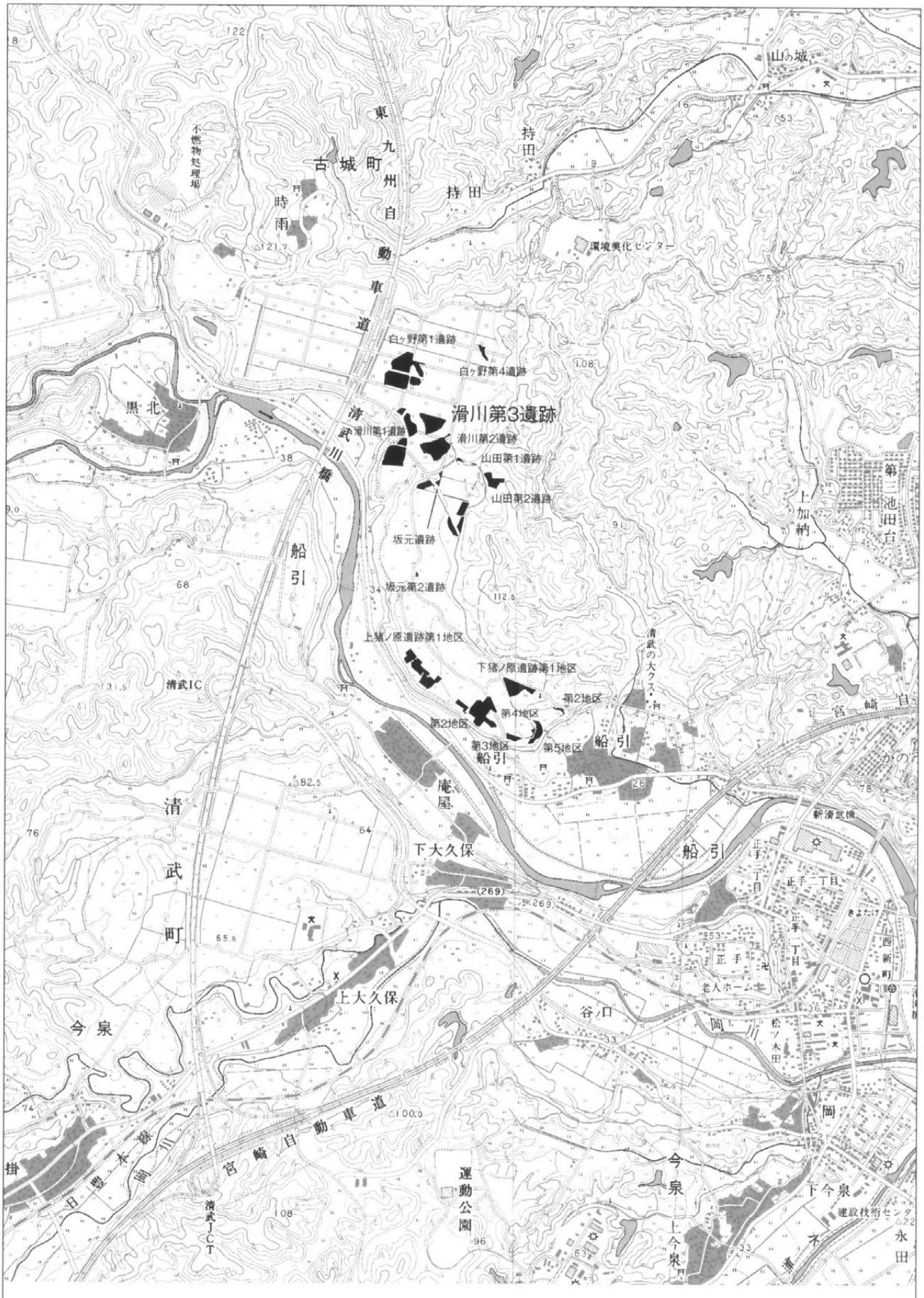
１．地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

滑川第３遺跡は、町内西方の標高約80m～85mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであったと考えられる。

２．歴史的環境

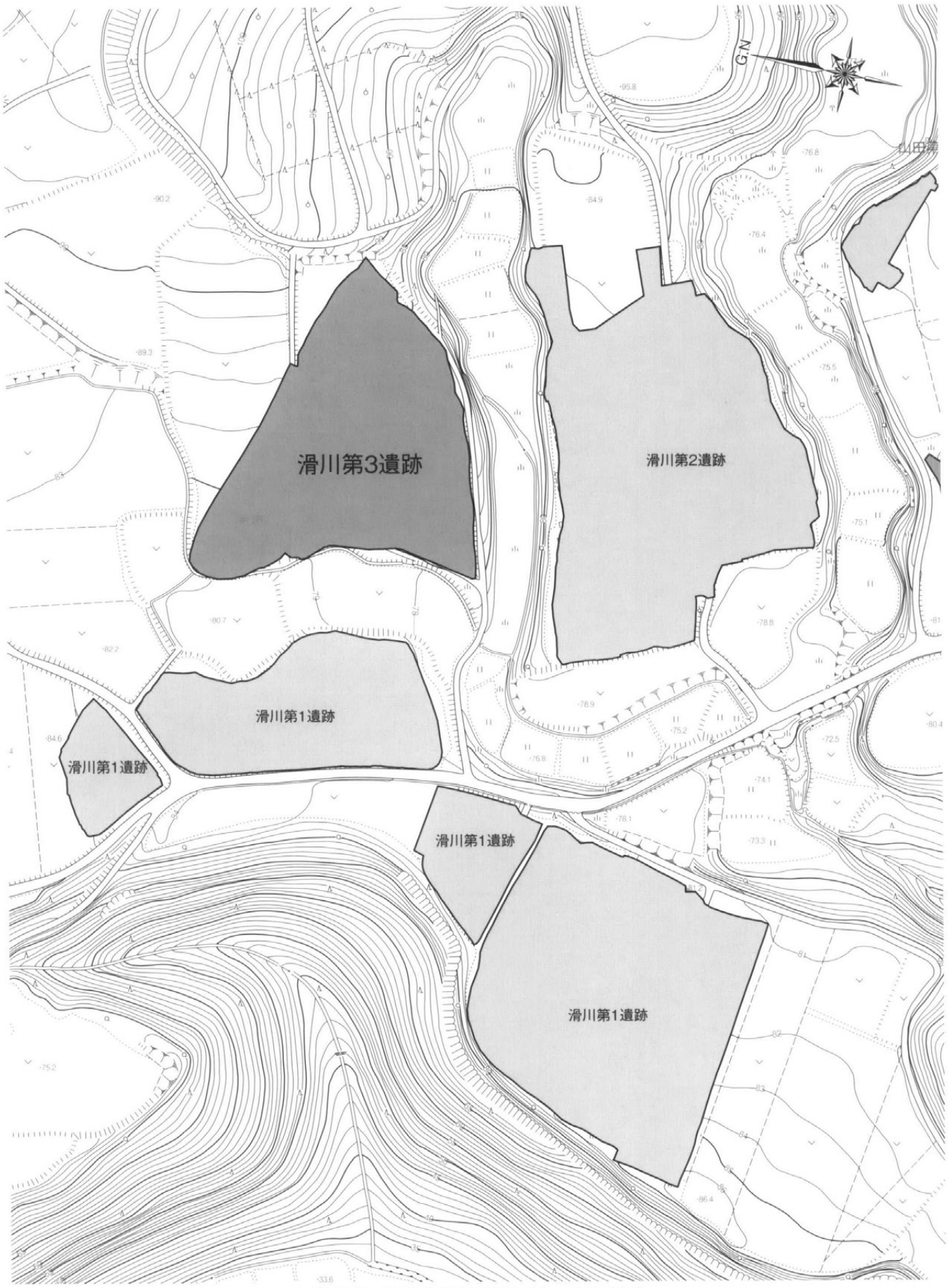
滑川第３遺跡は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてで



*旧日本測地系による

0 0.5 1.0km

第１図　遺跡位置図（S＝1/25,000）



第２図　遺跡周辺地形図（S＝1/2,000）

ある。建久八（1197）年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、「船曳五十町、右宮崎郡内　弁済使法印、不知實名、」とあり、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在していたのではないかと推測される。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代をとおして飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稲作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作祈祷神楽であるが、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

3．周辺遺跡

滑川第３遺跡が立地する台地上では、平成３年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次いでいる。

それに伴い発掘調査が実施された遺跡は20遺跡を数え（平成17年度現在）、旧石器から近世まで貴重な資料が多数確認されている。特に、台地上という地形からか、狩猟・採集を主な生業としていた縄文時代早期の遺構・遺物がすべての遺跡で確認されている。

第３節　調査の経過と方法

1．調査の経過

重機による表土の剥ぎ取り後、まずアカホヤ火山灰層残存範囲において、遺物の取上げ作業と遺構の検出作業を行った。アカホヤ火山灰層上位の遺物包含層からは、縄文時代前期の遺物を中心に縄文時代から古代にかけての遺物が出土した。又、遺構については、竪穴式住居跡の可能性が考えられる不明遺構が１基検出されたため、遺物の取上げ作業と並行して遺構の記録作業を実施した。

縄文時代前期以降についての調査終了後、重機及び人力によりアカホヤ火山灰層を除去、つづいて縄文時代早期についての調査を実施した。検出された遺構としては、集石遺構や陥し穴状遺構などが挙げられるが、特に集石遺構については36基検出され、記録にはかなりの時間と労力を費やすこととなった。

又、旧石器時代については、文化層が残存していると判断したＢ２・３及びＣ３グリッドを中心に調査を実施した。

2．調査の方法

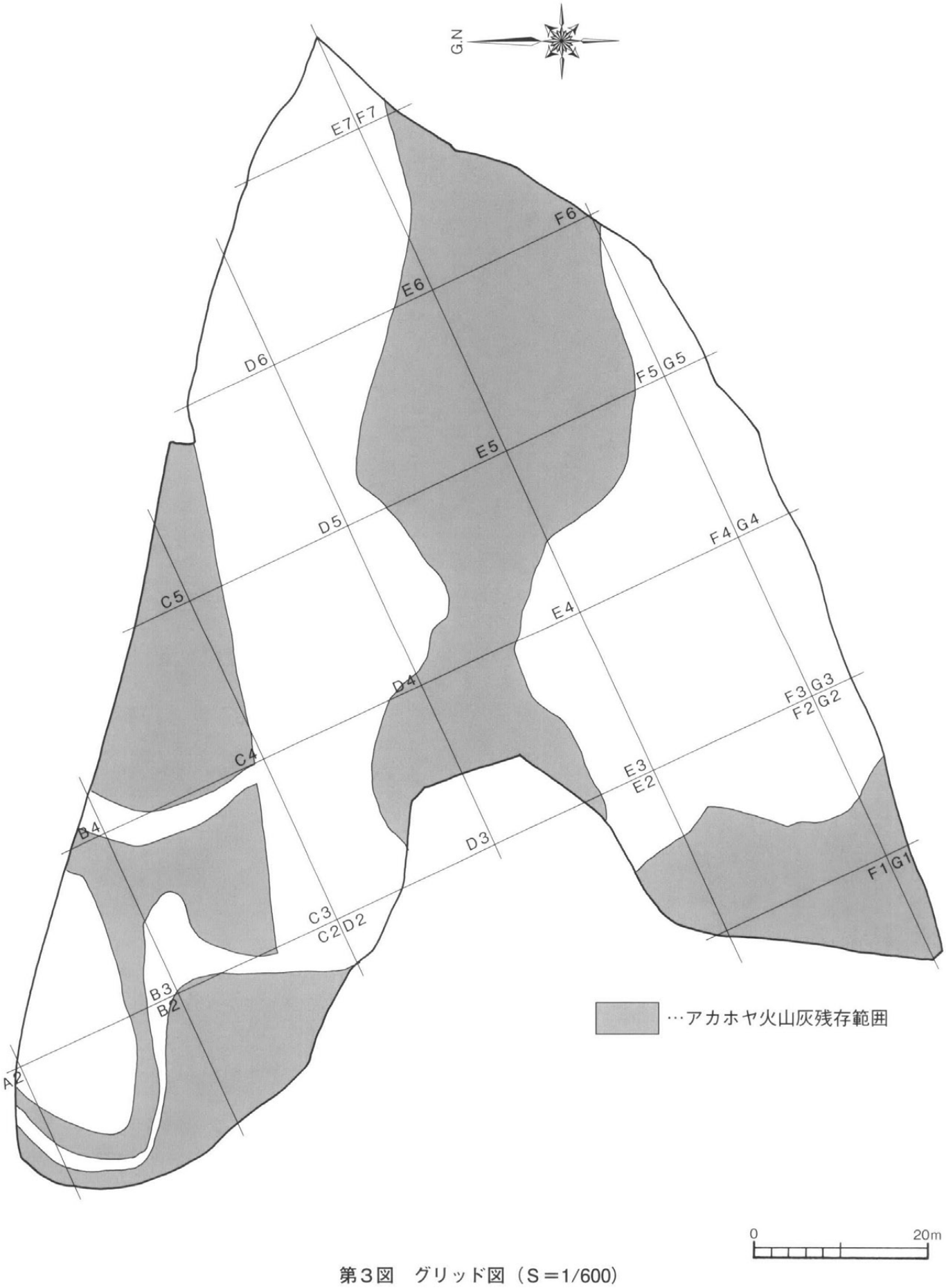
表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。
＊アカホヤ火山灰層については、大まかに重機で剥ぎ取った後に人力でより丁寧に剥ぎ取った。

基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。

遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。
＊縄文時代早期の集石遺構など包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

遺構実測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCADを利用してデジタルデータとして整理・管理した。



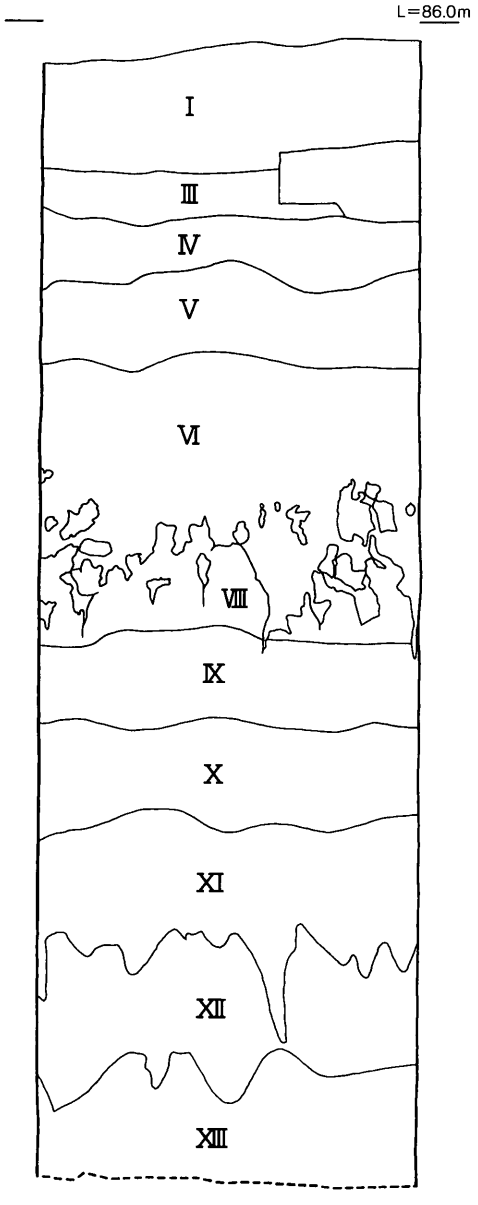
第３図　グリッド図（S＝1/600）

写　真　撮　影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35㎜モノクロ・リバーサル写真を併用し、空中写真については業者に委託した。

第4節　基本土層

当遺跡における基本土層は、C4グリッド北西側壁面にて実測した。同台地上に立地する他遺跡と似かよった堆積状況であるが、白ヶ野第1遺跡でみられた桜島薩摩テフラは確認されていない。尚、遺構の各検出面及び遺物包含層の詳細については、第4図基本土層図に表記している。

＊この報告書で使用されている土層番号（文章中や各表にて）は、第4図基本土層図の土層番号を使用している。



Ⅰ：耕作土

Ⅲ：アカホヤ火山灰風化層【=通称「2次アカ」】　明褐色（7.5YR5/8）
＊縄文時代前期以降の遺物包含層

Ⅳ：アカホヤ火山灰層　黄褐色（10YR5/6）
＊縄文時代前期以降の遺構検出面

Ⅴ：黒褐色シルト質ローム層　黒褐色（10YR2/2）
やや硬質　＊縄文時代早期遺物包含層・集石遺構検出層

Ⅵ：褐色シルト質ローム層　褐色（10YR4/4）
やや軟質　＊縄文時代早期遺物包含層・集石遺構検出層

Ⅷ：霧島小林軽石風化層　暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）
クラックにⅥ層が入り込む

Ⅸ：霧島小林軽石層　黄橙色（10YR7/8）
かなり硬質　＊縄文時代早期遺構検出面

Ⅹ：褐色シルト質ローム層　褐色（10YR4/4）
やや硬質、わずかに霧島小林軽石が入る　＊旧石器時代遺物包含層

Ⅺ：明褐色シルト質ローム層　明褐色（10YR6/6）
軟質でやや粘性有り　＊旧石器時代遺物包含層

Ⅻ：黄褐色シルト質ローム層　黄褐色（2.5Y5/3）
わずかにシラスを含む　＊旧石器時代遺物包含層

XIII：シラス　明黄褐色（5Y5/3）

第4図　基本土層図（S＝1/20）

1st Period

第Ⅱ章 旧石器時代の調査

第１節　遺構・遺物の出土状況と出土層位について

調査区は東側が尖り、西側の中央付近に谷部があり、その両脇に二つの尾根が広がっている石鏃のような形である。調査区を石鏃に見立てた場合、その脚部にあたる両尾根の先端部分付近に旧石器時代の遺物包含層の確認トレンチを９箇所設定し、掘り下げをおこなった。そのうちの５つのトレンチにおいて旧石器時代の遺物が検出された。最も北側のトレンチ２本から出土した石器群をＡブロック、そのやや南側から出土した石器群をＢブロック、調査区南側の中央付近に設定した２本のトレンチから出土した石器群をＣブロックと便宜的に設定し、順に報告をおこなう。ここでいうブロックは報告のための便宜的な単位であり、通常の用語とは異なるものと注意していただきたい。なお遺物の出土層位は各ブロックともにⅩ層～Ⅺ層を中心に出土しているが、一部Ⅷ層から出土しているものもあり、地層の堆積状況（特にⅨ層の堆積が薄い場合）によっては上位の層からも旧石器時代の遺物が出土するという状況が見受けられた。本遺跡の旧石器時代の調査面積は最終的に約410㎡に及んだ。

第２節　各ブロックの調査について

１．Ａブロックの調査について

Ａブロックの石器群が出土した調査区北側の２本のトレンチ（約172㎡）からはナイフ形石器８点（彫器に転用している資料１点を含む）、剥片尖頭器１点、スクレイパー１点、敲石２点、石核６点、剥片・砕片110点及び出土位置及び層位は不明であるが槍先形尖頭器１点も出土している。なお本ブロックからは接合資料が12組検出されている。使用石材については流紋岩・頁岩が最も多く使用され、チャート・砂岩・黒曜石がわずかに含まれている。なお石器類は２本のトレンチの東側に多く出土しているようである。

礫は２本のトレンチの全域に散らばって出土したが、特にトレンチの西側に集中する箇所があり、その礫の集中箇所を礫群（**SR-１**）として、実測等の記録作業をおこなった。しかし、垂直分布を観察するとトレンチの東側から石器類とともに出土した礫は**SR-１**よりもやや下位で出土しているように見受けられる。本ブロックにおいては総数で76点（**SR-１**の構成礫を含む）の礫が検出された。Ａブロックの石器類は**SR-１**が検出された層位よりも下位の層から出土したものが多い。さらに**SR-１**と他の礫とのレベル差を考慮すると、**SR-１**とＡブロックの石器類には時期差があるかまたはＡブロックの石器類は複数の時期の遺物が混在している可能性が指摘される。

SR-１（第８図）は９層下部から検出された。1.6m×1.4mの範囲で礫の広がりが確認されている。また本礫群の構成礫の点数は35点である。

次に出土資料について報告をおこなう。

ナイフ形石器（１～７・16）

ナイフ形石器は素材剥片・加工部位・平面形態などにより以下の４種類に分類される。石材については流紋岩・頁岩が使用されている。

・Ａ類（**１・２**）：二側縁加工のナイフ形石器で切り出し型を呈するもの。

・Ｂ類（**３・16**）：いわゆる翼状剥片と呼ばれる横長剥片を素材として打面部側の一側縁に刃潰し加工を施すもの。瀬戸内技法によって生産される国府型ナイフ形石器に分類される資料。**16**は欠損品であるため明確に分類することは困難であったが接合資料の検討からこちらに分類した。

・Ｃ類（**４・５**）：片縁部～基部にかけて刃潰し加工を施すナイフ形石器。Ｂ類との違いは不定形な剥片を素材とする点である。

・Ｄ類（**接合資料⑬・７**）：縦長剥片を素材としてその一部を折り取るように刃潰し加工を施す先断型のナイフ形石器。

接合資料⑬は下部を欠損後、欠損部位から彫刀面を作り出し、彫器に転用している。

槍先形尖頭器（８）

出土位置・層位は不明だが、本ブロックから出土したものである。粘板岩製の剥片を素材として周縁部に二次

加工を施し尖頭部を作り出す。

剥片尖頭器（9）

幅広の縦長剥片を素材とする。ノッチ状の基部加工は腹面側からのみ加撃をおこない、一部に平坦剥離を施している箇所が見られる。基部以外の加工はおこなわれていない。

スクレイパー（10）

10は頁岩製で台形状の剥片を素材として背面左側縁部及び下縁部に二次加工を施し、刃部を作り出す。背面左側縁と下縁部の交わる部分は錐状になっているようにも見える。

敲石（11・12）

両者ともに砂岩製で使用痕は端部に確認される。

接合資料①（13～19）

剥片５点とナイフ形石器１点･石核１点の接合資料である。石器類が接合した状態でその中央部分は空洞となっている。空洞部分が存在している時に13・17・19と14～16・18とに分かれたものと考えられる。一方は19→17→13という剥片剥離の作業が復元される。またもう一方は15→16→18（打面再生）→数枚の剥片剥離後→14（残核）という作業工程が復元される。13は下縁部に二次加工が施されている。14の石核は剥片素材であり、残核の形状から作出される目的剥片は横長剥片で剥片石核のポジ面を取り込むものである。

接合資料②（20～25）

節理面の状況から**接合資料①**と同一母岩の可能性が考えられる。剥片５点と石核１点の接合資料である。剥片５点は全て打面調整のための剥片である。20→24→22→23→剥片剥離→25→数枚の剥片剥離後→21（残核）という作業工程が復元される。21の石核は14と同様には剥片素材であり、接合資料①と同じような目的剥片を作り出した資料と考えられる。

接合資料③（26～31）

剥片５点と石核１点の接合資料である。28とそのほかの資料が分かれた後に30→29→27→数枚の剥片剥離→31（残核）という作業工程が復元される。目的剥片は寸詰まりの剥片であろう。

接合資料④（32～39）

剥片８点の接合資料である。剥片素材の石核であり、不整形な剥片を作出後、そのポジ面を打面として設定している。剥片剥離は素材剥片のポジ面の右方向から行い、寸詰まりの剥片を作出している。35→32→34→打面180°転回後→37（作業面再生）→36→39→33→38という作業工程が復元される。

接合資料⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑪（40～44・48～56）

すべて剥片同士の接合資料で、剥片剥離の工程を示すものである。接合資料⑤は42→40→41、接合資料⑥は44→43、接合資料⑧は50→49→48、接合資料⑨は52→51、接合資料⑩は53→54、接合資料⑪は56→55という作業工程が復元される。

接合資料⑦（45～47）

剥片２点と石核1点の接合資料である。作業面を転回→46（打面再生剥片）→剥片剥離→47→二枚の剥片剥離→45（残核）という作業工程が復元される。45は一部に礫面を残す。

剥片類（57～63・65・66）・石核（64・67）

剥片類についてはさまざまな形態のものが確認されている。64は多面体の石核であらゆる面が作業面となっている。67は砂岩製の剥片素材の石核で山形の打面を作り出し、横長剥片を連続して作出する資料である。本資料も瀬戸内技法の影響を受ける資料である。

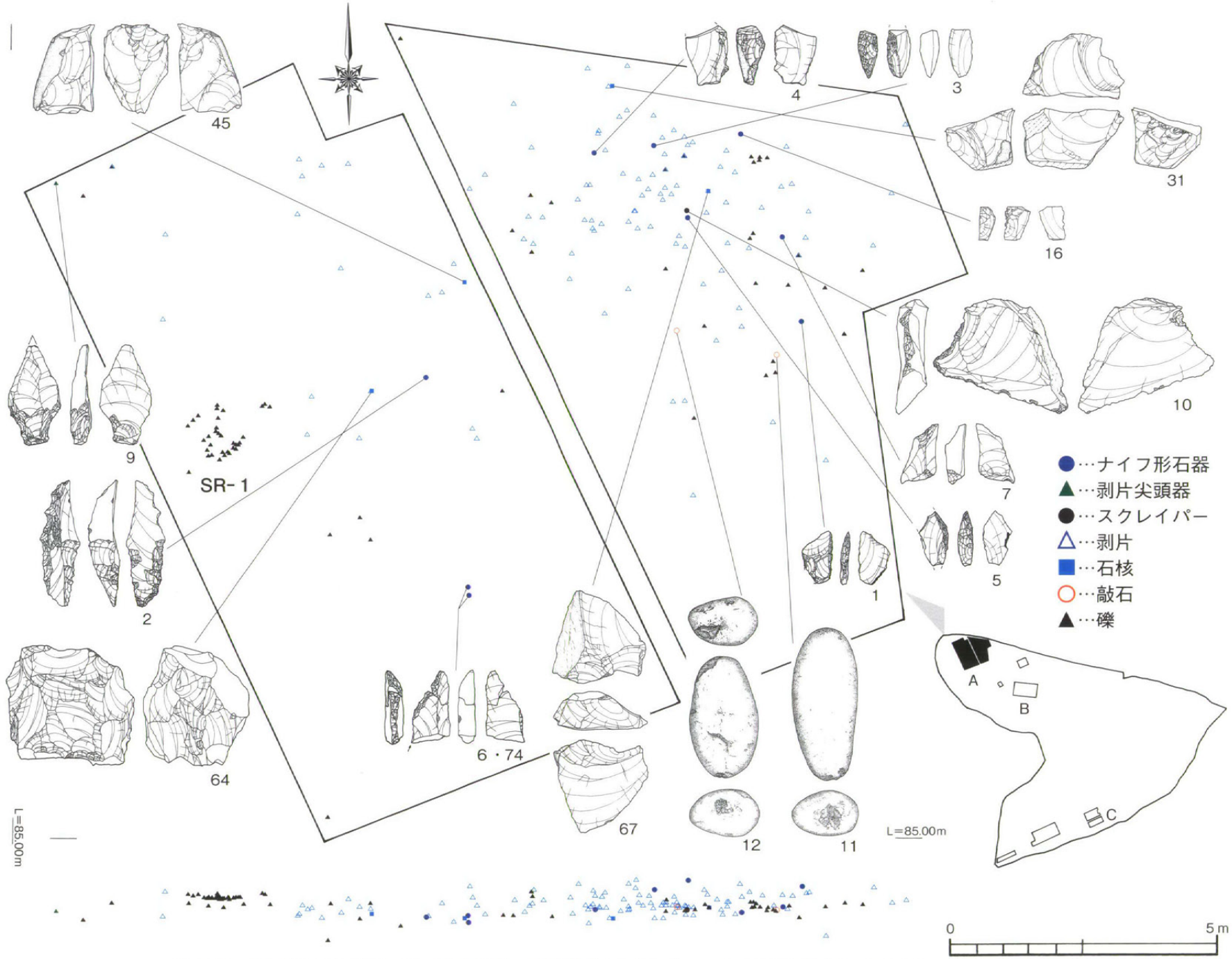
２．Ｂブロックの調査と出土遺物

ＢブロックはＡブロックの南東部に位置する面積約84㎡のトレンチから、礫23点と剥片13点が出土した。礫はトレンチの東側に集中しているが、密にまとまる状況ではない。礫と石器の垂直分布を観察すると約50㎝のレベル差が見られることから礫群と石器群には時期差が有る可能性が考えられる。出土遺物の剥片13点のうち1組が接合資料であった。そのうちの接合資料を含む4点を図示している。

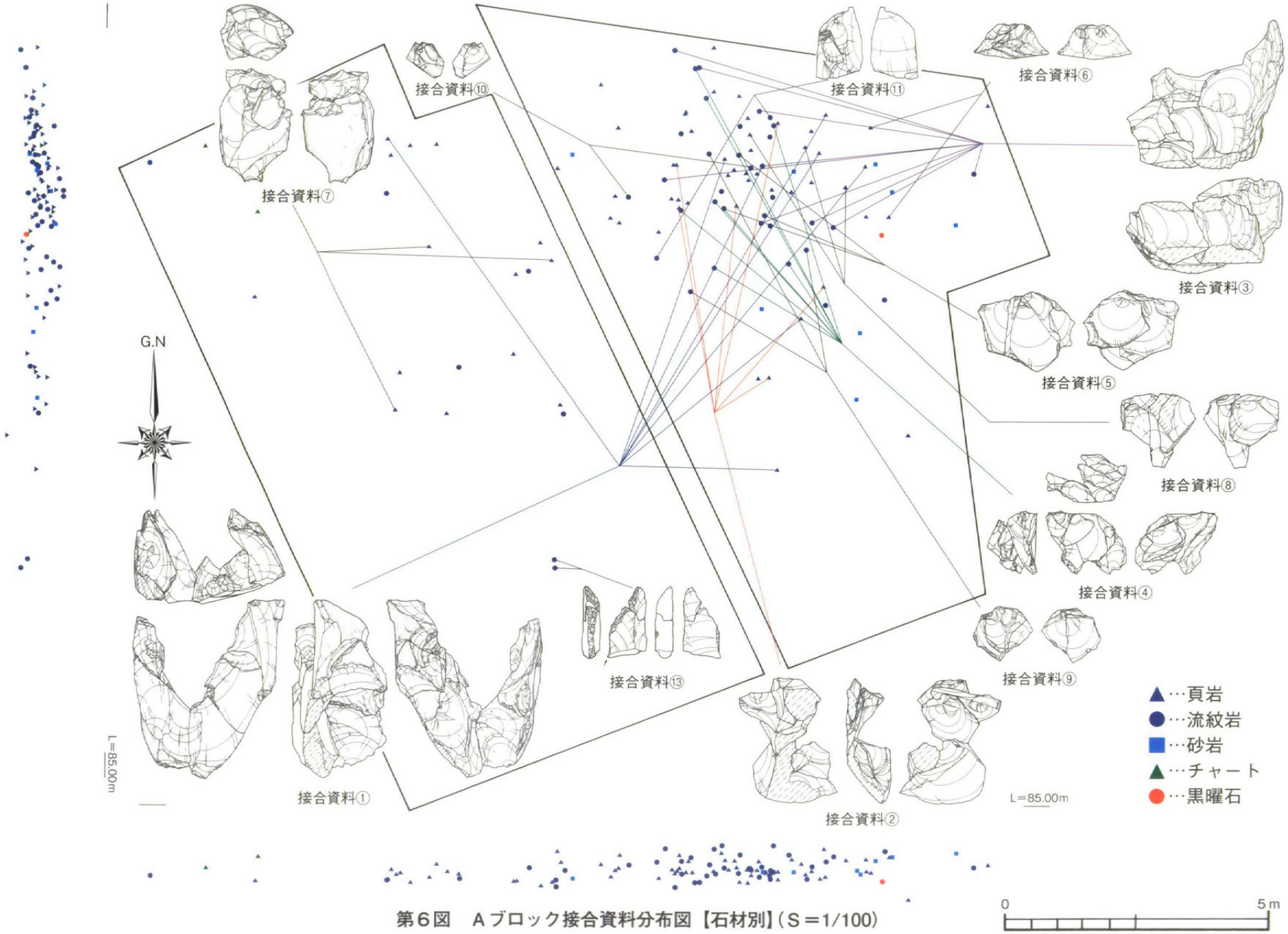
接合資料⑫（68・69）

頁岩製の小規模な縦長剥片２点の接合資料である。69→68の作業工程が復元される。

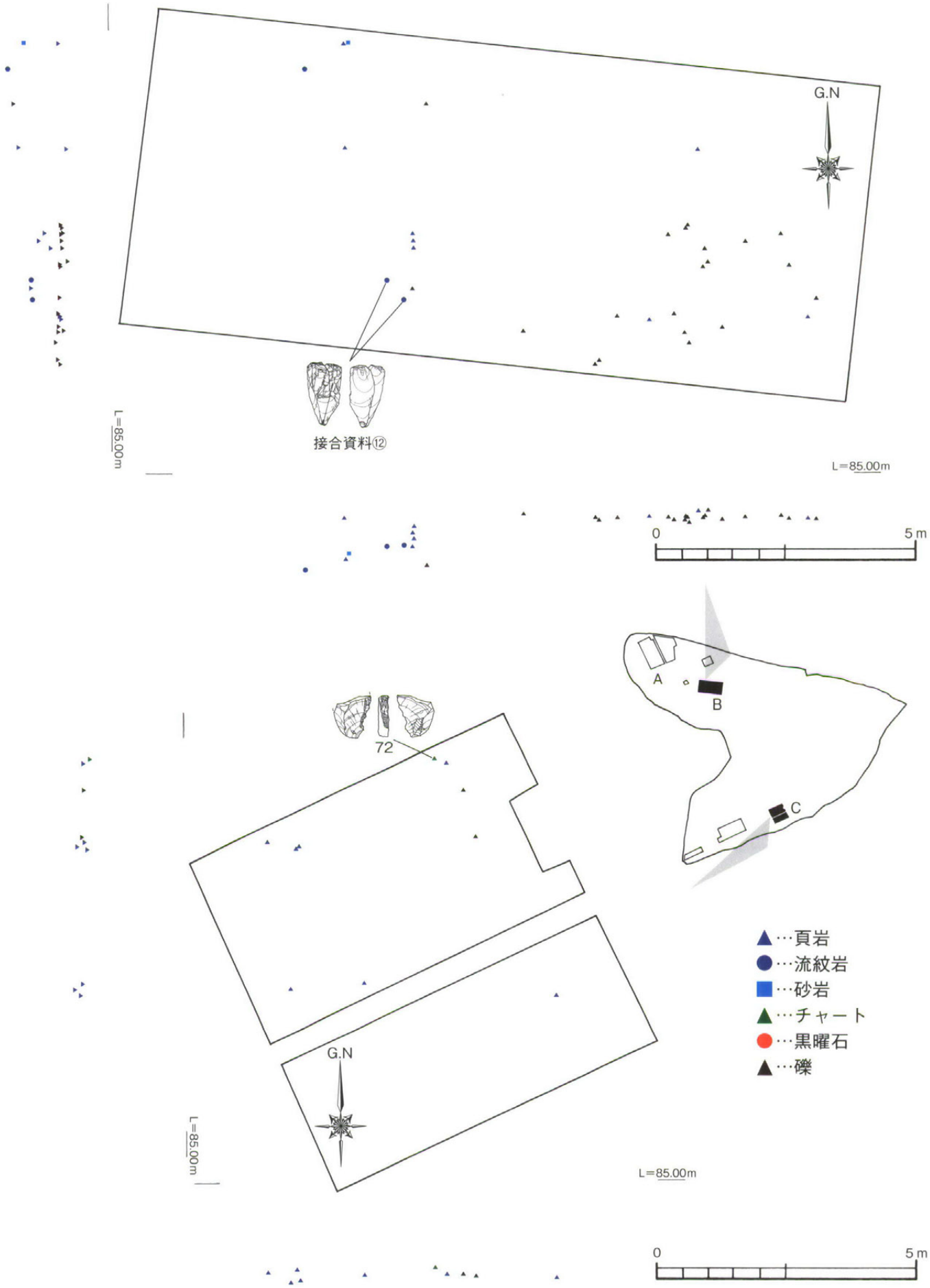
剥片（70・71）



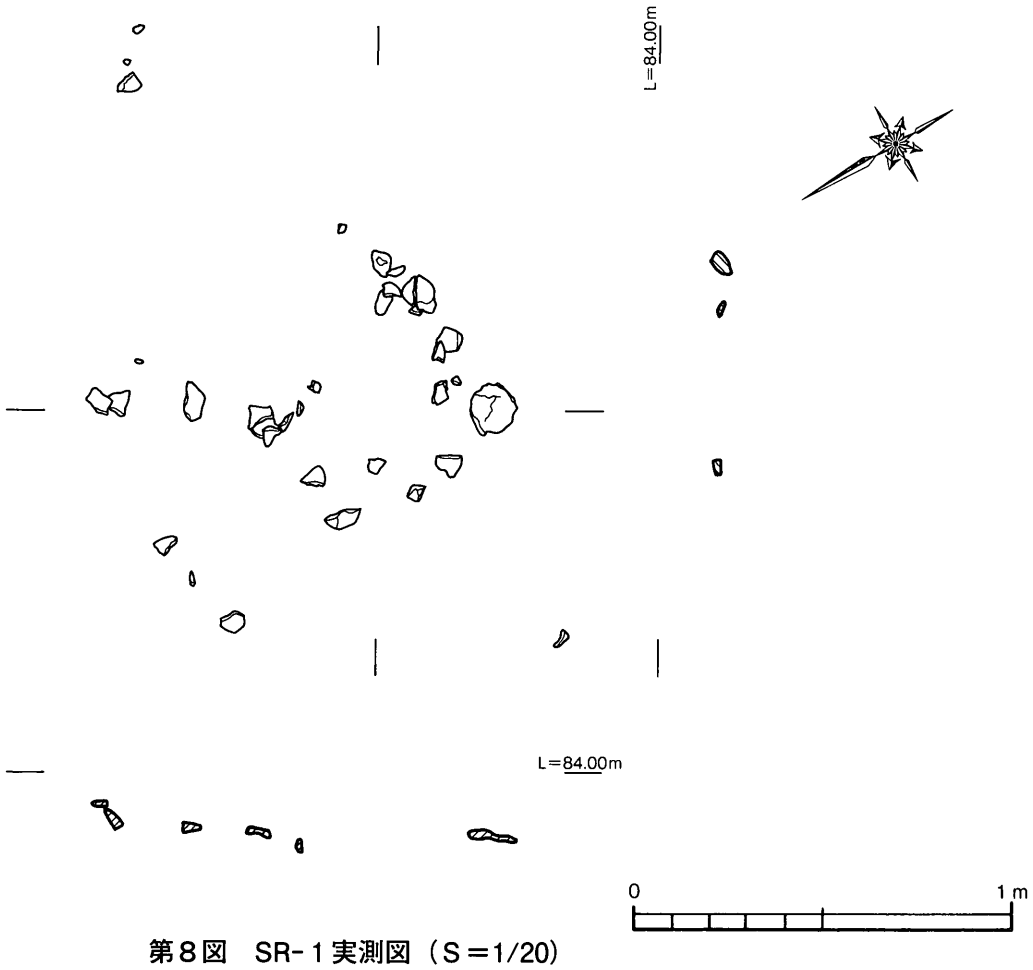
第５図　旧石器時代遺物包含層出土遺物・遺構分布図【Ａブロック：器種別】(Ｓ＝1/100)



第６図　Ａブロック接合資料分布図【石材別】（Ｓ＝1/100）



第７図　旧石器時代遺物包含層出土遺物分布図【Ｂ・Ｃブロック：石材別】(Ｓ=1/100)

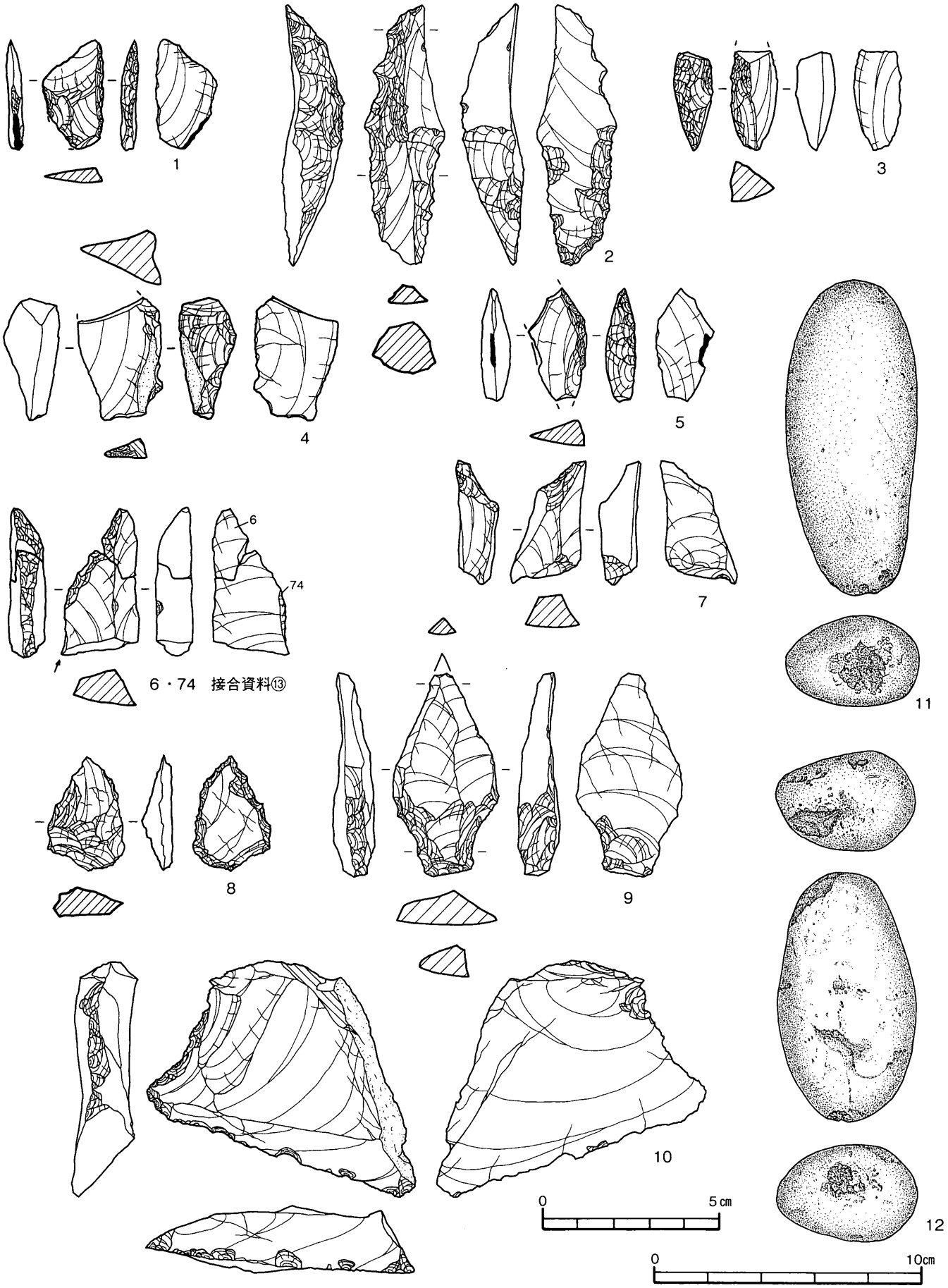


第８図　SR-１実測図（S＝1/20）

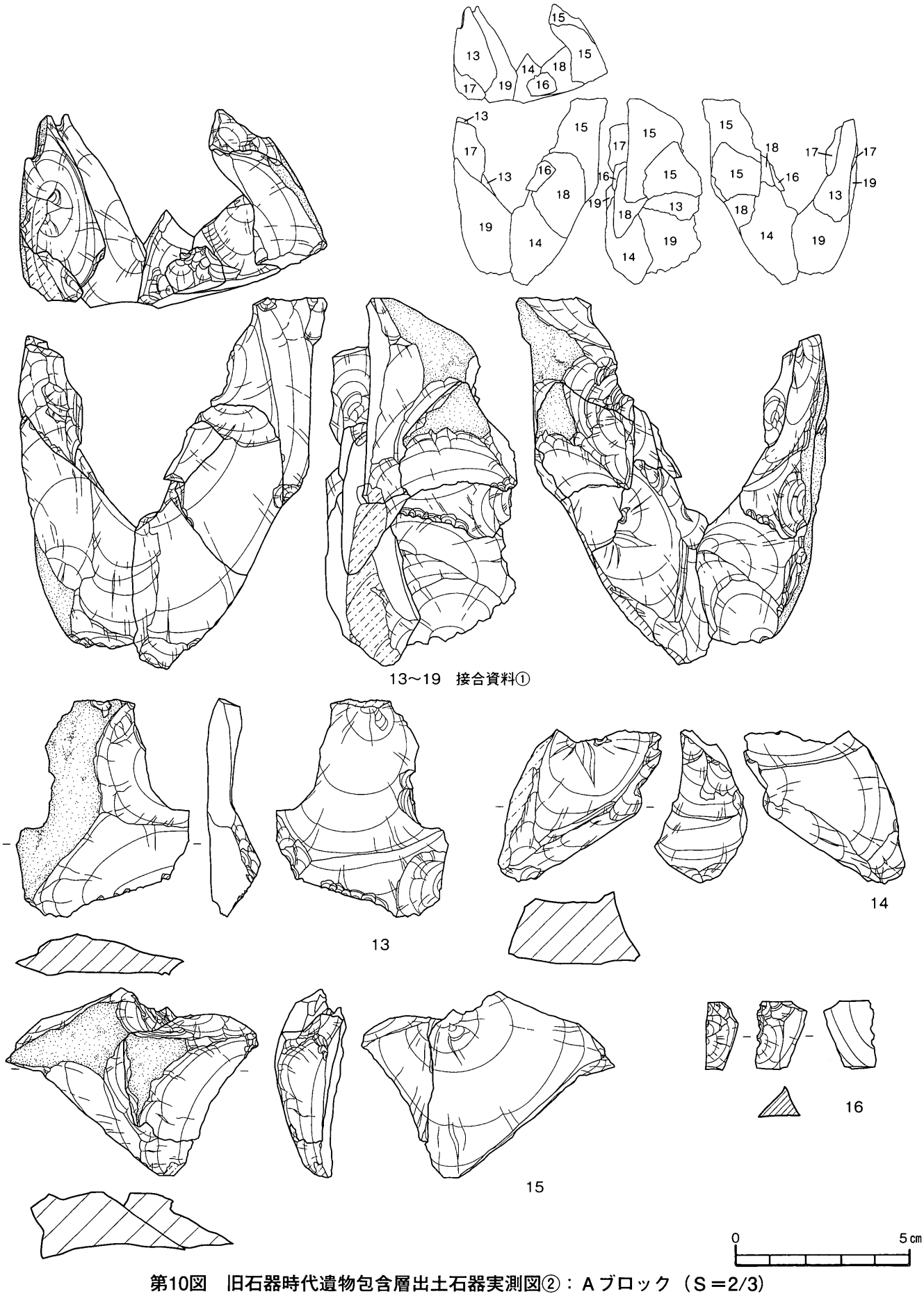
第１表　旧石器（ナイフ形石器文化期）計測分類表

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリット	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
1	425	ナイフ形石器	B 3	Ⅷ	流紋岩	3.0	1.7	0.5	(2.0)	基部欠損
2	1	ナイフ形石器	B 2	X	頁岩	7.2	2.2	1.7	(18.7)	
3	420	ナイフ形石器	B 3	Ⅵ	流紋岩	(2.7)	1.9	1.0	(3.4)	国府型ナイフ･先端部欠損
4	426	ナイフ形石器	B 3	X	流紋岩	(3.4)	2.4	1.6	(8.6)	先端部欠損
5	427	ナイフ形石器	B 3	Ⅷ	頁岩	(3.1)	(1.6)	0.9	(2.8)	先端･基部･刃部欠損
6・74	421	ナイフ形石器	B 2	X	流紋岩	4.2	2.1	1.0	6.8	彫器に転用･接合資料⑬
7	419	ナイフ形石器	B 3	Ⅺ	頁岩	3.4	2.1	1.2	6.1	
8	422	槍先形尖頭器	—	—	粘板岩	3.2	2.2	0.8	4.4	
9	2	剥片尖頭器	B 2	X	流紋岩	(5.7)	3.0	1.2	(13.7)	先端部欠損
10	423	スクレイパー	B 3	Ⅺ	頁岩	6.6	7.55	1.9	74.3	
11	407	敲石	B 3	Ⅺ	砂岩	11.6	5.4	3.5	251.1	
12	408	敲石	B 3	Ⅺ	砂岩	9.2	5.15	3.7	235.6	
13	77	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	6.0	5.0	1.5	24.9	接合資料①
14	76	石核	B 3	X	頁岩	4.3	4.6	2.6	35.5	接合資料①
15	75	剥片	B 3	X	頁岩	5.3	7.2	2.0	50.7	接合資料①
16	80	ナイフ形石器	B 3	Ⅺ	頁岩	(1.9)	(1.5)	0.9	(2.5)	接合資料①国府型？
17	78	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	3.1	3.4	1.7	9.5	接合資料①
18	74	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	5.3	3.3	2.2	25.4	接合資料①
19	79	剥片	B 2	X	頁岩	7.1	5.9	2.3	69.4	接合資料①
20	107	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	2.3	2.3	0.7	2.4	接合資料②
21	102	石核	B 3	Ⅺ	頁岩	4.0	5.0	2.5	27.5	接合資料②
22	105	剥片	B 3	Ⅶ	頁岩	3.2	4.0	1.0	7.3	接合資料②

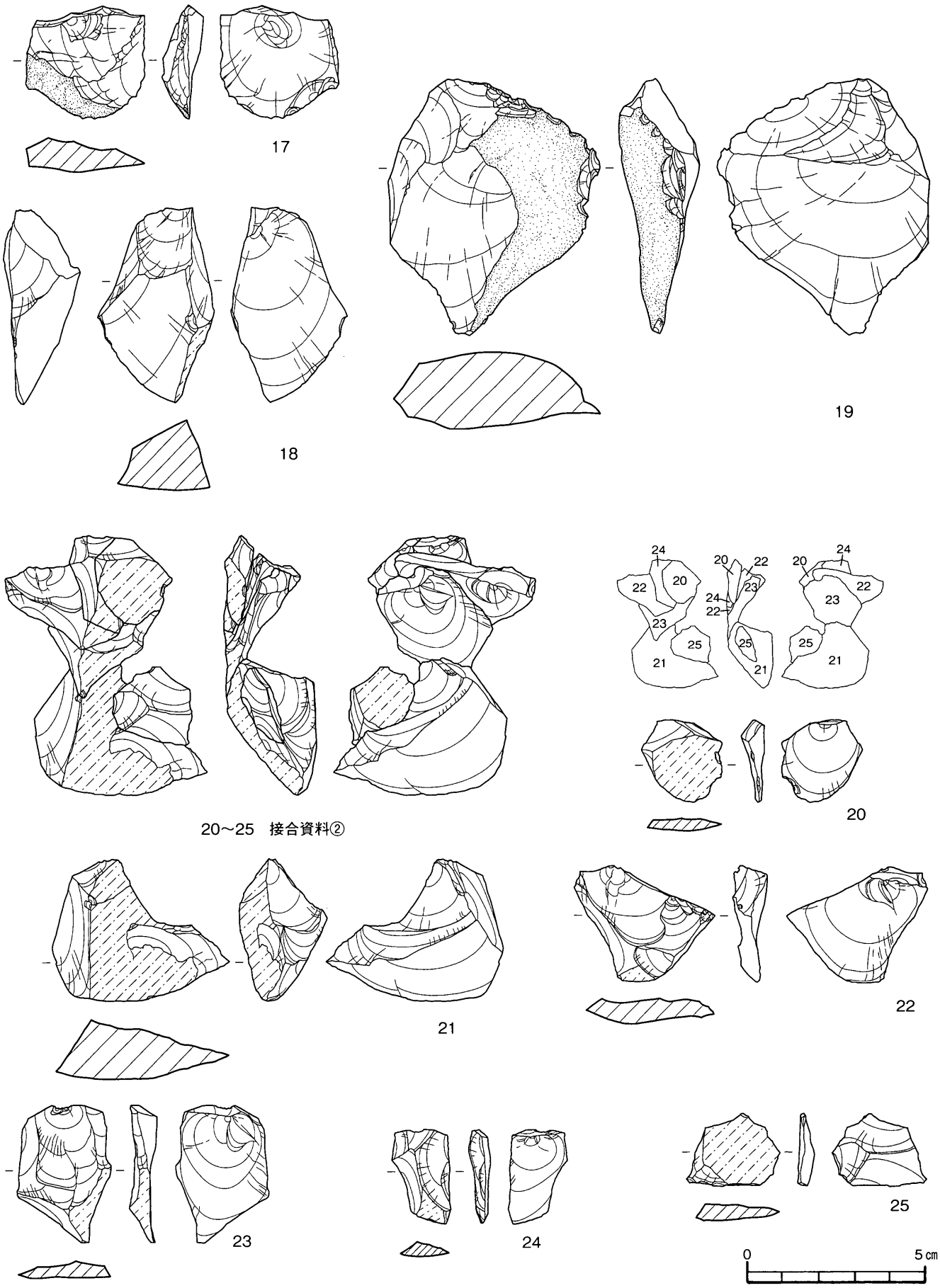
（　　）の値は残存値を示す



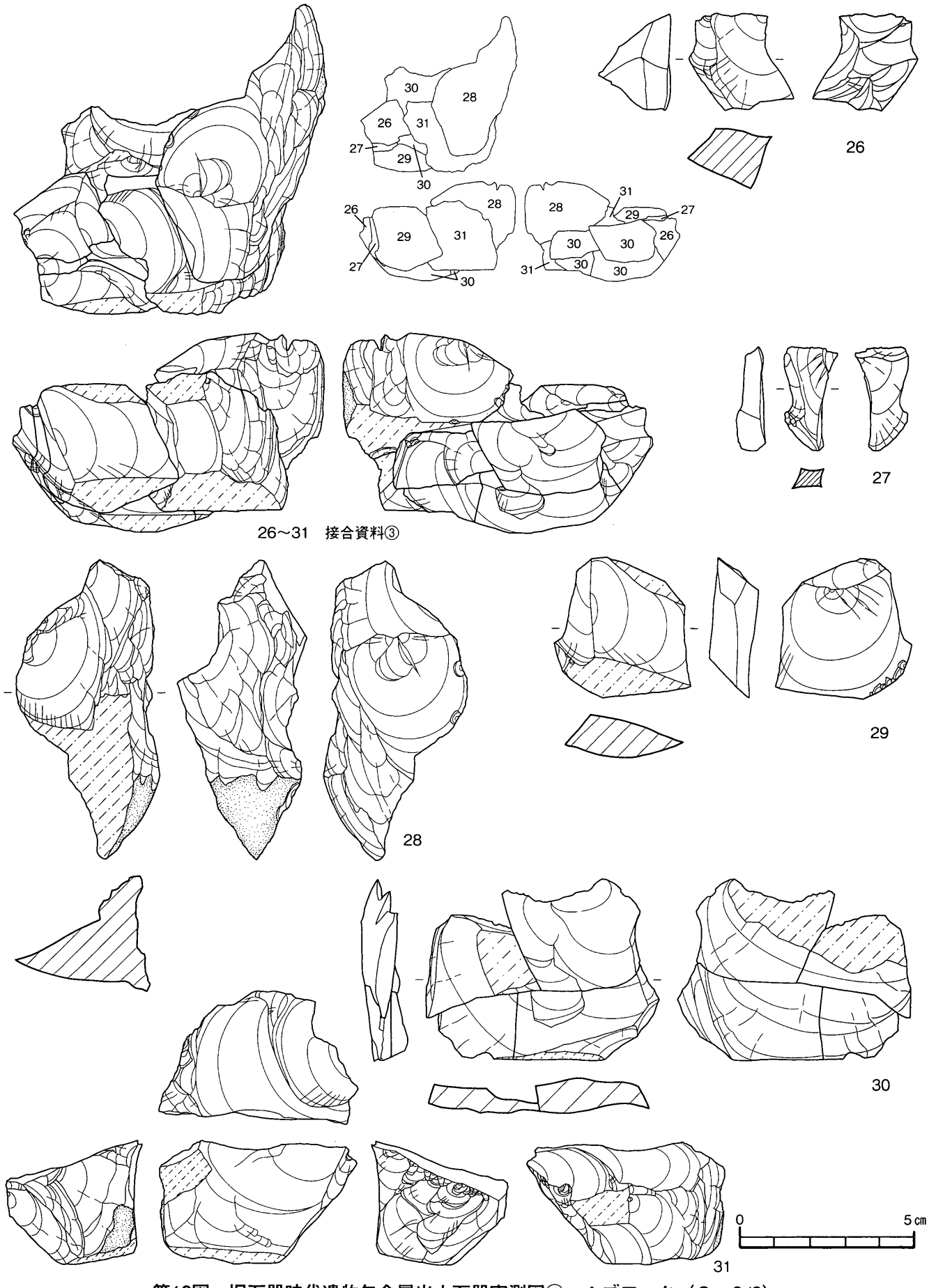
第９図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図①：Ａブロック・出土位置不明（Ｓ＝2/3・1/2）



第10図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図②：Aブロック（S＝2/3）

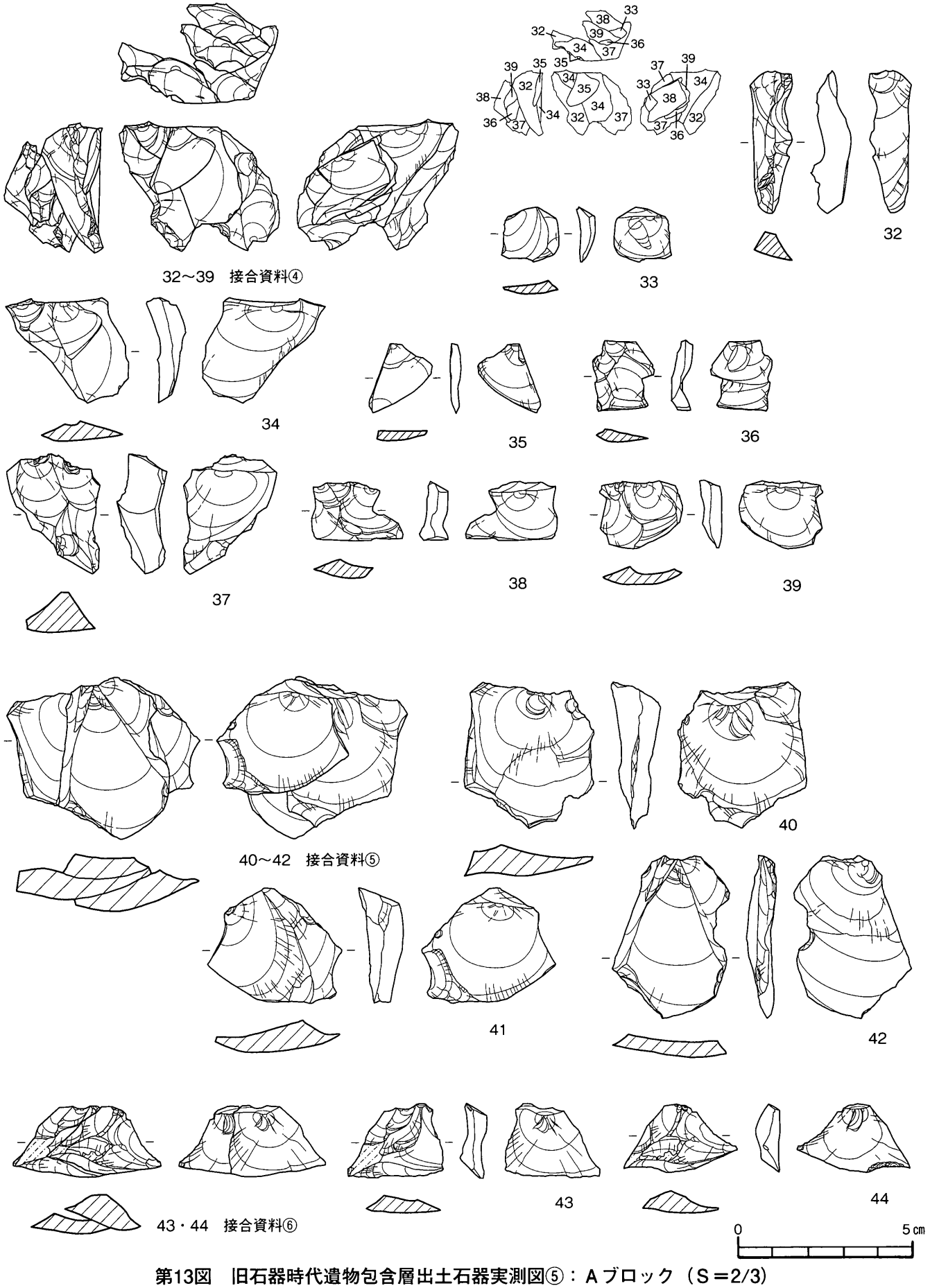


第11図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③：Aブロック（S＝2/3）

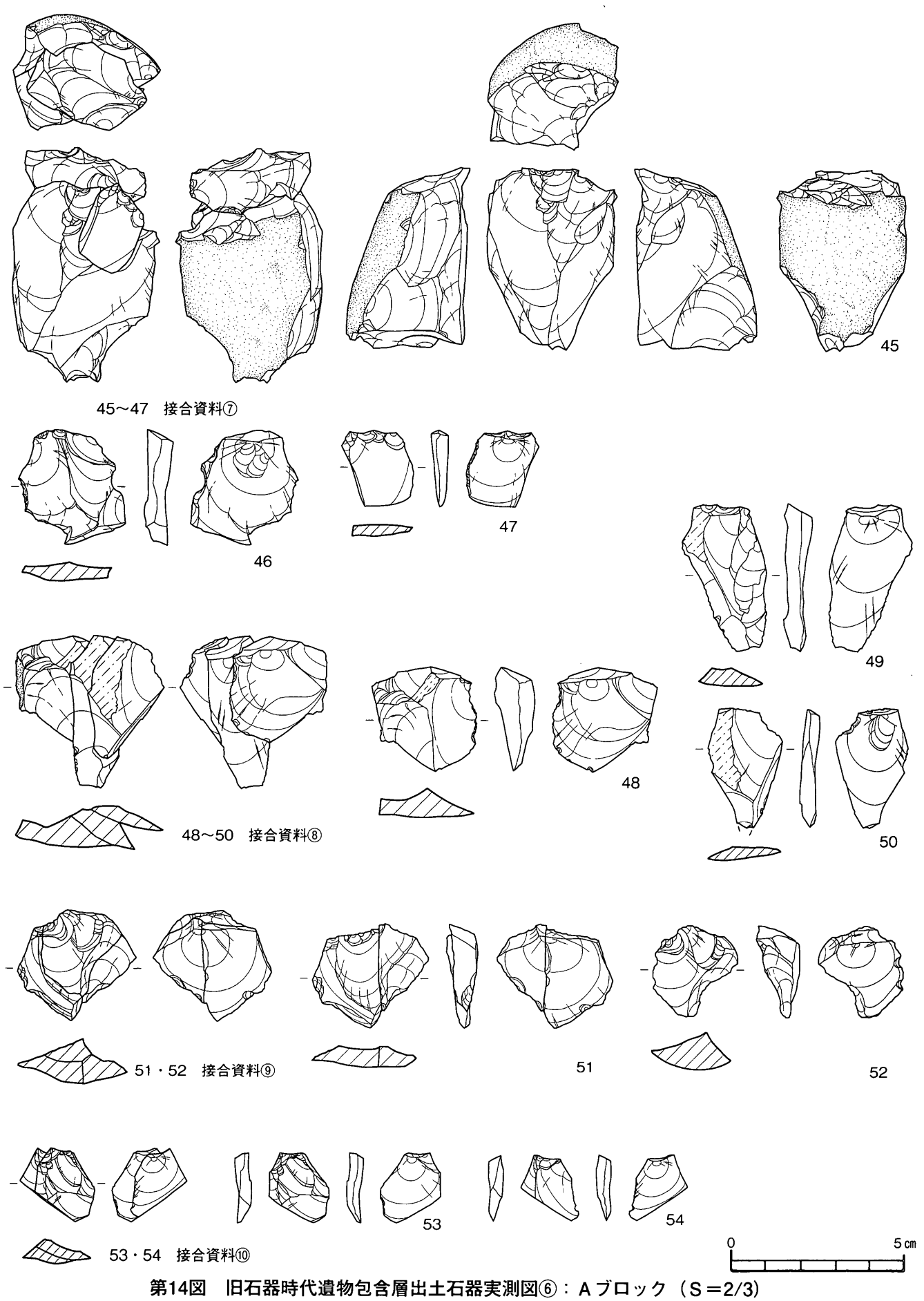


26～31　接合資料③

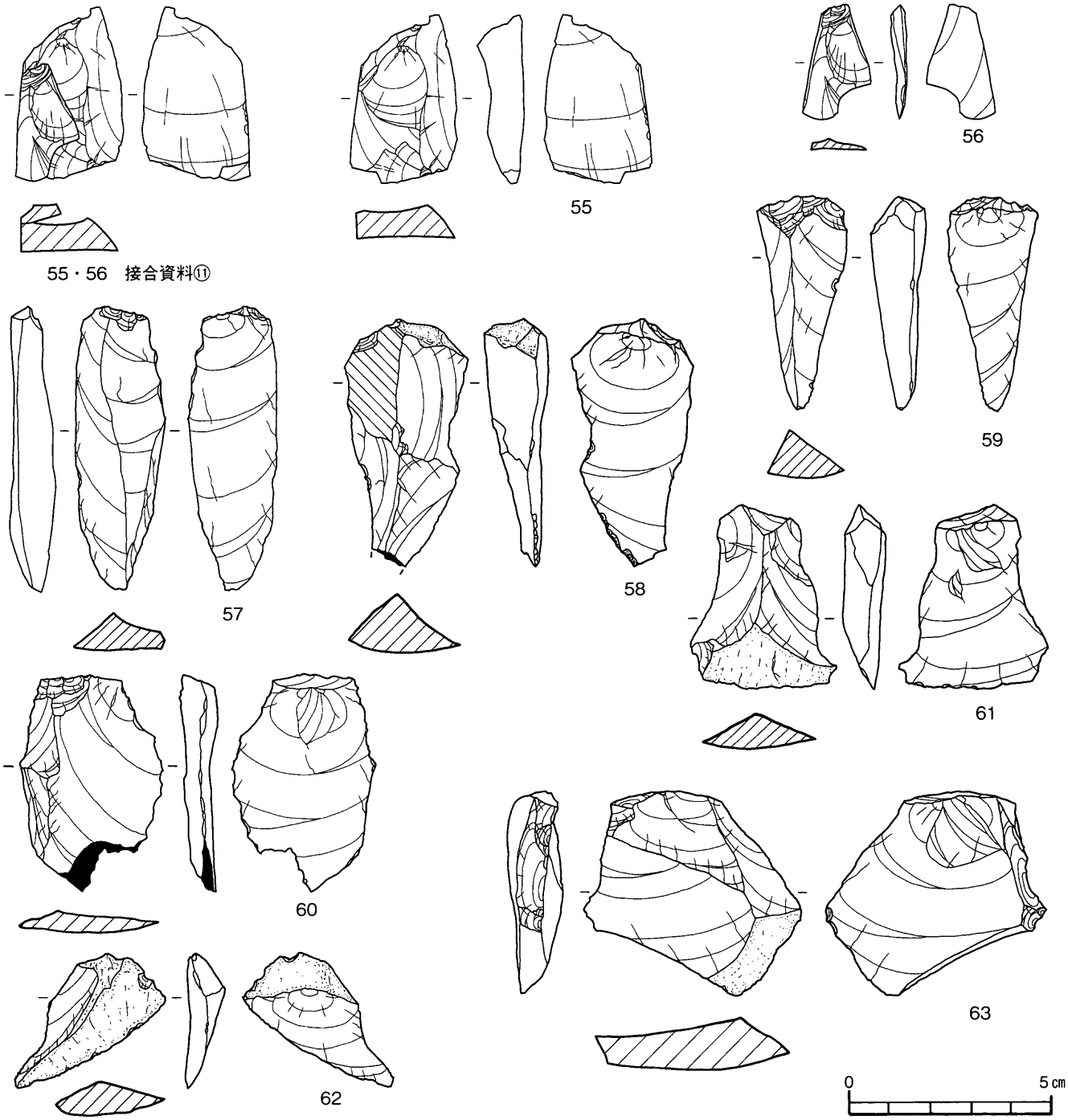
第12図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④：Aブロック（S＝2/3）



第13図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤：Aブロック（S＝2/3）



第14図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥：Aブロック（S＝2/3）



第15図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑦：Ａブロック（Ｓ＝2/3）

70は白色の流紋岩？製の剥片で、71は砂岩製の縦長剥片である。平面形が逆三角形を呈する。

３．Ｃブロックの調査と出土遺物

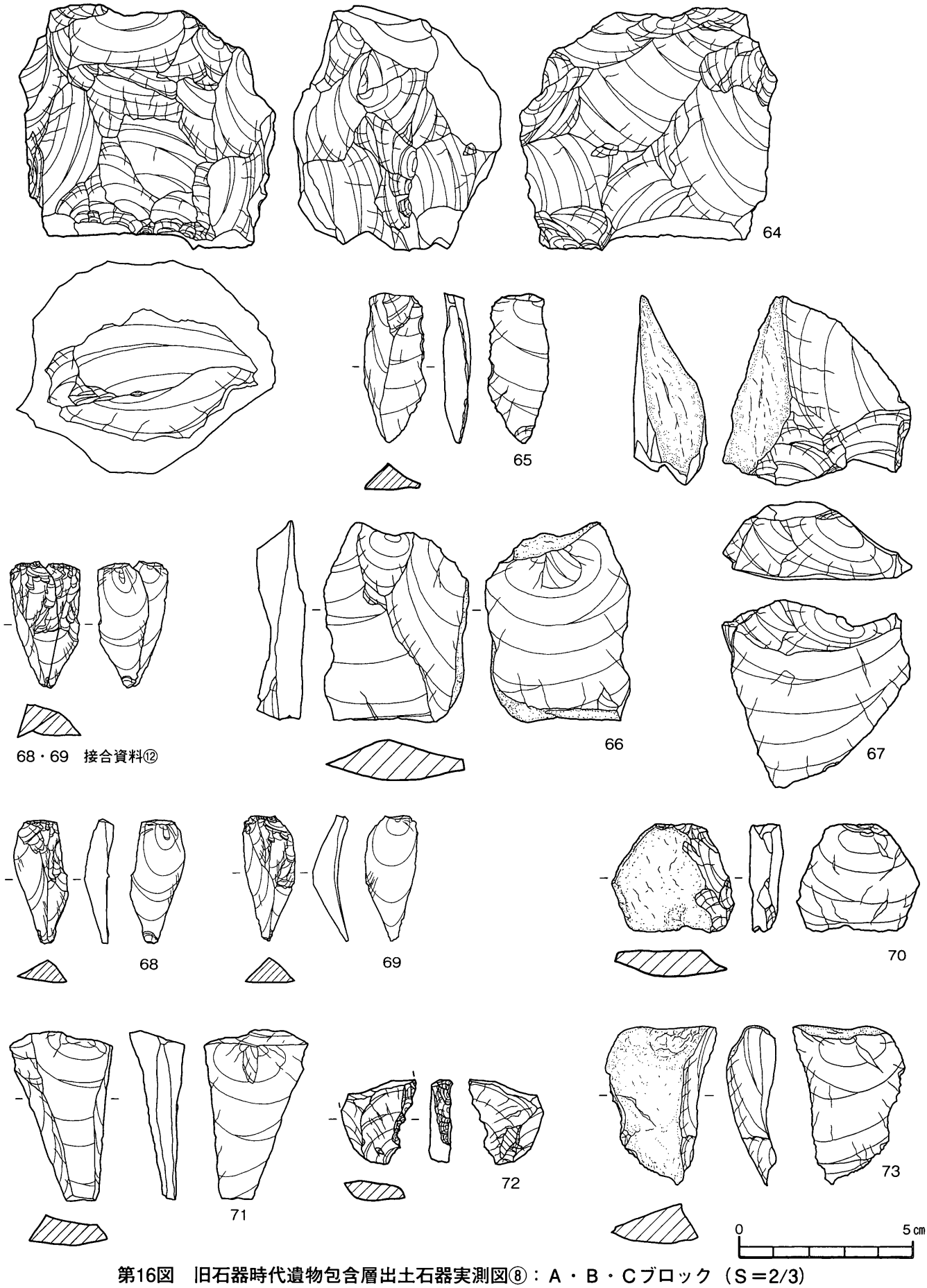
Ｃブロックは調査区南側の２本のトレンチ（約41㎡）より礫３点とスクレイパー１点、剥片が10点出土した。礫群と石器群の垂直分布からはレベル差を感じさせない。出土遺物のスクレイパーと剥片1点を図示している。

スクレイパー（72）

チャート製の不整形な剥片を素材とし、片縁に刃部調整を施す。上部は欠損している。

剥片（73）

73は頁岩製の縦長剥片で、背面に自然面を有する。

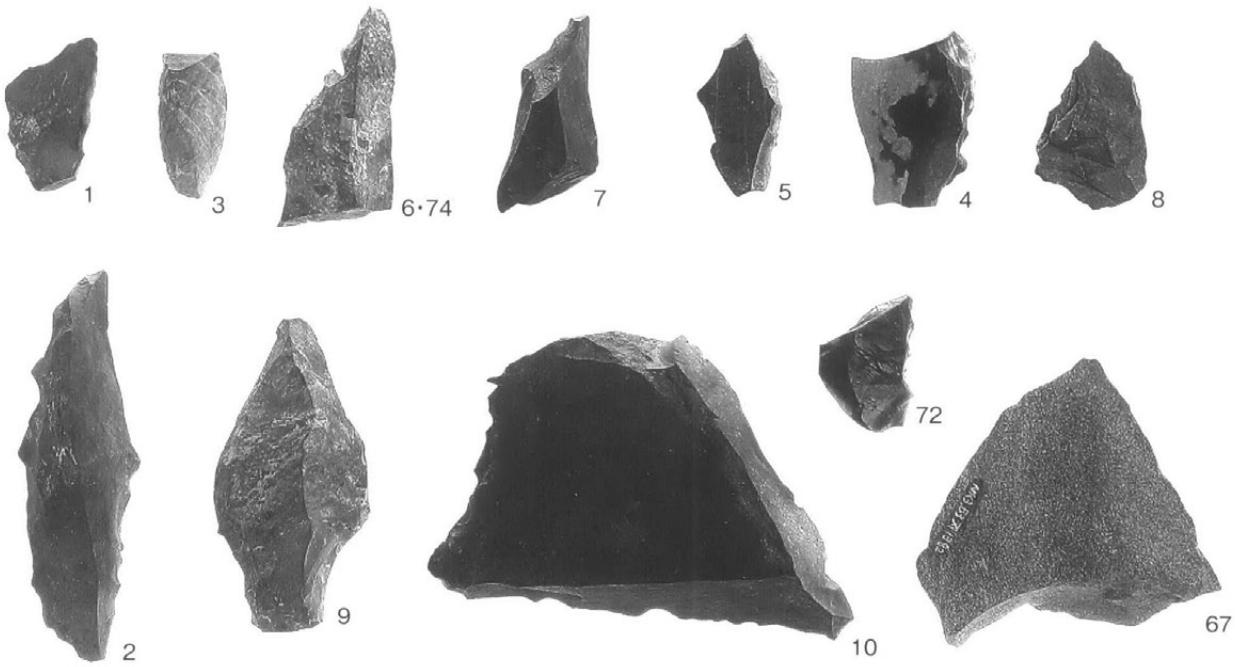


第16図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧：Ａ・Ｂ・Ｃブロック（Ｓ＝2/3）

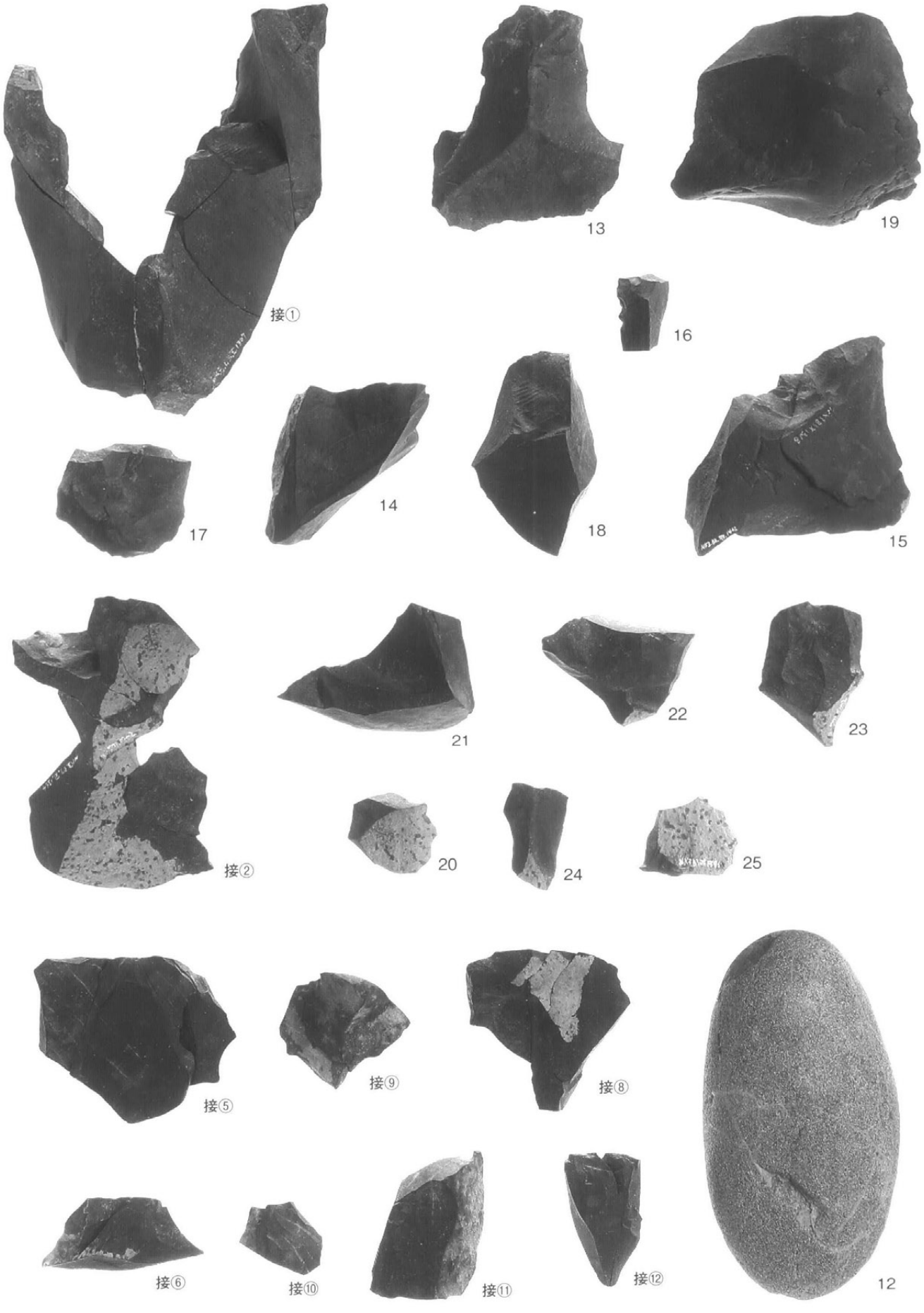
遺物No.	整理No.	器　種	出土グリット	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
23	104	剥片	B 3	Ⅷ	頁岩	3.8	2.6	0.8	6.0	接合資料②
24	106	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	2.7	1.7	0.6	2.4	接合資料②
25	103	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	2.0	2.6	0.5	2.2	接合資料②
26	86	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	2.7	3.1	2.1	11.67	接合資料③
27	85	剥片	B 3	Ⅷ	流紋岩	2.9	1.5	0.8	2.63	接合資料③
28	87	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	8.4	4.1	3.72	68.77	接合資料③
29	84	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	3.95	3.9	1.4	18.3	接合資料③
30	83	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	5.2	6.6	1.9	36.47	接合資料③
31	82	石核	B 3	Ⅹ	流紋岩	3.55	5.6	4.2	69.15	接合資料③
32	96	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	4.0	1.22	1.12	3.48	接合資料④
33	99	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	1.52	1.67	0.55	1.01	接合資料④
34	93	剥片	B 3	Ⅶ	流紋岩	2.92	3.52	1.1	5.95	接合資料④
35	94	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	1.93	1.81	0.32	0.82	接合資料④
36	97	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	1.98	1.78	0.62	1.57	接合資料④
37	95	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	3.34	2.68	1.4	7.57	接合資料④
38	100	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	1.65	2.63	0.8	2.68	接合資料④
39	98	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	1.89	2.33	0.65	2.32	接合資料④
40	114	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	4.15	3.7	1.5	14.0	接合資料⑤
41	113	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	3.25	3.8	0.9	10.1	接合資料⑤
42	115	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	4.6	3.3	0.9	9.4	接合資料⑤
43	117	剥片	B 3	Ⅹ	頁岩	2.1	2.7	0.7	3.1	接合資料⑥
44	118	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	1.9	3.3	0.7	3.0	接合資料⑥
45	89	石核	B 3	Ⅹ	頁岩	5.15	3.48	3.55	67.8	接合資料⑦
46	91	剥片	B 3	Ⅹ	頁岩	3.22	3.1	0.85	5.8	接合資料⑦
47	90	剥片	B 3	Ⅺ	頁岩	2.15	2.1	0.5	2.1	接合資料⑦
48	109	剥片	B 3	Ⅹ	頁岩	2.9	3.0	1.1	7.9	接合資料⑧
49	111	剥片	B 3	Ⅹ	頁岩	4.15	2.4	0.8	6.1	接合資料⑧
50	110	剥片	B 3	Ⅹ	頁岩	3.4	2.1	0.6	3.4	接合資料⑧
51	130	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	3.0	3.3	0.9	5.8	接合資料⑨
52	129	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	2.6	2.4	1.2	4.8	接合資料⑨
53	124	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	2.0	1.8	0.5	1.3	接合資料⑩
54	123	剥片	B 3	Ⅹ	流紋岩	1.9	1.7	0.5	0.8	接合資料⑩
55	126	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	4.05	2.65	1.2	11.9	接合資料⑪
56	127	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	2.8	1.7	0.4	1.3	接合資料⑪
57	406	剥片	B 2	Ⅹ	流紋岩	6.9	2.3	1.0	10.9	
58	410	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	(6.0)	3.05	1.6	(17.9)	下端部欠損
59	403	剥片	B 2	Ⅹ	頁岩	5.15	2.25	1.3	8.8	
60	402	剥片	B 2	Ⅹ	流紋岩	(5.35)	3.6	0.9	(12.0)	下端部欠損
61	412	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	4.5	3.6	1.1	11.3	
62	413	剥片	B 2	Ⅺ	流紋岩	3.3	3.7	1.0	4.6	
63	411	剥片	B 3	Ⅺ	流紋岩	5.05	5.4	1.35	29.8	２次加工有
64	64	石核	B 2	Ⅹ	流紋岩	6.8	7.4	6.0	251.7	
65	405	剥片	B 3	Ⅹ	砂岩	4.2	1.8	0.8	4.2	
66	409	剥片	B 3	Ⅺ	砂岩	5.65	4.15	1.45	29.7	
67	424	石核	B 3	Ⅺ	砂岩	2.2	5.4	5.3	41.5	瀬戸内技法の影響
68	120	剥片	C 3	Ⅹ	流紋岩	3.5	1.6	0.8	2.7	接合資料⑫
69	121	剥片	C 3	Ⅹ	流紋岩	3.5	1.5	1.1	2.9	接合資料⑫
70	416	剥片	C 3	Ⅺ	流紋岩	3.05	3.5	0.95	9.5	
71	414	剥片	C 3	Ⅺ	砂岩	4.8	2.95	1.6	11.1	
72	418	スクレイパー	F 3	Ⅺ	チャート	2.4	2.15	0.65	2.8	上半部欠損
73	404	剥片	F 3	Ⅹ	頁岩	4.55	3.2	1.4	16.4	

(　　) の値は残存値を示す

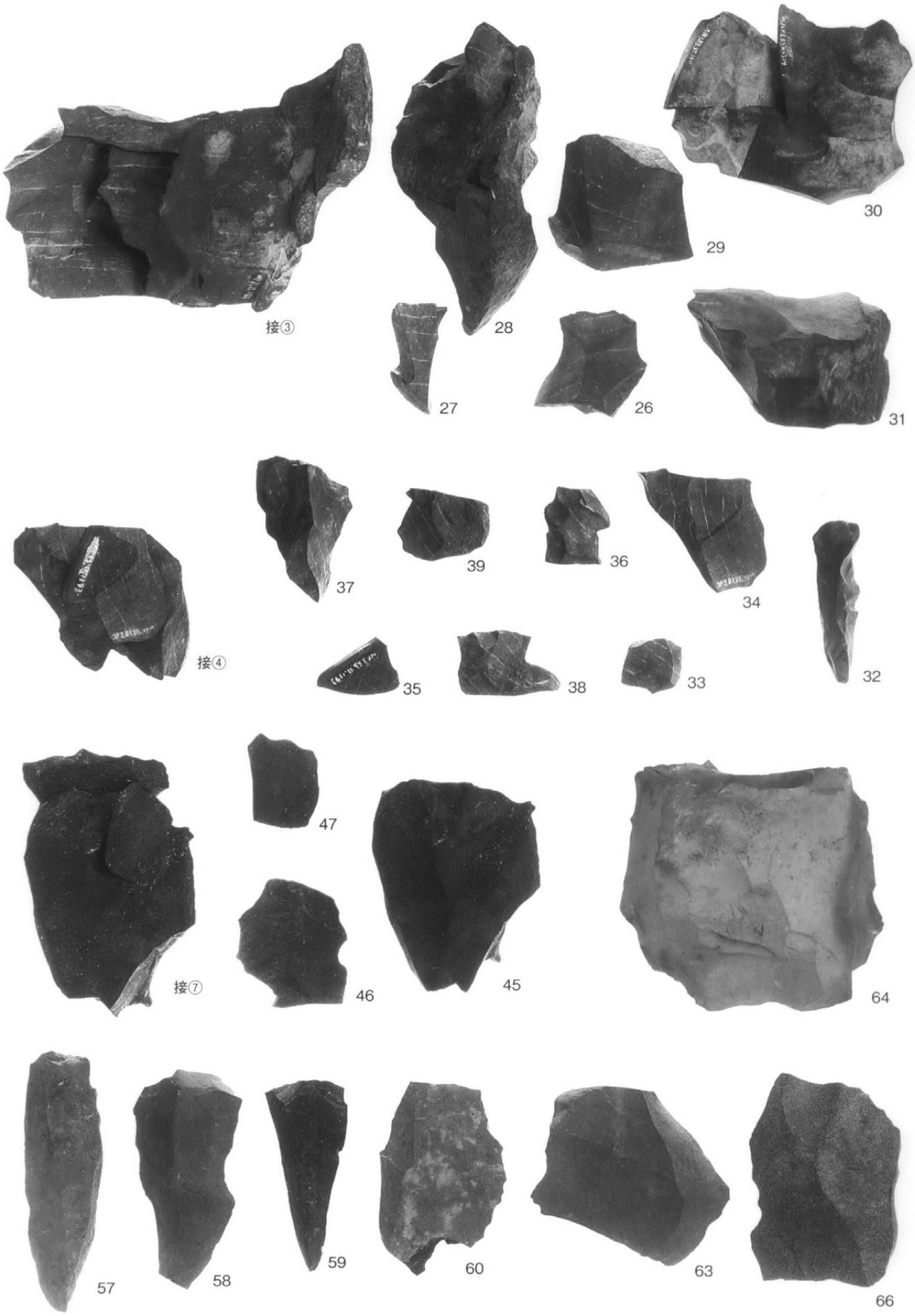
写真図版１　SR－１



写真図版２　旧石器時代遺物包含層出土石器①



写真図版３　旧石器時代遺物包含層出土石器②



写真図版４　旧石器時代遺物包含層出土石器③

2nd Period

第Ⅲ章　縄文時代早期についての調査

第1節　遺　　構

1．集石遺構

今回の調査においては、36基の集石遺構が確認された。

【検出状況】

①既に縄文時代早期の遺物包含層が（Ⅴ層～Ⅵ層にかけて）露出している範囲において、一部破壊された状態で検出された。(SI-7・9やSI-1など)

②Ⅴ層及びⅥ層の掘り下げ作業を行っていると、焼礫が数㎡～数10㎡の範囲に集中して出土する範囲が4ヶ所確認され、その集中範囲を丁寧に精査したところ集石遺構が検出された。(SI-20やSI-15など)

③Ⅴ層及びⅥ層の掘り下げ作業を行っていると、焼礫が幾つか集中する範囲が確認され、丁寧に精査したところ集石遺構が検出された。(SI-19など)

④Ⅴ層及びⅥ層の掘り下げ作業を行っていると、黒いシミが円形に広がる範囲が確認され、その黒い部分を丁寧に精査したところ集石遺構が確認された。(SI-13など)

【作　　図】

調査期間などの諸条件を考慮して、集石遺構が使用礫･掘り込みともに「平面図」＋「両断面図」、という内容で作成した。

SI-34（＊縄文時代草創期の集石遺構。当遺跡唯一の縄文時代草創期の集石遺構であるため、今回は早期の集石遺構と同項で紹介することとする。）

Ⅷ層（霧島小林軽石風化層）上面で検出された。約1.2㎡の円形の範囲に焼礫が平面的にやや集中して分布していた。使用されている礫は角礫や亜角礫が多く、宮崎層群が起源と推測されるものも一部含まれていた。焼礫が分布している範囲の下位はやや黒ずんでいたが、掘り込み等は確認されていない。尚、焼礫下位から採取された炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は11530±90年BPという結果が得られた。

SI-1

Ⅵ層中位で検出された。平面が不整形の円形で断面が浅皿状の掘り込みを有する（＊平面が不整形なのは、プランの確認作業が不十分だったからではないか)。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。埋土については炭化粒や炭化材（直径5㎝程のものも有った）を含んだ茶黒色土で、掘り込み上位に比べて下位の方が多く炭化材を含んでいた。尚、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は9870±70年BPという結果が得られている。

SI-28

Ⅵ層中位で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有する。掘り込みの容量など遺構の規模を他の集石遺構と比較するとかなり小型といえる。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く（使用回数は少ないように推測されるが断定はできない)、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。埋土については炭化粒を含んだ茶黒色土で、その中から採取された炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は9620±70年BPという結果が得られている。

SI-32

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや疎であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は9530±70年BPという結果が得られている。

SI-26

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（廃棄された磨石も数点含まれていた）、掘り込みに対しての充填状況はやや密で、焼礫が掘り込みの中央付近に集中していた。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、やや粘性のある土質であった。尚、その中から採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は9430±70年BPという結果が得られている。

SI-25

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は9000±70年BPという結果が得られている。

SI-21

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面が緩やかなＶ字状の掘り込みを有する。使用礫は円礫や角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土であるが、炭化材が他の集石遺構よりも多く含まれていた。尚、その中から採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8970±70年BPという結果が得られている。

SI-35

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8770±80年BPという結果が得られている。

SI-31

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや疎であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8420±70年BPという結果が得られている。

SI-7・9

耕作地の段差の部分で検出されたため、遺構の半分は既に破壊されていた。又、検出範囲はⅥ層中位まで既に削平されていたため、遺構の上部もかなり破壊されているものと推測される。

SI-7は平面が円形（半分から推測して）で断面が浅皿状の掘り込みを有する。使用礫は亜角礫や角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は極めて疎であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8410±60年BPという結果が得られている。

SI-9はプラン・埋土ともにSI-7とほぼ同様であるが、埋土中に含まれる炭材材がSI-7と比較するとやや少なめで、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8320±70年BPという結果が得られている。

尚、SI-7とSI-9の新旧関係については、先述の分析結果に加え調査時の断面確認でもSI-7が先に使用されたことが明らかになっている。

SI-6

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面がＶ字状の掘り込みを有し、その容量は当遺跡で最大である。使用礫は亜円礫や亜角礫がほとんどであるが、他の集石遺構と比較すると破損が少ない焼礫が多く充填されている。SI-6を除いた35基で使用されている焼礫の平均数量と平均総重量が164個で15kgであるのに対し、この集石遺構では2,635個で610.6kgの焼礫が使用されており、掘り込みの規模も含めて当遺跡最大の集石遺構と

いえる。又、掘り込みの底部には人頭大の平らな礫が２段（上段は１個で下段は３個）配置されていたが、２段の底石の配置は当台地上において極めて稀な検出事例である。埋土については炭化粒や炭化材を多く含んだ茶黒色土であるが、炭化材が他の集石遺構よりも多く含まれていた。尚、その中から採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8330±60年BPという結果が得られている。

SI-8

Ⅵ層下位まで既に露出していた範囲において検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は密であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8310±70年BPという結果が得られている。

SI-29

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8210±70年BPという結果が得られている。

SI-10

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は亜角礫や角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。埋土については炭化粒や炭化材を含んだ茶黒色土で、その炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は7780±60年BPという結果が得られている。

SI-13

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった（使用礫の数量と総重量はSI-６に続き２番目）。又、埋土については炭化粒を含む茶褐色土であった。

SI-15

Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は亜角礫や角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況は疎であった。又、埋土については炭化粒を含む茶褐色土であった。

SI-11･14, SI-16･17

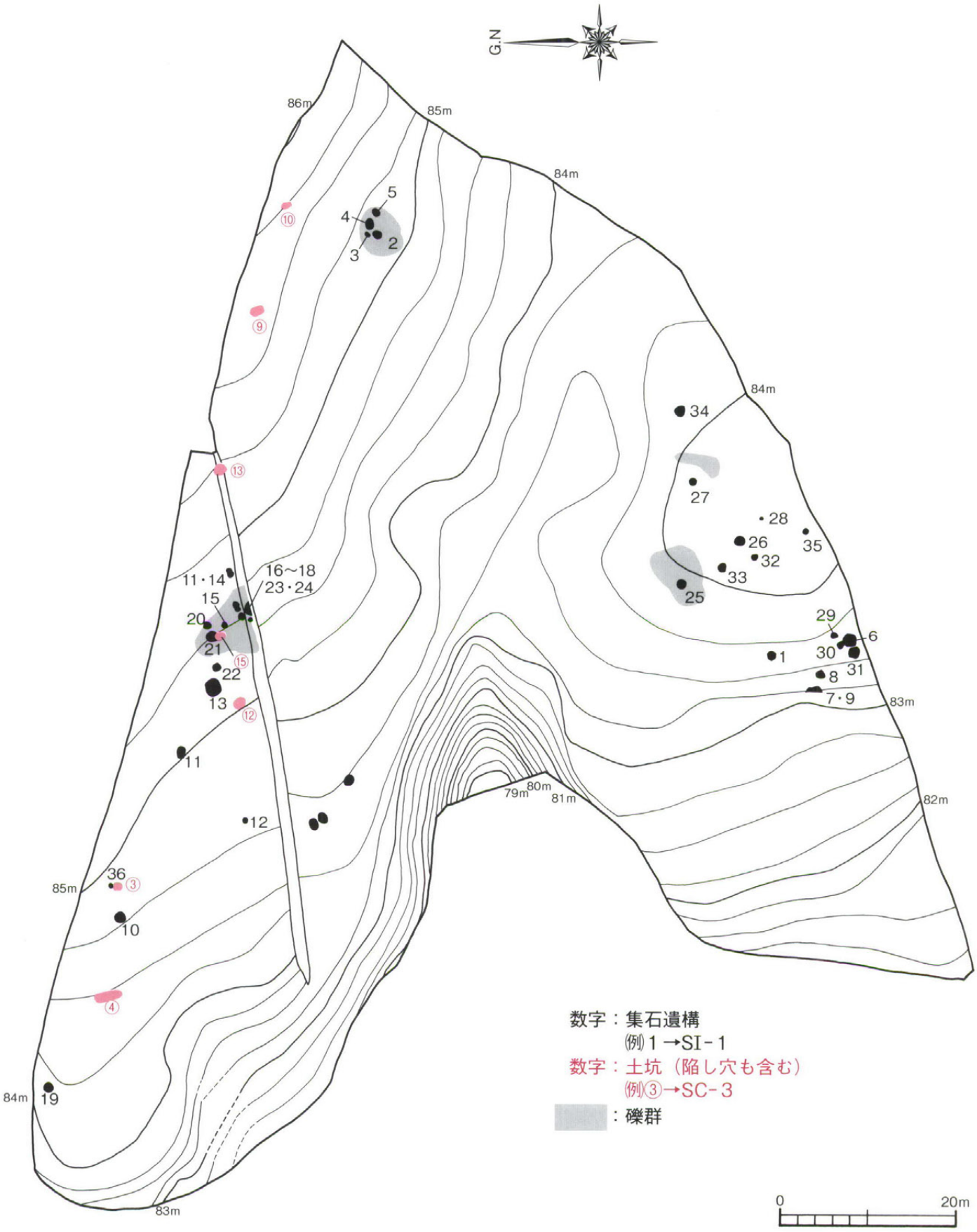
Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、亜円礫や亜角礫がやや疎な状態で充填されていた集石遺構と掘り込みを有しない集石遺構とを、なんらかの関連性があると判断しセットで調査したが、いずれも互いの関係は確認できなかった。

SI-２～５, 18, 20, 22, 24, 27, 30

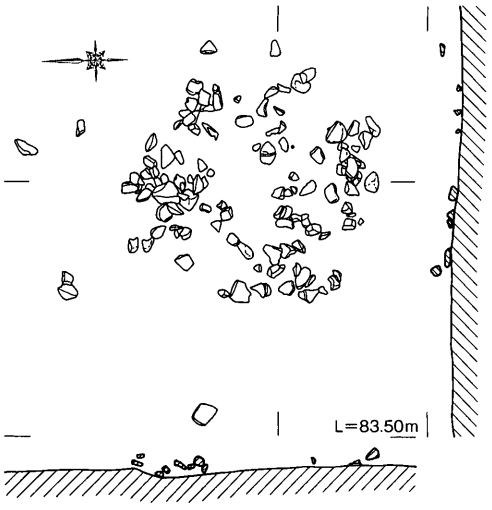
Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。いずれの集石遺構も平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は亜角礫や角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや疎もしくは疎であった。又、埋土については炭化粒を含む茶褐色土であった。

SI-12・19・23・33・36

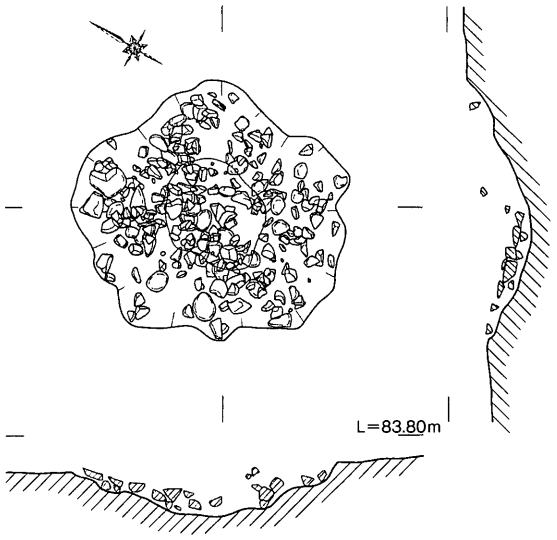
Ⅵ層上位から中位にかけて検出された。いずれも掘り込みは有しない。礫群のなかでその分布状況が密な範囲を今回は集石遺構として記録している。



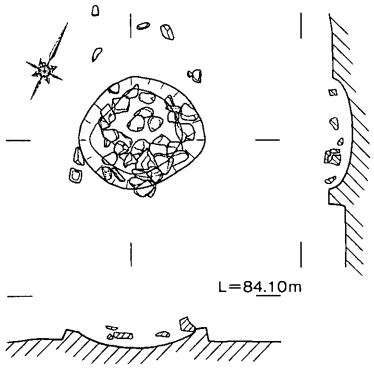
第17図　縄文時代早期遺構配置図（S＝1/600）



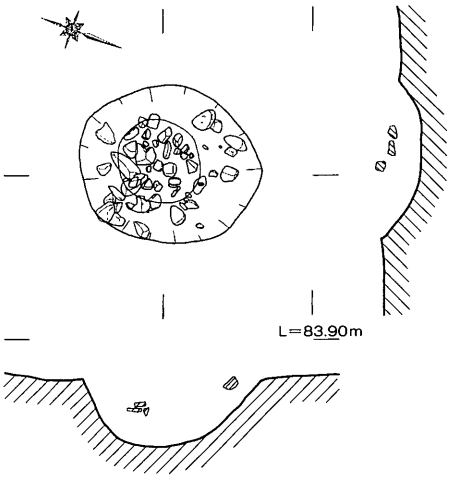
SI-34《^{14}C年代：11530±90年BP》



SI-1《^{14}C年代：9870±70年BP》

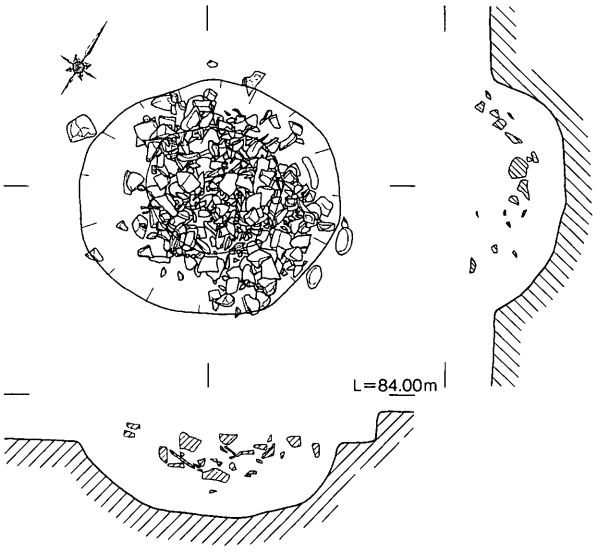


SI-28《^{14}C年代：9620±70年BP》

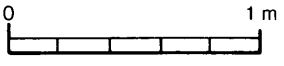


SI-32《^{14}C年代：9530±70年BP》

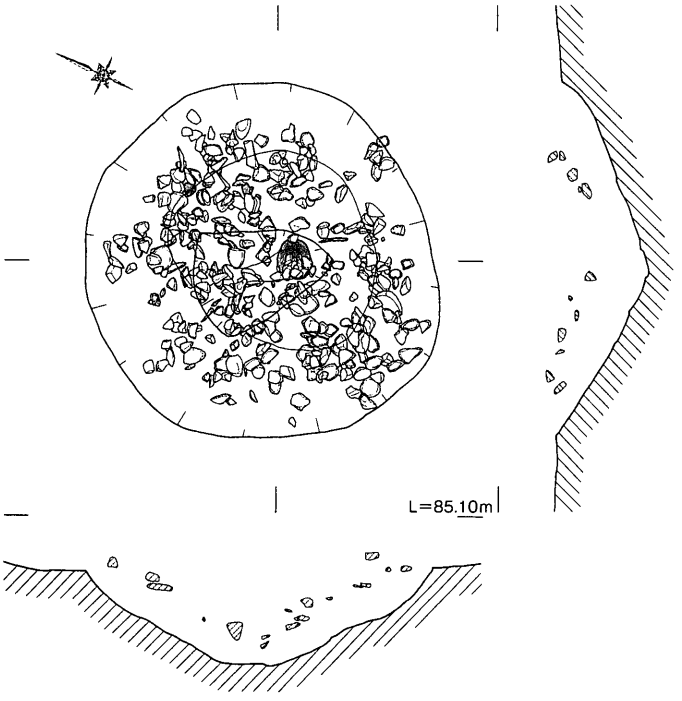
SI-26《^{14}C年代：9430±70年BP》



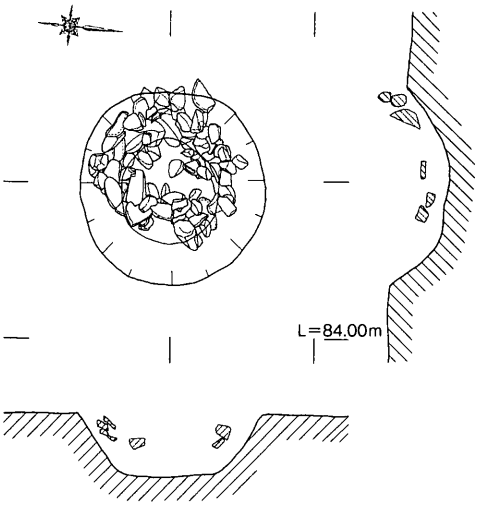
SI-25《^{14}C年代：9000±70年BP》



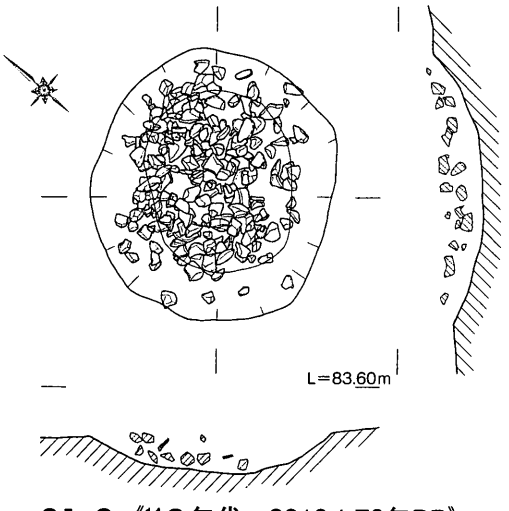
第18図　縄文時代早期集石遺構実測図①（S＝1/30）



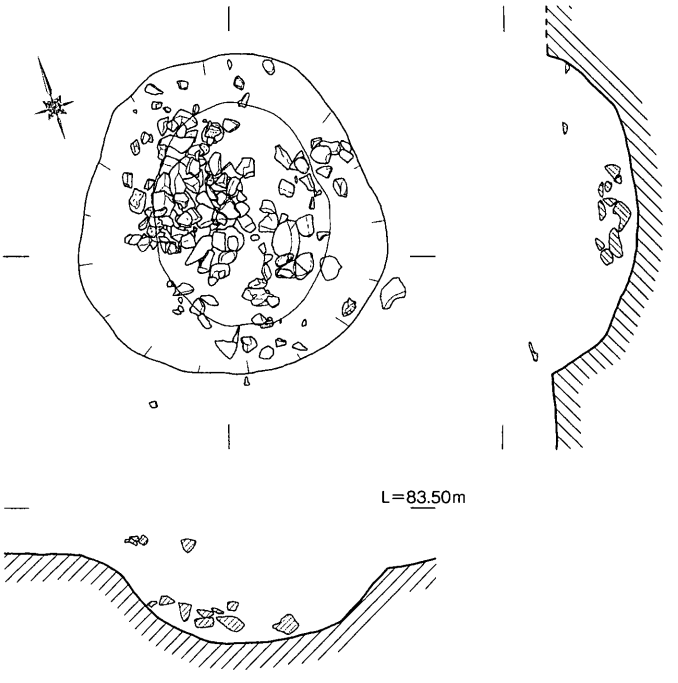
SI-21《^{14}C年代：8970±70年BP》



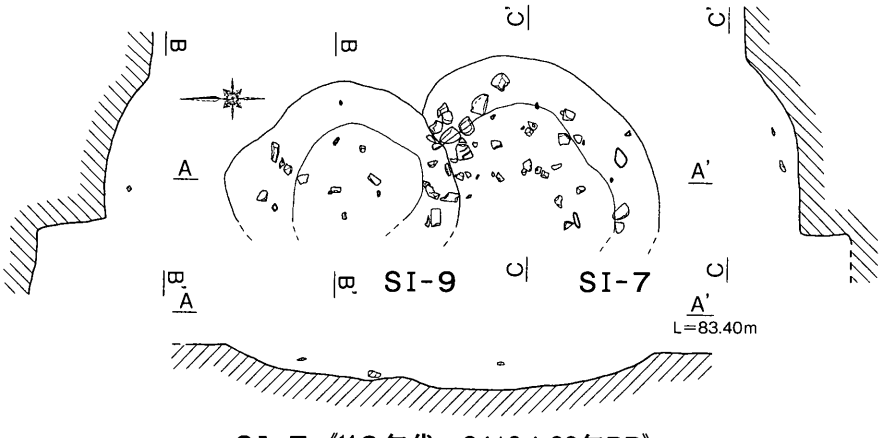
SI-35《^{14}C年代：8770±80年BP》



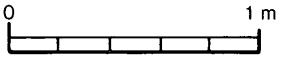
SI-8《^{14}C年代：8310±70年BP》



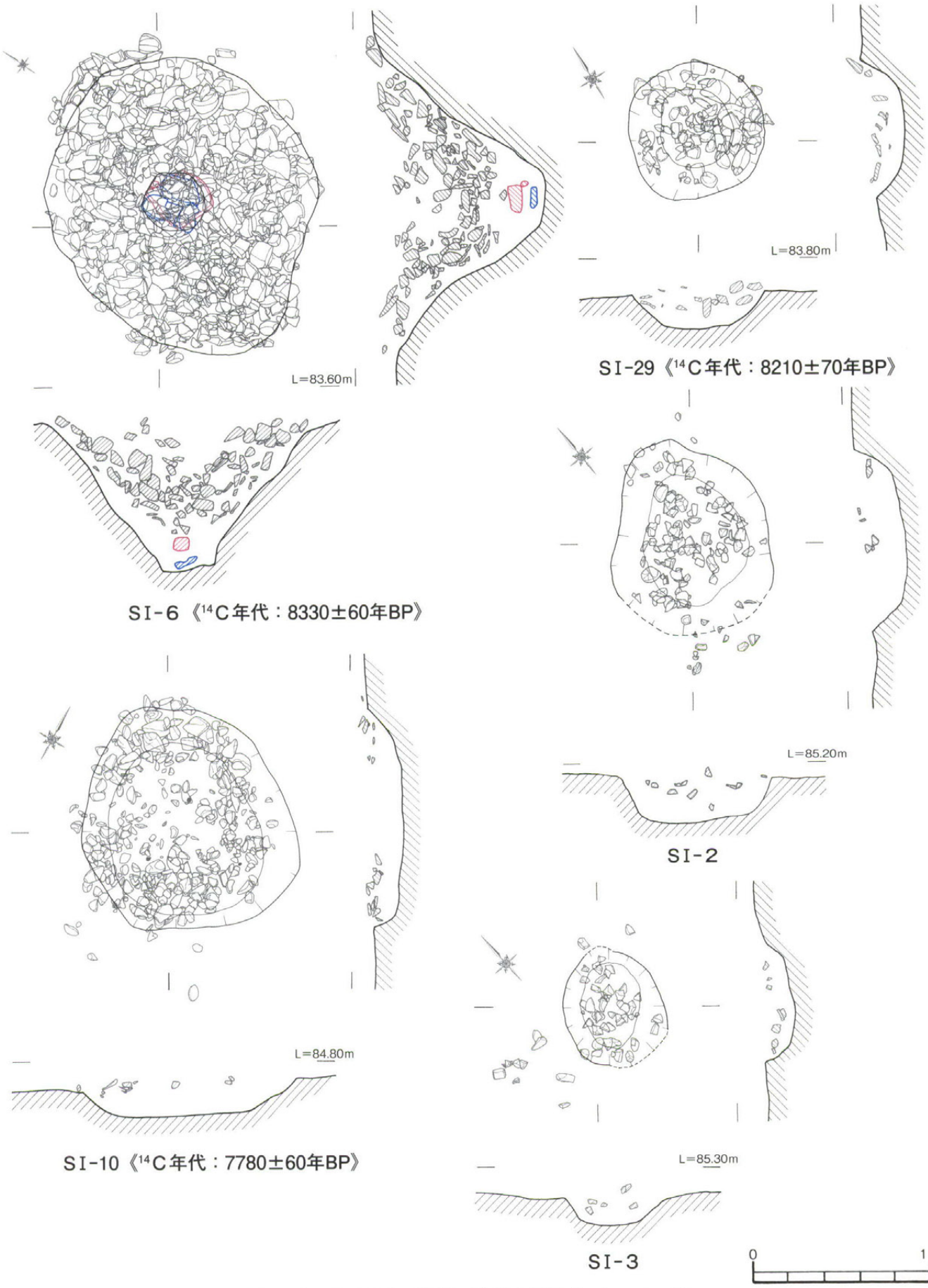
SI-31《^{14}C年代：8420±70年BP》



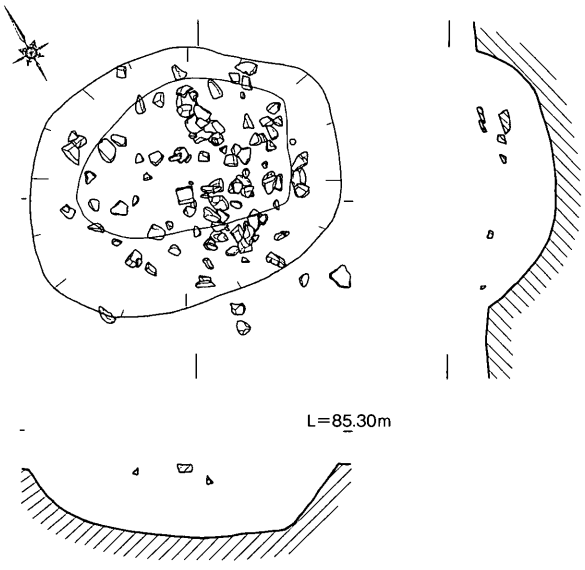
SI-7《^{14}C年代：8410±60年BP》
SI-9《^{14}C年代：8320±70年BP》



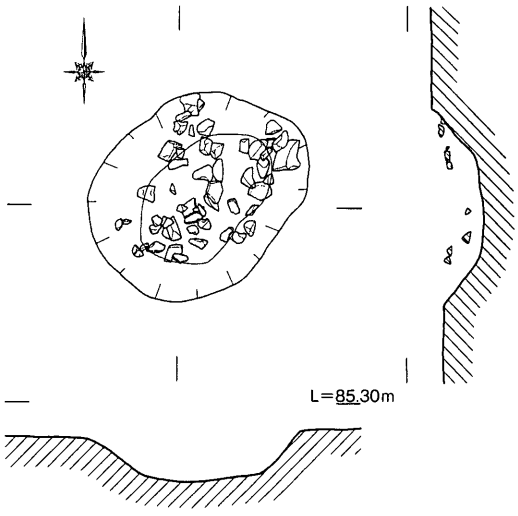
第19図　縄文時代早期集石遺構実測図②（S＝1/30）



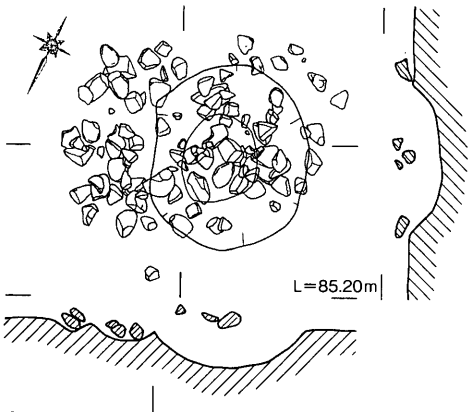
第20図　縄文時代早期集石遺構実測図③（S＝1/30）



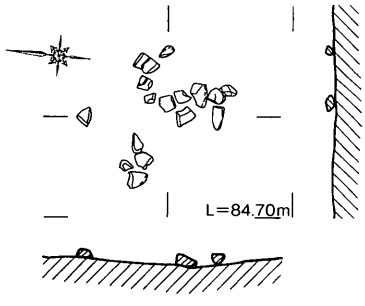
SI-4



SI-5

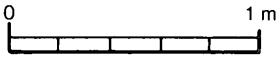


SI-11 ←→ SI-14

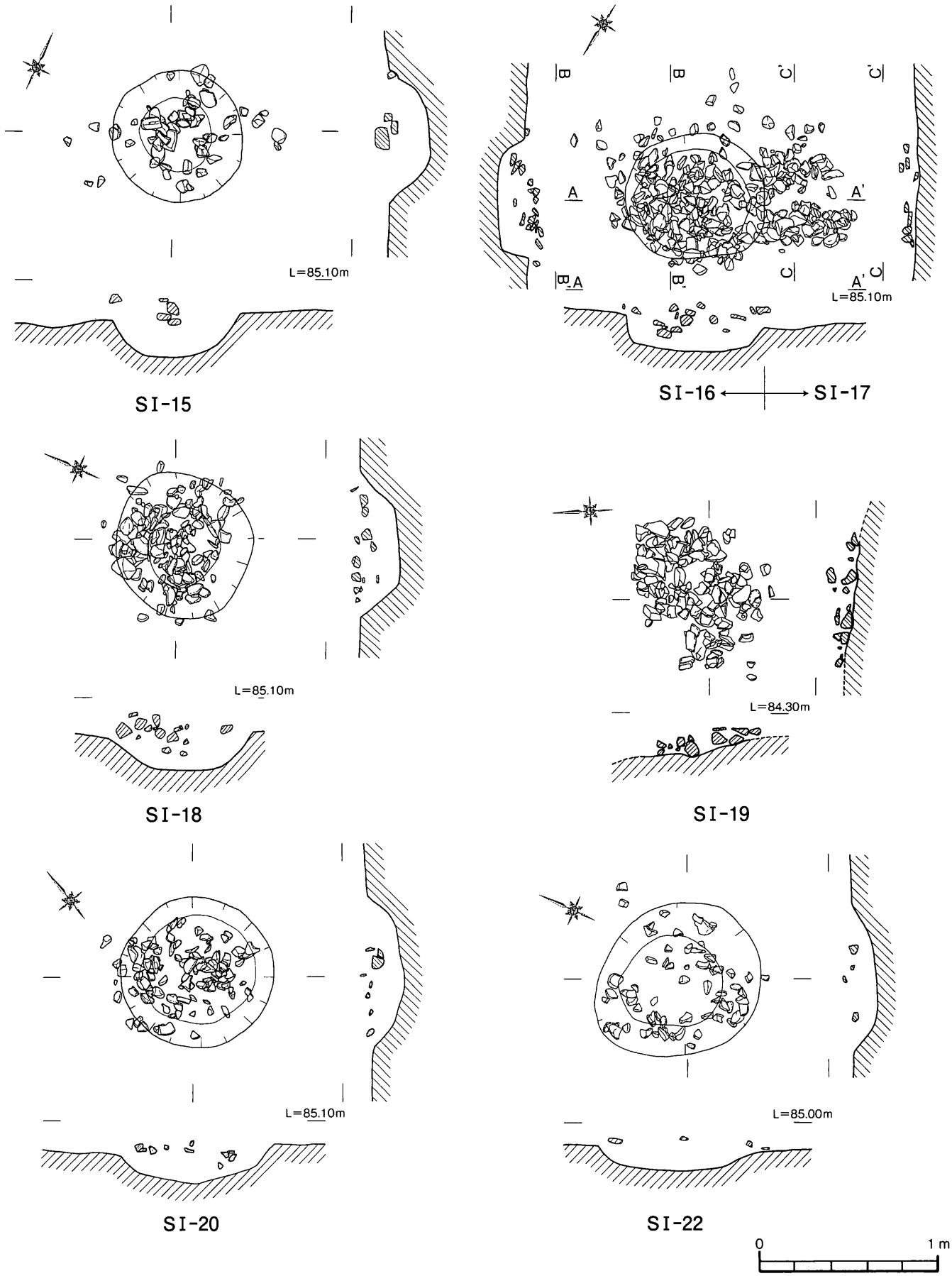


SI-12

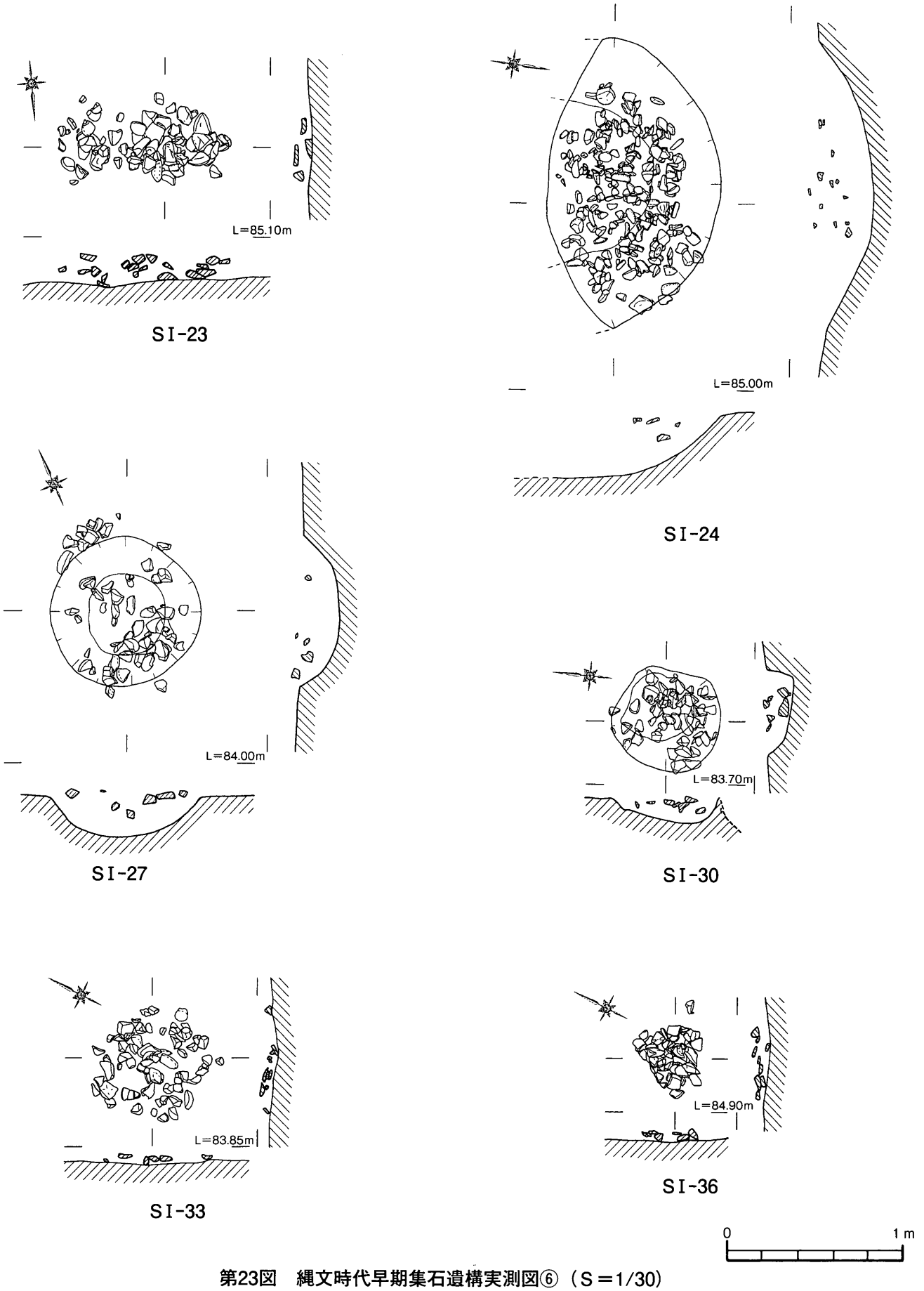
SI-13



第21図　縄文時代早期集石遺構実測図④（S＝1/30）



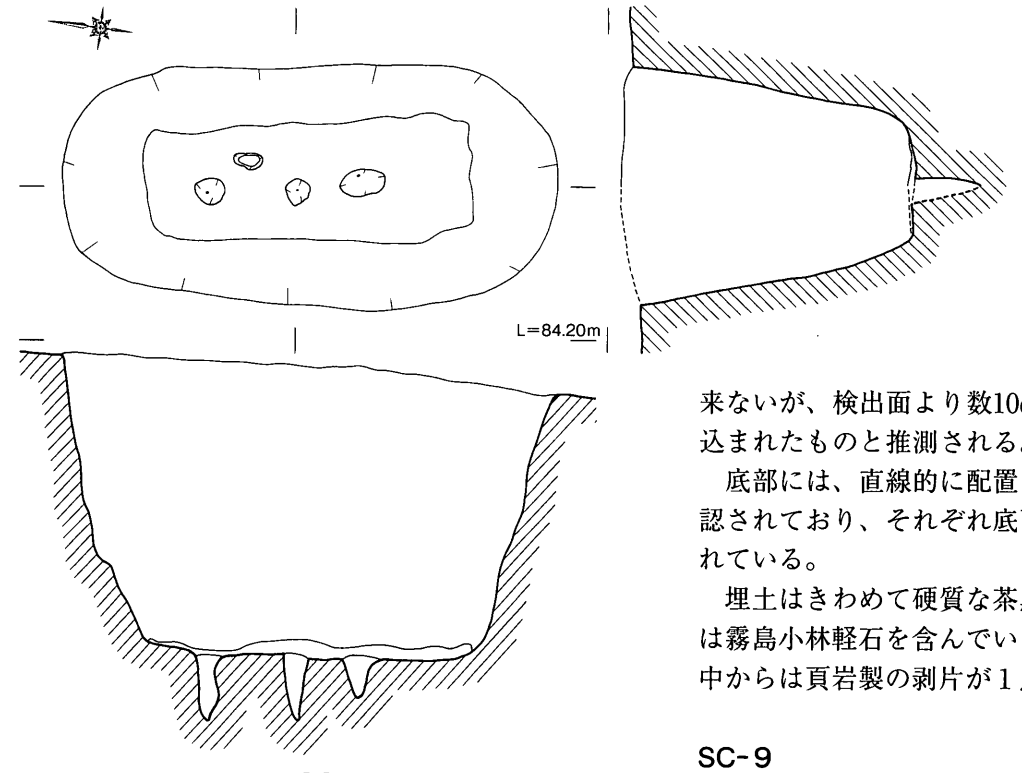
第22図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤（S＝1/30）

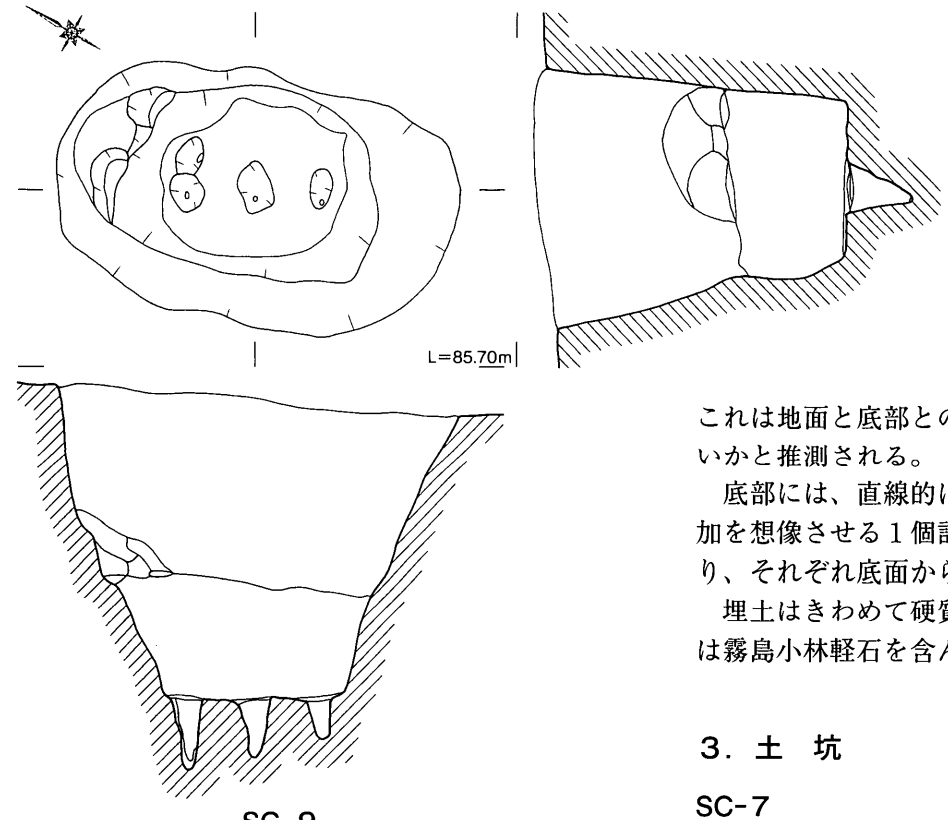


第23図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥（S＝1/30）

第２表　集石遺構（縄文時代早期）観察表

	番号	検出層	^{14}C年代（年BP）	使用礫				掘込み				底石の有無	炭化物の有無	備考
				礫分布範囲<長軸×短軸>（m）	総礫数（個）	総重量（kg）	礫1個あたりの重量（kg）	有無	断面形状	直径（m）	深さ（m）			
1	SI-34	Ⅷ層上面	11530±90	1.1 × 1.1	132	8.0	0.06	無	—	—	—	—	無	
2	SI-1	Ⅵ層中位	9870±70	1.0 × 1.0	247	26.5	0.11	有	(浅) 皿状	1.1	0.2	無	有	
3	SI-28	Ⅵ層中位	9620±70	0.5 × 0.5	48	7.5	0.16	有	(浅) 皿状	0.4	0.1	無	有	
4	SI-32	Ⅵ層中位	9530±70	0.6 × 0.6	65	6.0	0.09	有	ボウル状	0.7	0.3	無	有	
5	SI-26	Ⅵ層上位～中位	9430±70	1.2 × 1.2	361	30.6	0.08	有	ボウル状	1.1	0.3	無	有	
6	SI-25	Ⅵ層上位～中位	9000±70	1.0 × 0.9	772	38.0	0.05	有	ボウル状	1.1	0.3	無	有	
7	SI-21	Ⅵ層上位～中位	8970±70	1.4 × 1.3	396	27.0	0.07	有	(緩やかな) V字状	1.4	0.4	無	有	
8	SI-35	Ⅵ層上位～中位	8770±80	0.7 × 0.7	67	23.0	0.34	有	ボウル状	0.8	0.2	無	有	
9	SI-31	Ⅵ層上位～中位	8420±70	1.2 × 1.0	155	30.5	0.20	有	ボウル状	1.3	0.4	無	有	
10	SI-7	Ⅵ層下位	8410±60	0.9 × —	48	2.5	0.05	有	皿状	1.0	0.2	無	有	1/2程が残存・SI-9と切り合っている
11	SI-9	Ⅵ層下位	8320±70	0.8 × —	11	0.2	0.02	有	皿状	1.0	0.1	無	有	1/2程が残存・SI-7と切り合っている
12	SI-6	Ⅵ層上位～中位	8330±60	1.9 × 1.6	2635	610.6	0.23	有	V字状	1.6	0.9	有	有	底石が２段・SI-30と切り合っている
13	SI-8	Ⅵ層下位	8310±70	1.0 × 0.8	238	23.5	0.10	有	皿状	1.1	0.2	無	有	
14	SI-29	Ⅵ層上位～中位	8210±70	0.8 × 0.8	114	30.0	0.26	有	皿状	0.8	0.2	無	有	
15	SI-10	Ⅵ層上位～中位	7780±60	1.3 × 1.2	530	38.0	0.07	有	皿状	1.3	0.2	無	有	
16	SI-2	Ⅵ層上位	—	1.3 × 0.7	129	9.5	0.07	有	皿状	1.0	0.2	無	炭化粒のみ	
17	SI-3	Ⅵ層上位	—	0.7 × 0.5	67	5.5	0.08	有	皿状	0.6	0.2	無	炭化粒のみ	
18	SI-4	Ⅵ層上位	—	1.0 × 1.0	141	8.7	0.06	有	皿状	1.2	0.3	無	炭化粒のみ	
19	SI-5	Ⅵ層上位	—	0.9 × 0.7	72	7.0	0.10	有	皿状	0.9	0.2	無	炭化粒のみ	
20	SI-14	Ⅵ層上位～中位	—	0.8 × 0.8	—	—	—	有	皿状	0.7	0.1	無	炭化粒のみ	SI-11と切り合っている
21	SI-11	Ⅵ層上位～中位	—	0.9 × —	—	—	—	無	—	—	—	—	無	SI-14と切り合っている
22	SI-12	Ⅵ層上位～中位	—	0.7 × 0.6	16	3.2	0.20	無	—	—	—	—	無	
23	SI-13	Ⅵ層上位～中位	—	1.8 × 1.6	887	51.5	0.06	有	皿状	1.8	0.2	無	炭化粒のみ	
24	SI-15	Ⅵ層上位～中位	—	0.8 × 0.8	61	10.0	0.16	有	ボウル状	0.7	0.2	無	炭化粒のみ	
25	SI-16	Ⅵ層上位～中位	—	0.9 × 0.9	177	20.9	0.12	有	皿状	0.8	0.2	無	炭化粒のみ	SI-17と切り合っている
26	SI-17	Ⅵ層上位～中位	—	0.6 × —	120	12.0	0.10	無	(浅) 皿状	0.7	0.1	無	炭化粒のみ	SI-16と切り合っている
27	SI-18	Ⅵ層上位～中位	—	0.8 × 0.8	167	17.0	0.10	有	皿状	0.8	0.2	無	炭化粒のみ	
28	SI-19	Ⅵ層上位～中位	—	1.1 × 0.7	135	26.8	0.20	無	—	—	—	—	無	
29	SI-20	Ⅵ層上位～中位	—	0.8 × 0.7	114	9.0	0.08	有	皿状	0.9	0.2	無	炭化粒のみ	
30	SI-22	Ⅵ層上位～中位	—	0.9 × 0.9	66	4.0	0.06	有	皿状	0.9	0.1	無	炭化粒のみ	
31	SI-23	Ⅵ層上位～中位	—	1.0 × 0.5	75	9.5	0.13	無	—	—	—	—	無	
32	SI-24	Ⅵ層上位～中位	—	1.3 × —	255	18.0	0.07	有	皿状	1.6	0.3	無	炭化粒のみ	1/2程が残存
33	SI-27	Ⅵ層上位～中位	—	1.1 × 0.8	63	11.5	0.18	有	皿状	0.9	0.2	無	炭化粒のみ	
34	SI-30	Ⅵ層上位～中位	—	0.7 × 0.5	62	10.8	0.17	有	(浅) 皿状	0.6	0.2	無	炭化粒のみ	SI-6と切り合っている
35	SI-33	Ⅵ層上位～中位	—	0.8 × 0.8	72	6.5	0.09	無	—	—	—	—	無	
36	SI-36	Ⅵ層上位～中位	—	0.4 × 0.4	53	5.5	0.10	無	—	—	—	—	無	





0　1 m

第24図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図（S＝1/30）

2．陥し穴状遺構

SC-4

Ⅸ層上面で検出された。

平面プランは長軸1.95m・短軸0.9mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.15mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。

底部には、直線的に配置された3個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15cm～20cm掘り込まれている。

埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測され、埋土中からは頁岩製の剥片が1点出土している。

SC-9

Ⅷ層上面で検出された。

平面プランは長軸1.6m・短軸1mの楕円形を呈し、検出面からの深さは1.2mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。

又、遺構の中位には一段のすぼまりがあり、これは遺構の下位を狭くすることにより、捕らえた獲物が逃げにくくするための工夫であろう。さらにそのすぼまりを利用してテラスも作られているが、これは地面と底部との上り下りに使用されたのではないかと推測される。

底部には、直線的に配置された3個に加え補修か追加を想像させる1個計4個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15cm～30cm掘り込まれている。

埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測される。

3．土　坑

SC-7

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.25m・短軸0.95mの楕円形を呈し、検出面からの深さは1mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出

面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。

底部において逆茂木らしき痕跡を三ヶ所検出したため、半截などの確認作業を行ったが、逆茂木痕と断定できる状況ではなかったため、この遺構の用途については陥し穴状遺構の可能性が高いという程度にとどめておきたい。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測され、その中からは砂岩製の剥片が６点と頁岩製の剥片が１点出土している。

SC-13

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.45m･短軸1.2mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.8mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。

底部において逆茂木らしき痕跡を六ヶ所検出したため、半截などの確認作業を行ったが、逆茂木痕と断定できる状況ではなかったため、この遺構の用途については陥し穴状遺構の可能性が高いという程度にとどめておきたい。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測される。

SC-5

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.4m･短軸１mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.9mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。用途については、陥し穴状遺構の可能性も考えられるが詳細は不明である。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測され、その中から採取された炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は11170±90年BPという結果が得られている。

SC-10

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.2m･短軸0.65mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.6mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。

用途については、陥し穴状遺構の可能性も考えられるが、底部に掘り込まれた竪穴も含めて詳細は不明である。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測され、その中から採取された炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は12040±90年BPという結果が得られている。

SC-6

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.25m･短軸１mの楕円形を呈し、検出面からの深さは１mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。

用途については、陥し穴状遺構の可能性も考えられるが詳細は不明である。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測され、その中からは砂岩製の剥片１点と頁岩製の剥片１点が出土している。

SC-11

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.25m･短軸0.95mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.65mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。用途については、陥し穴状遺構の可能性も考えられるが詳細は不明である。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測される。

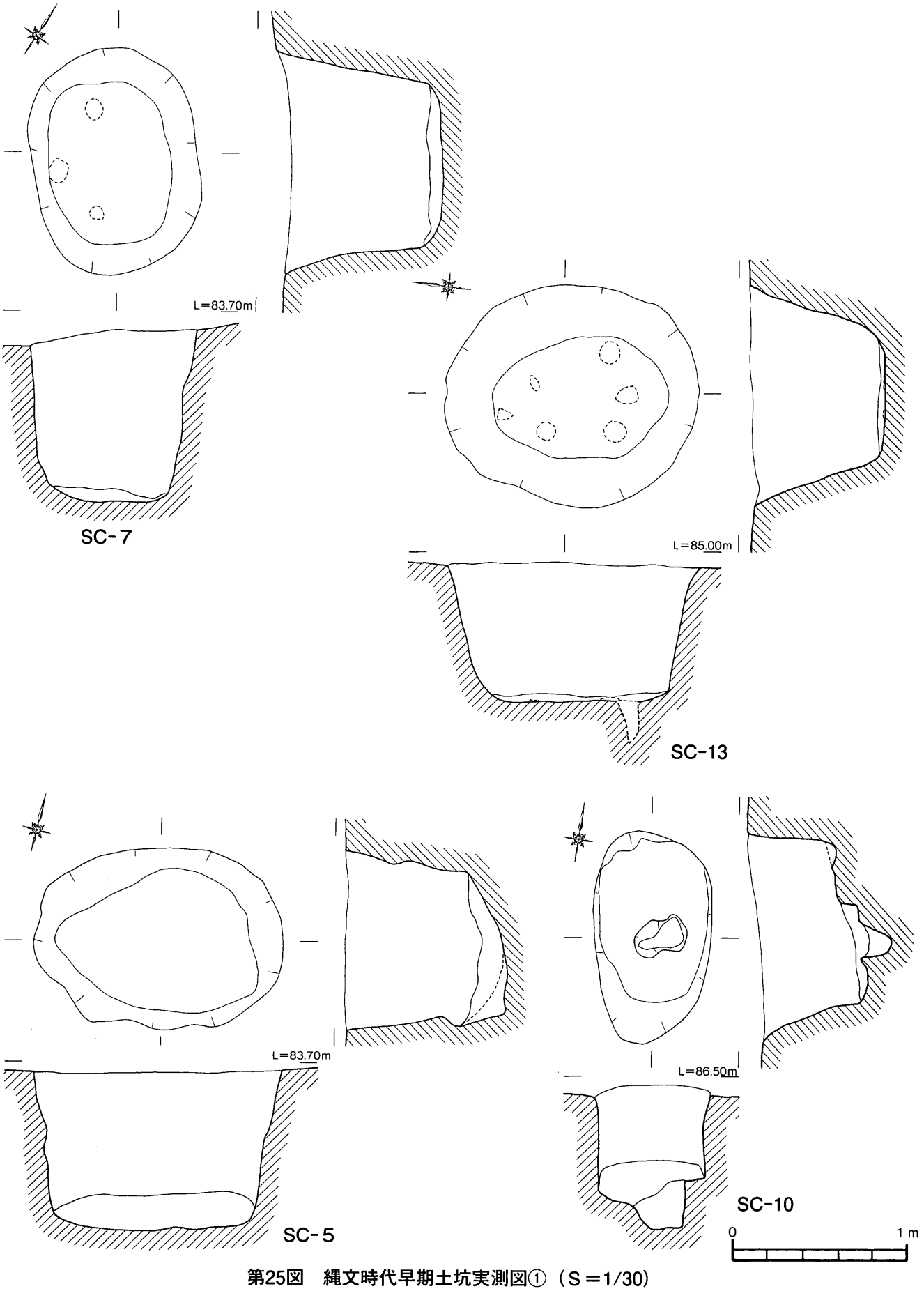
SC-12

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.35m･短軸1.2mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.75mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。用途については、陥し穴状遺構の可能性も考えられるが詳細は不明である。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測される。

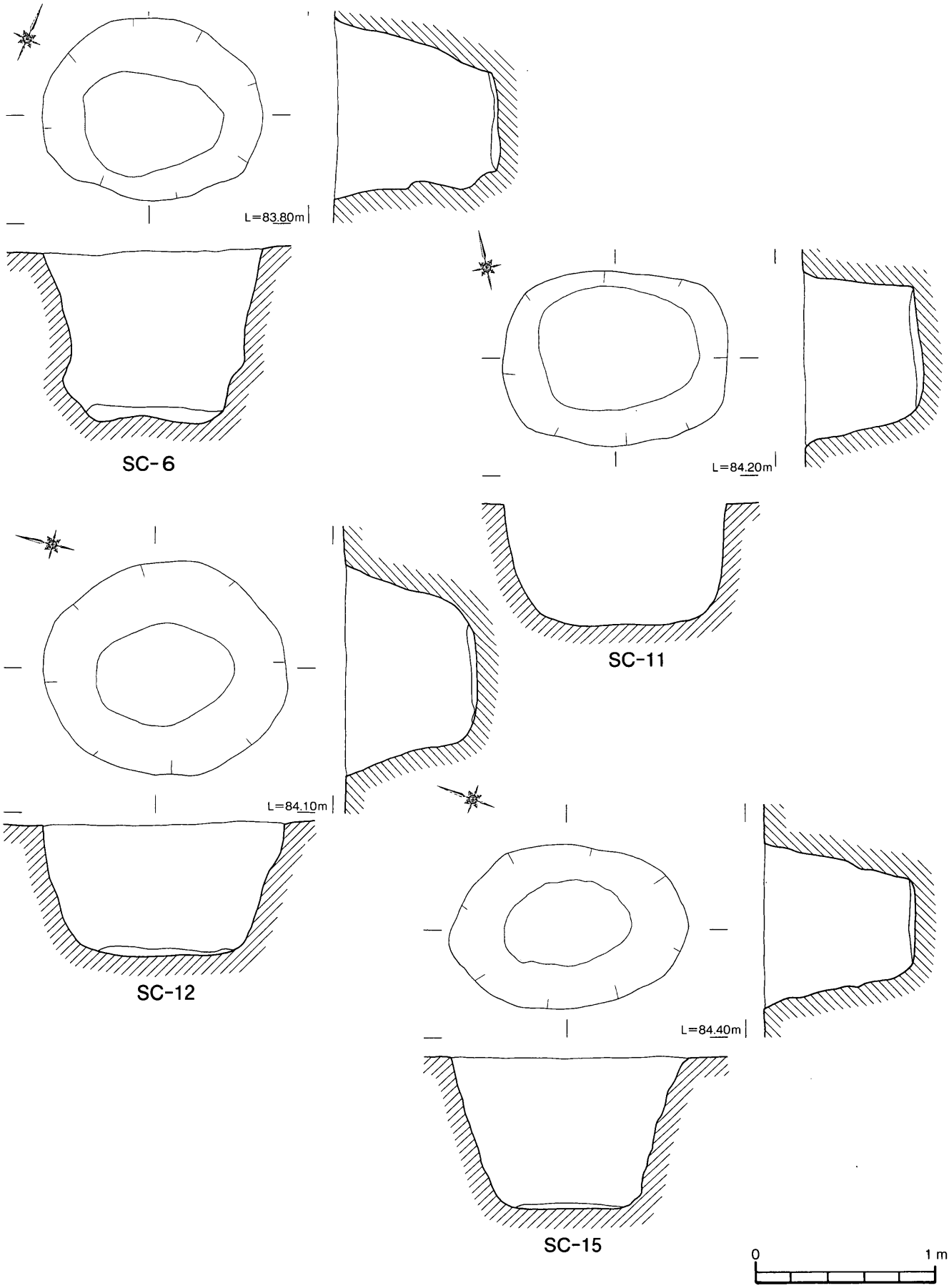
SC-15

Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.3m･短軸0.9mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.85mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位（Ⅵ層か）から掘り込まれたものと推測される。

用途については、陥し穴状遺構の可能性も考えられるが詳細は不明である。又、埋土はきわめて硬質な茶黒色土であるが、その土質は霧島小林軽石を含んでいるためだと推測され、その中からは頁岩製の剥片２点が出土している。



第25図　縄文時代早期土坑実測図①（S＝1/30）

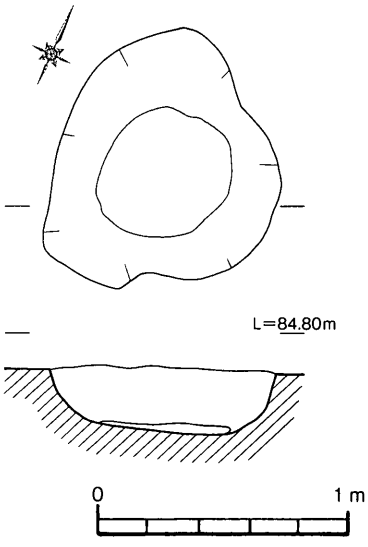


第26図　縄文時代早期土坑実測図②（S＝1/30）

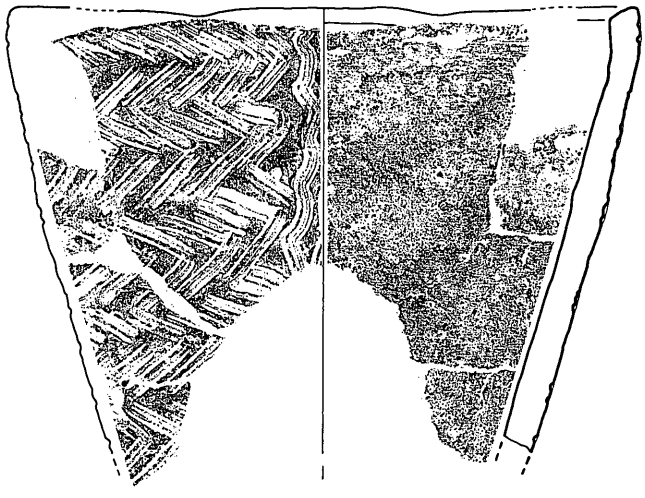
SC-3

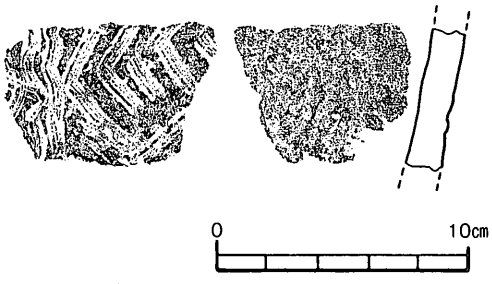
Ⅵ層中位で検出された。平面プランは直径約１ｍの円形を呈し（やや不整形）、検出面からの深さは0.2mである。埋土は炭化粒を含む茶褐色土で、その中には桑ノ丸式土器と流紋岩製の剥片が４点、それに加え破砕した焼礫が多数入り込んでいた。又、埋土から採取した炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8920±80年BPという結果が得られている。

用途については、隣接する集石遺構との関連性も含め検討を重ねたが詳細は不明である。



第27図　SC-３実測図（S＝1/30）





第28図　SC-３出土土器実測図（S＝1/3）

第２節　包含層出土遺物

１．土　器

当遺跡における縄文時代早期の遺物包含層は主にⅤからⅥ層中位にかけてである。縄文時代早期の遺物包含層の掘り下げ作業については、包含層残存範囲については全て実施したが、既に包含層が削平されている範囲とＥ３・４グリッド付近の地形が急傾斜な範囲については十分な掘り下げ作業は行っておらず、包含層出土土器の正確な分布状況の把握までには至っていない。

今回の調査で出土した縄文時代早期の土器については、貝殻円筒形土器、押型文土器、平栫式土器、塞ノ神式土器、貝殻条痕文土器の５分類に大別し考察を進めていくこととするが、各分類の出土層位については貝殻円筒形土器から塞ノ神式土器までは明確な層位差は無く、唯一貝殻条痕文土器がその他の土器群よりも明らかに上位から出土していた。

貝殻円筒形土器（１～30）

貝殻円筒形土器は65点出土し、そのうち30点を資料化している。

１・２は外面に貝殻条痕文を施し、それに加え口唇部外面にキザミ目を施した口縁部片で、いずれの口唇部も平らに仕上げている。**３**は外面に斜位の貝殻条痕文を施した口縁部片で、口唇部をやや丸めに仕上げている。**４～７**は外面に横位及び斜位の貝殻条痕文を施した胴部片で、**８**は縦位の貝殻条痕文を施した底部片である。

９は外面に地文となる貝殻条痕文を施したあと縦位の貝殻腹縁刺突文を施し、それに加え楔形突起文を貼り付けた口縁部片で、平らに仕上げた口唇部にキザミ目を施している。**10**は外面に地文となる貝殻条痕文を施したあと斜位の貝殻腹縁刺突文を施した胴部片である。**11～21**は外面に貝殻刺突文を施したいわゆる下剥峯式土器の一群である。いずれも小破片のため器形的特徴は把握しにくいが、11は底部から口縁部にかけて緩やかに開く器形で口縁部付近はやや内湾している。**22～35**は外面に貝殻条痕文による羽状文や流水文を施したいわゆる桑

ノ丸式土器の一群である。22・23は口縁部片で、口唇部を内面にやや斜行する平らな面に仕上げている。器形的特徴についてはいずれも小破片のため詳細は不明である。

押型文土器（36～43）

押型文土器は11点出土し、そのうち８点を資料化している。

36～38は山形押型文土器である。36はやや外反する口縁部片で、外面には斜位の山形押型文を施している。又、やや丸めに仕上げた口唇部にはキザミ目も施している。37はほぼ直行する口縁部片で、口唇部を平らに仕上げ、外面には縦位の山形押型文を施している。**39～43**は楕円押型文土器である。39・40はやや肥厚して仕上げた口縁部片で、肥厚した部位の内面から口唇部にかけて楕円押型文を施し、いずれもやや外反している。山形押型文土器及び楕円押型文土器いずれも小破片のみの出土であったため、器形的特徴についての詳細は不明である。

平栫式系土器（44～46）

平栫式系土器は出土した３点全てを資料化している。

44～46は口唇部下位に断面三角形の肥厚帯を巡らした口縁部片で、その肥厚帯には沈線文を施している。器形的特徴については、いずれも小破片のため詳細は不明である。

塞ノ神式土器（47～76）

塞ノ神式土器は95点出土し、そのうち30点を資料化している。

47～50は壺の口縁部片及び胴部片（口縁部付近か）で、キザミ目を施した微隆帯を口縁部に平行に数条巡らしている。**51**は外面に沈線文を施した口縁部片で、平らに仕上げた口唇部にはキザミ目を施している。**52**は壺の胴部片で（口縁部付近か）、外面には撚糸文と沈線文を施している。**53～56**は口縁部にむけラッパ状に開く頸部で、外面には縄文と沈線文を施している。**57～67**は外面に縄文（撚糸文も含む）や沈線文を施した胴部片で、いずれも小破片のため器形的特徴についての詳細は不明である。**68**は口縁部にむけラッパ状に開く頸部で、外面には貝殻刺突文を施している。**69～76**は外面に貝殻条痕文を施した胴部片で、69は一部頸部が残存しておりそこには貝殻刺突文を施している。

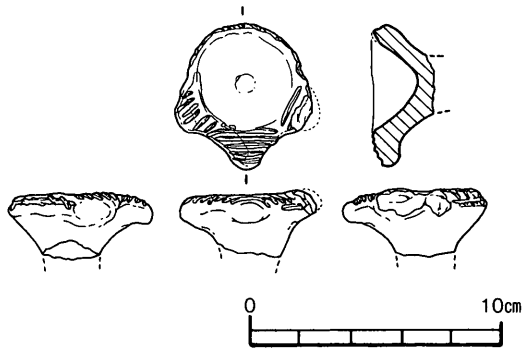
貝殻条痕文土器（77～89）

貝殻条痕文土器は32点出土し、そのうち13点を資料化している。

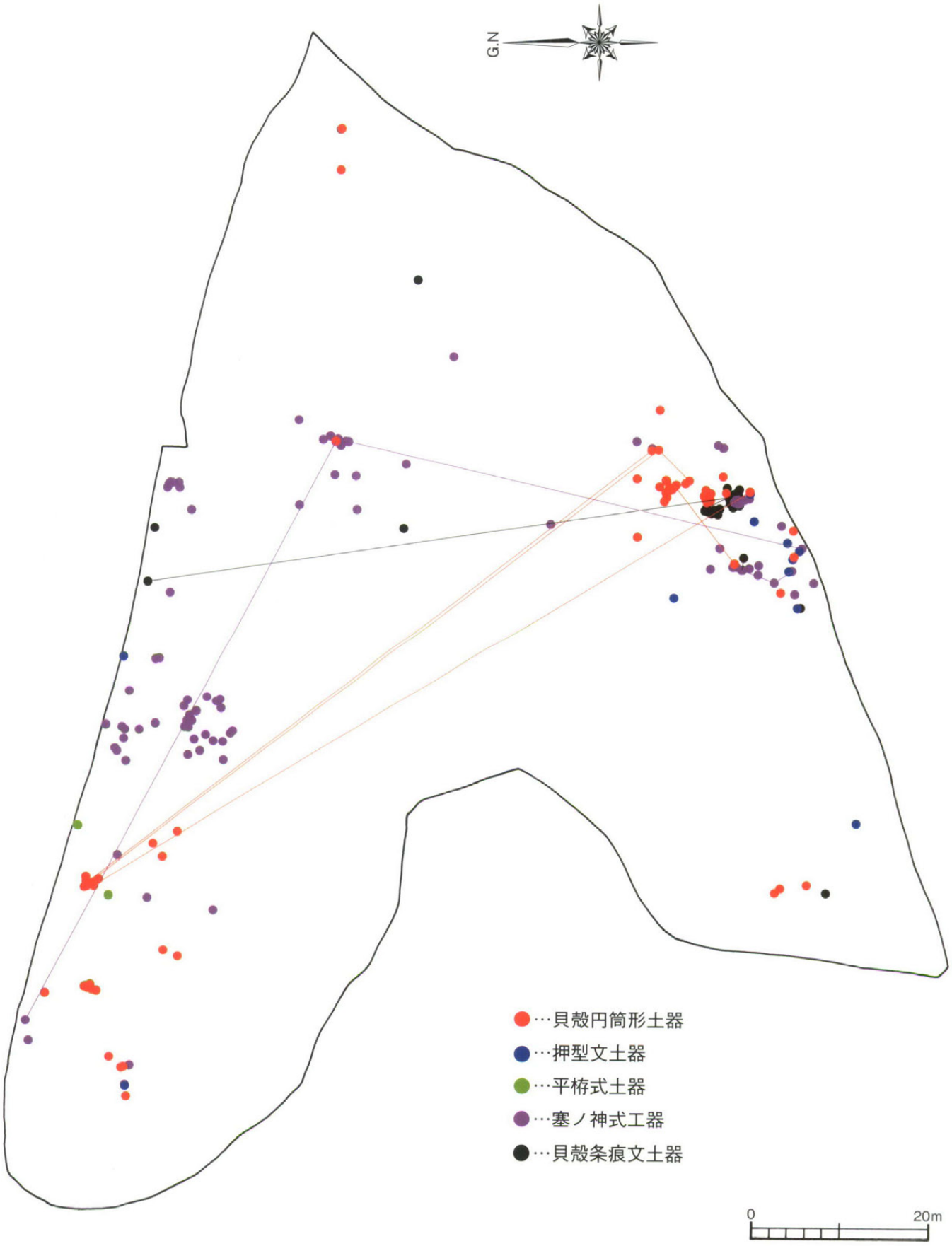
77は円筒形の器形をした深鉢で、口唇部をやや内面に斜行する平らな面に仕上げている（口唇部にはキザミ目を施している）。底部は残存していないが尖底平底を想像させる器形である。施文は内外面ともに貝殻条痕文を施しており、内面は施文後ナデ調整を行っている。**78**はやや砲弾形をした深鉢で、口唇部をやや外反させて丸めに仕上げ、そこにキザミ目を施している。**79～81**はいずれも口唇部を平らに仕上げた口縁部片で、口唇部外面にはキザミ目を施している。尚、78～81の施文的特徴はいずれも77とほぼ同様である。**82～89**は内外面に貝殻条痕文を施した胴部片であるが、いずれも小破片のため器形的特徴についての詳細は不明である。

２．土製品

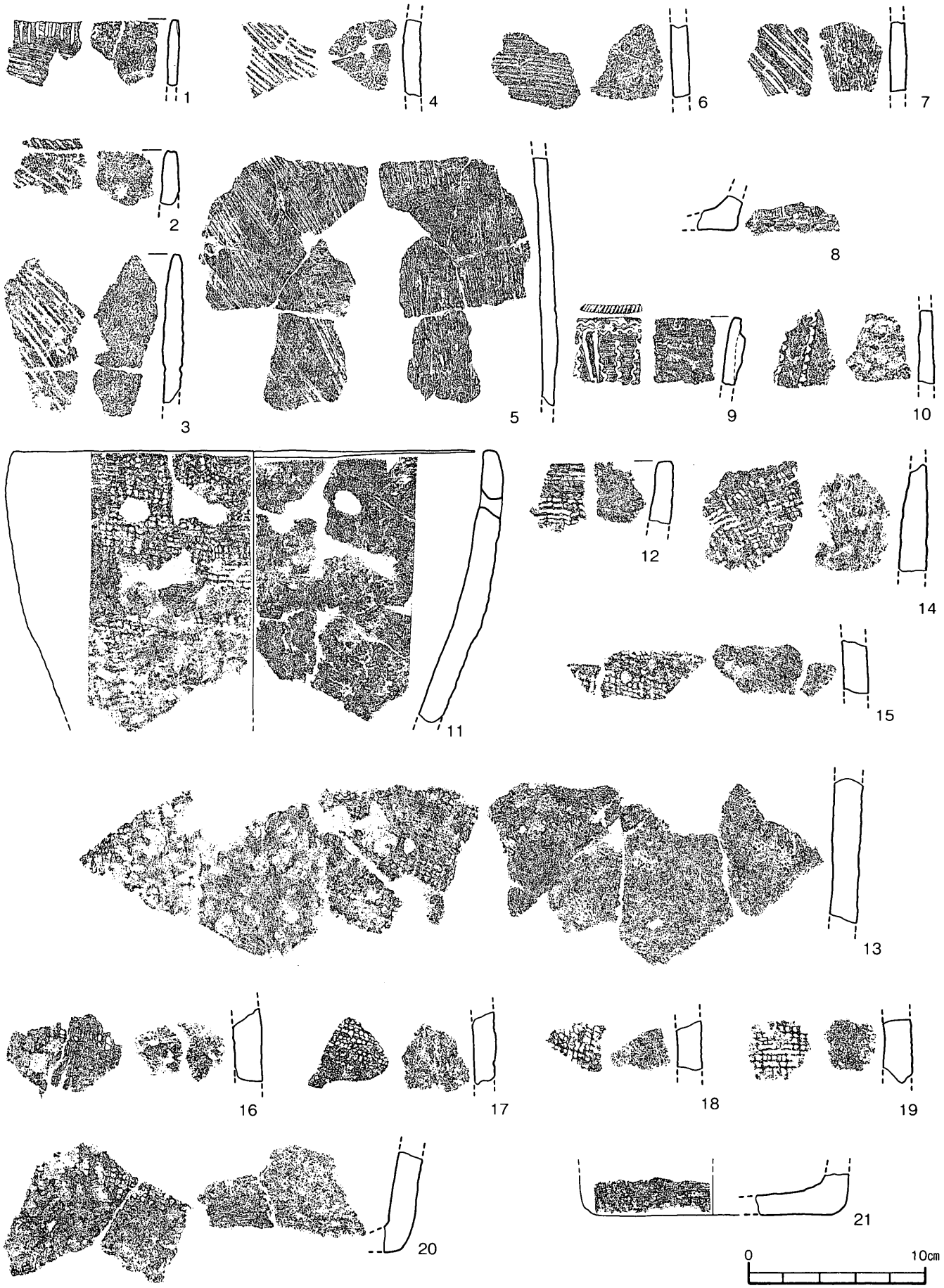
Ｖ層から不明土製品が１点出土している。お猪口を想像させる形状で、円形の上部（直径5.8cm）には３ヶ所の突起部がみられる。その突起部及び側面には沈線文を施しており、一部丹と思われる赤色顔料も塗られている。下部が破損しているため製品の全体像が把握できず、用途など詳細については不明である。尚、色調については、外面がにぶい黄褐色（10YR5/3）で内面が暗灰黄色（2.5Y4/2）、胎土については石英と長石そして１㎜以下の砂粒が含まれている。



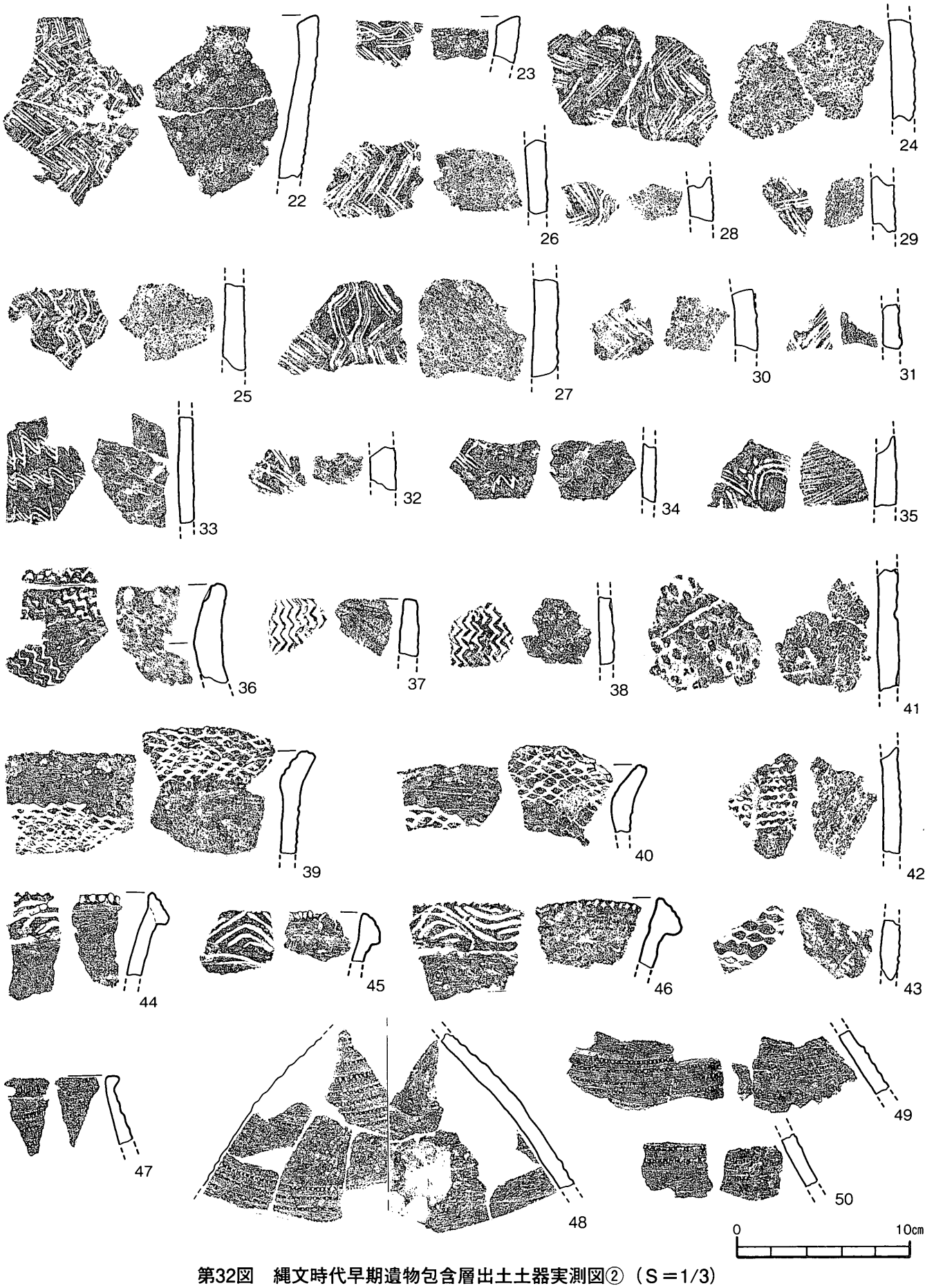
第29図　不明土製品実測図（Ｓ＝1/3）



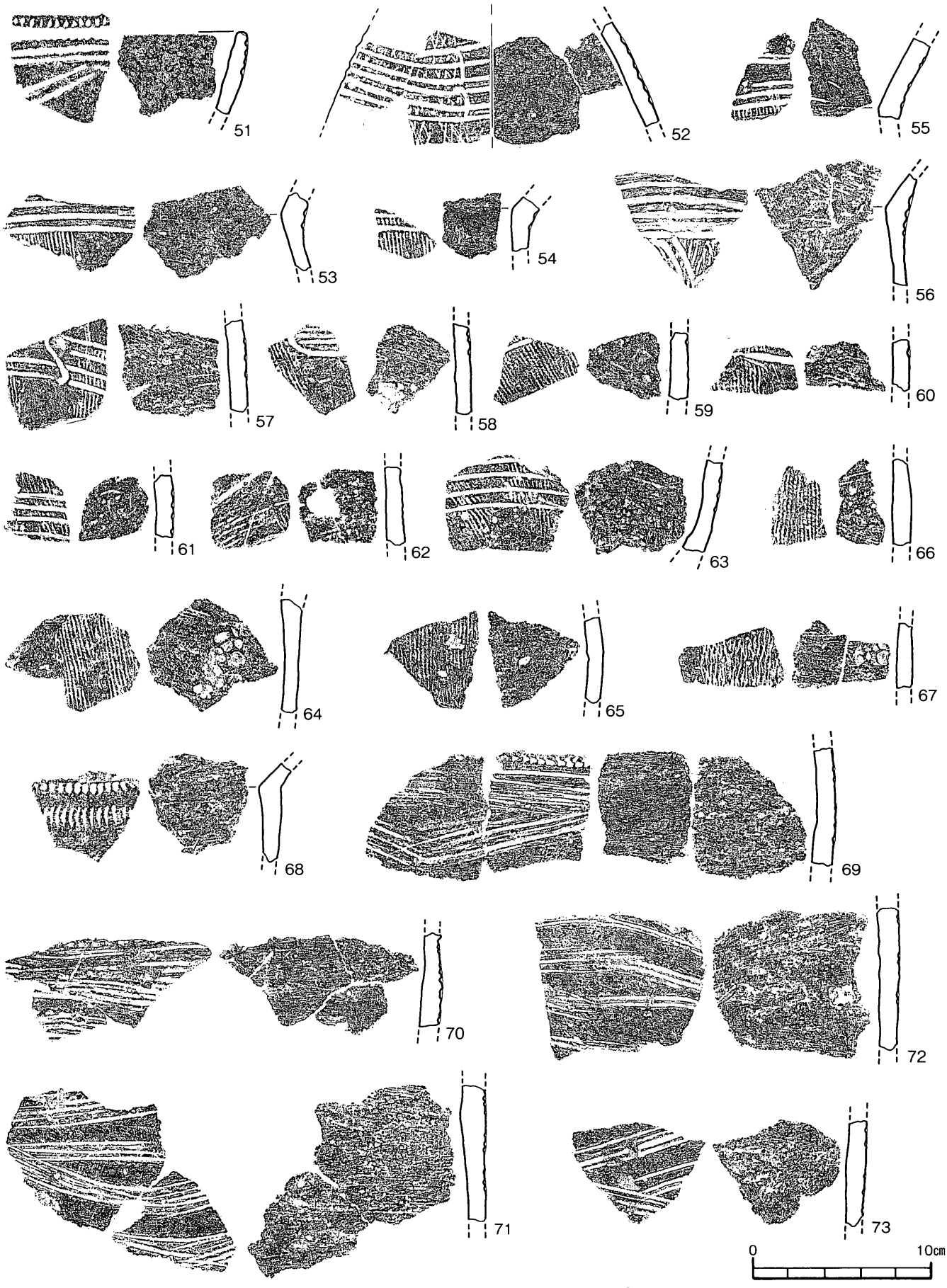
第30図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図（S＝1/600）



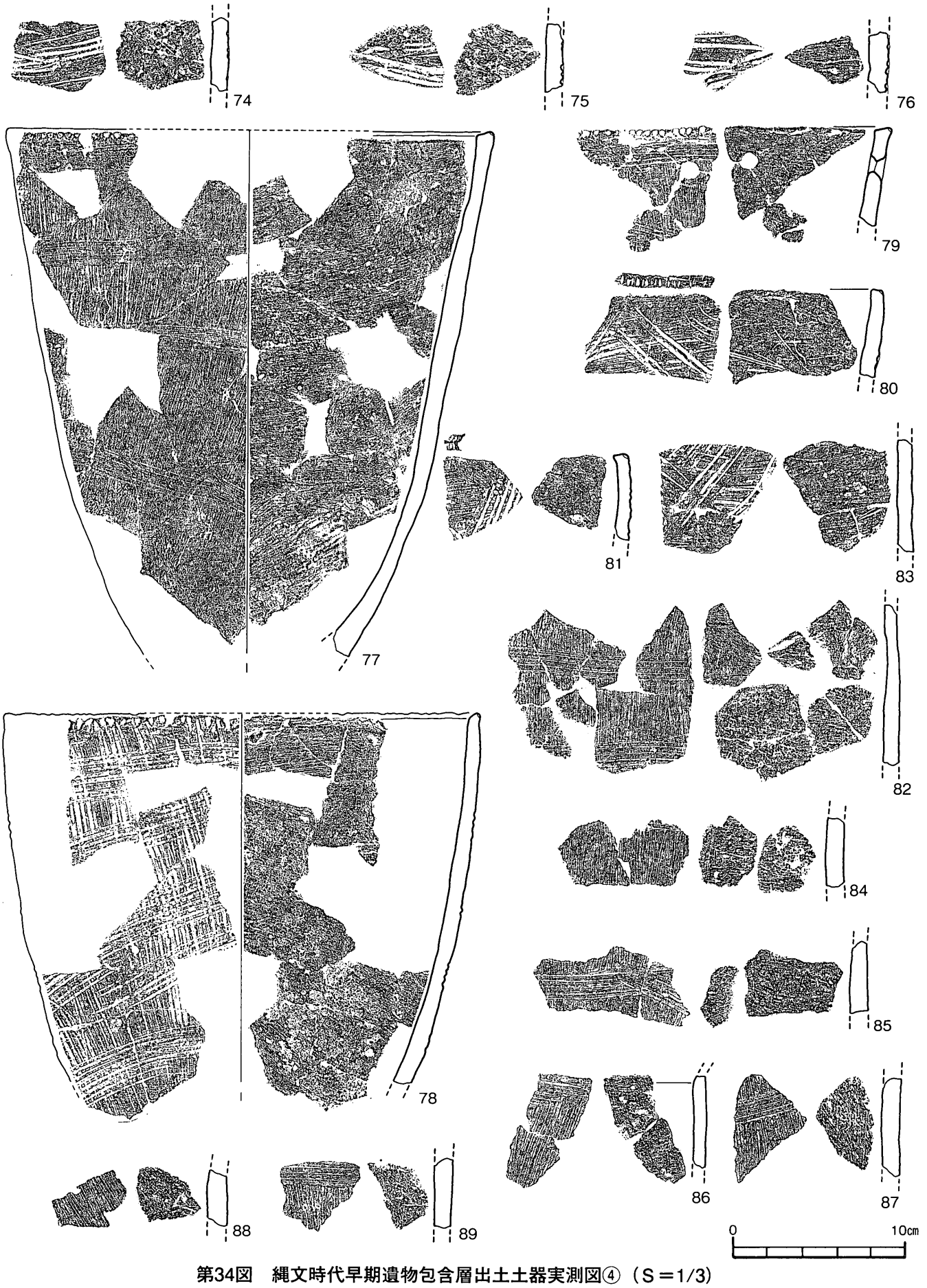
第31図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S＝1/3）



第32図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S＝1/3）



第33図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S＝1/3）



第34図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S＝1/3）

第３表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表

No.	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測番号
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
1	Ⅵ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文→ナデ	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1㎜以下	口唇部外面にキザミ目	133
2	Ⅵ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文	ナデ	2.5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○1㎜以下	口唇部にキザミ目	132
3	Ⅵ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	2.5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○2㎜以下		137
4	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	2.5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○2㎜以下		135
5	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下		134
6	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○5㎜以下	スス付着	136
7	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○1㎜以下		139
8	Ⅵ層	深鉢	底部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○2㎜以下		140
9	Ⅴ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文・刺突文（貝殻腹縁）・楔形突起文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○1㎜以下	口唇部にキザミ目	131
10	Ⅴ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁か？）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○3㎜以下		138
11	Ⅴ・Ⅵ層	深鉢	口縁～胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下	口縁径：47.2cm 穿孔有り	142
12	Ⅴ層	深鉢	口縁部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下		141
13	Ⅴ・Ⅵ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下		143
14	Ⅵ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	5YR4/2（灰褐）	○	○				○4㎜以下		144
15	Ⅵ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下		145
16	Ⅵ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○				○2㎜以下		146
17	Ⅵ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3㎜以下		147
18	Ⅵ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下		148
19	Ⅵ層	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○4㎜以下		149
20	Ⅵ層	深鉢	胴～底部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○1㎜以下		150
21	Ⅵ層	深鉢	底～胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○			○	○3㎜以下	底部径：13.2cm	151
22	Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	羽状文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○4㎜以下	スス付着	153
23	Ⅴ層	深鉢	口縁部	羽状文・流水文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR6/4（にぶい褐）	10YR5/4（にぶい黄褐）	○	○			○	○5㎜以下		152
24	Ⅴ・Ⅵ層	深鉢	胴部	羽状文・流水文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○4㎜以下		156
25	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文・流水文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○4㎜以下		155
26	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○7㎜以下	一部流水文か？	154
27	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文・流水文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○6㎜以下		157
28	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文・流水文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○4㎜以下		163
29	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文（貝殻条痕文）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○5㎜以下		161
30	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○6㎜以下		162
31	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文？（貝殻条痕）	ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○4㎜以下		164
32	Ⅴ層	深鉢	胴部	羽状文？（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○			○	○4㎜以下		165
33	Ⅴ層	深鉢	胴部	流水文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○3㎜以下		158
34	Ⅴ層	深鉢	胴部	流水文（貝殻条痕）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）		○				○2㎜以下		159
35	Ⅵ層	深鉢	胴部	流水文？（貝殻条痕）	貝殻条痕文	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2㎜以下		160
36	Ⅵ層	深鉢	口縁～頸部	山形押型文	ナデ・刺突文	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○4㎜以下	口唇部に山形押型文	168
37	Ⅴ層	深鉢	口縁部	山形押型文	ヘラナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）		○	○			○2㎜以下		169
38	Ⅵ層	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）		○	○			○2㎜以下		170
39	Ⅵ層	深鉢	口縁～頸～胴部	ナデ・楕円押型文	ナデ 楕円押型文	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下	口唇部に楕円押型文	166
40	Ⅵ層	深鉢	口縁～頸部	ナデ・楕円押型文	ナデ 楕円押型文	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下	口唇部に楕円押型文	167
41	Ⅵ層	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○					○3㎜以下		172
42	Ⅵ層	深鉢	胴部	ナデ・楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○6㎜以下		173
43	Ⅵ層	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい赤褐）	○	○				○3㎜以下		171
44	Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	肥厚帯（沈線文）・ナデ	連続刺突文 ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○	○			○3㎜以下	口唇部にキザミ目	174

No.	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測番号
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
45	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯(沈線文)・ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下	口唇部にキザミ目	175
46	Ⅵ層	深鉢	口縁～胴部	肥厚帯(沈線文)・ナデ	ナデ	7.5YR6/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○		○			○4㎜以下	口唇部にキザミ目	65
47	Ⅴ層	壺	口縁部	微隆帯(キザミ目有)	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1㎜以下		180
48	Ⅴ・Ⅵ層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目有)	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○1.5㎜以下		366
49	Ⅴ・Ⅵ層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目有)	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1㎜以下		196
50	Ⅵ層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目有)	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下		195
51	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○4㎜以下	口唇部にキザミ目	179
52	Ⅴ層	壺	胴部	沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1.5㎜以下		186
53	Ⅴ層	深鉢	頸部	縄文？・沈線文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○	○			○	○1.5㎜以下		183
54	Ⅵ層	深鉢	頸部	縄文・沈線文	ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○1.5㎜以下		184
55	Ⅵ層	深鉢	頸部	縄文？・沈線文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○			○	○1㎜以下		185
56	Ⅴ層	深鉢	頸部	縄文？・沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○	○			○3㎜以下		181
57	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文・沈線文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○	○			○	○1.5㎜以下		187
58	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文・沈線文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○2㎜以下		193
59	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文・沈線文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○1.5㎜以下		189
60	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文・沈線文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○	○				○1.5㎜以下		199
61	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文？・沈線文	ナデ	2.5Y5/3（黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○1㎜以下		208
62	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文？・沈線文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○3㎜以下		188
63	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文？・撚糸文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○			○	○2㎜以下		192
64	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○			○	○2㎜以下		191
65	－	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○			○	○2㎜以下		190
66	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2㎜以下		197
67	Ⅴ層	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○1.5㎜以下		194
68	Ⅵ層	深鉢	頸部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1.5㎜以下		182
69	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 刺突文(貝殻腹縁)	貝殻条痕文 →ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○4㎜以下		203
70	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 刺突文(貝殻腹縁)	貝殻条痕文 →ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○5㎜以下		202
71	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4㎜以下		200
72	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5㎜以下		201
73	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○8㎜以下		207
74	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	2.5Y6/2（灰黄）	○	○				○3㎜以下		205
75	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/4（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○6㎜以下		204
76	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○5㎜以下		206
77	Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下	口唇部キザミ目 口縁径：27cm	214
78	Ⅴ・Ⅵ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○2㎜以下	口唇部キザミ目	213
79	Ⅴ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文	ナデ	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1㎜以下	口唇部キザミ目 穿孔有り	212
80	Ⅵ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○			○	○1.5㎜以下	口唇部キザミ目	210
81	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	5YR3/1（オリーブ黒）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下	口唇部キザミ目	211
82	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1㎜以下		222
83	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○3㎜以下		215
84	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR5/2（灰褐）	○	○				○2㎜以下		216
85	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○4㎜以下		219
86	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○2㎜以下		218
87	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 →ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○2㎜以下	スス付着	220
88	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○				○2㎜以下		217
89	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下	スス付着	221

3．石　器

縄文時代早期の遺物包含層中より285点の石器が出土している。ここでは製品類を中心に報告を行う。なお石器の整理作業に当たっては従来使用されている器種についての分類基準を設定し、器種分類をおこなった。その器種分類については滑川第３遺跡の整理作業における分類であり、他の遺跡のものと共通するものではない。なおアカホヤ火山灰層上位遺物包含層における石器の器種分類についても同様の基準で器種分類をおこなっている。器種分類の定義については第４章の第３項を参照していただきたい。

石鏃（90～117）及び石鏃未製品（118～120）

未製品及び欠損品を含め包含層中より総数31点出土している。平面形態や加工状況により以下の細分類が可能である。またこの細分類については本遺跡の縄文早期の石鏃にのみ使用される分類である。

・Ⅰ　類(90～94)　：長さと幅が1.5cm以下で、長幅比が概ね1:1に収まるもの。桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。総数で５点出土している。

・Ⅱ　類(95･96)　：特徴的な抉り･脚部を呈するもの。いわゆる鍬形鏃と呼ばれる類。総数で２点出土している。

・Ⅲ　類(97～100)　：刃縁が鋸歯状を呈するもの。姫島産黒曜石の使用が目立つ。総数で４点出土している。

・Ⅳ　類(101～104)　：基部の抉りが浅く、脚部の先端が平たく尖がるもの。チャートの使用が目立つ。総数で４点が出土している。

・Ⅴ　類(105～108)　：Ⅰ類～Ⅳ類の分類に当てはまらないものの中から抉りのないもの又は浅いものをまとめた。総数で４点が出土している。

・Ⅵ　類(109～115)　：Ⅰ類～Ⅴ類の分類に当てはまらないものの中から抉りの深いものをまとめた。総数で７点が出土している。

・欠損品(116･117)　：著しく欠損しており上記の分類に当てはめることができなかった資料である。残存する部分から推察すると116はⅢ類に117はⅥ類に該当するとも考えられる。

・未製品(118～120)　：上記のものに比べ分厚く加工が荒いものを集めている。尖頭状石器に分類される資料が混じる可能性も考えられる。総数で３点が出土している。

尖頭状石器未製品（121～123）

剥片を素材として両面調整または半両面調整によりやや鈍い先端部を作り出しているもの。石鏃よりも規模は大きく調整は荒い。石鏃の未製品が含まれている可能性も考えられる。123は全体の形状が三角形で石鏃のような平面形であるが、かなり規模は大きく調整が粗いため石核とも考えられる。

石錐（124）

剥片の形状を大きく残すもの。寸詰まりの不整形な斜め剥ぎの剥片を素材としている。総数で１点が出土している。

石匙（125～128）

総数で４点が出土している。いずれも縦型の資料である。128は緑色堆積岩を使用している。この緑色堆積岩は船引地区遺跡群では磨製石斧によく使用される石材であり、石匙への使用は珍しい。

スクレイパー（129・130）

総数で２点が出土している。いずれも素材剥片の下端部に刃部調整を施すものである。

石核（131）剥片・砕片

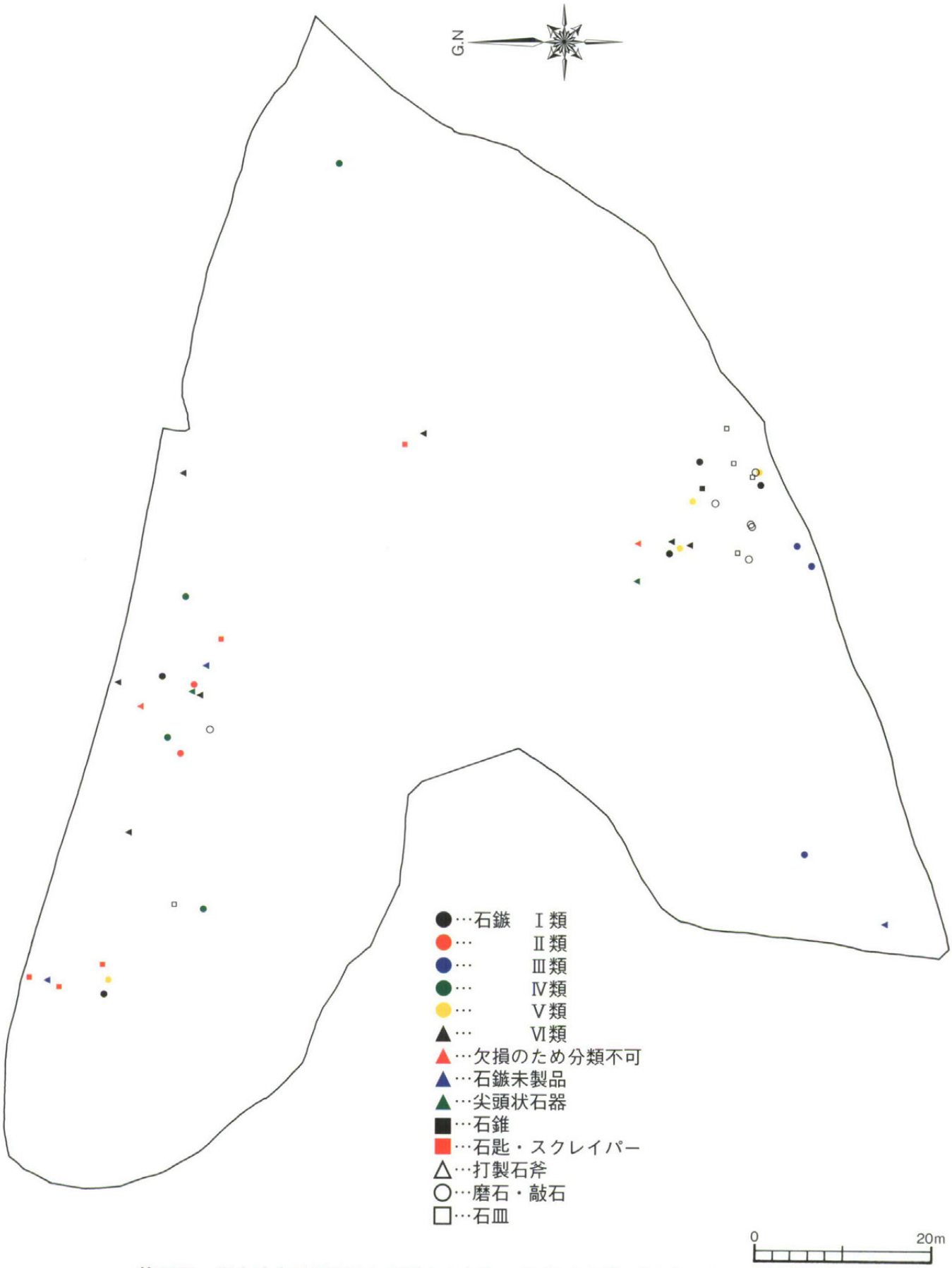
石核は18点（内訳：黒曜石製８点、チャート製６点、頁岩製２点、砂岩製１点、ホルンフェルス製１点）出土しているものの内1点のみ図示している。剥片・砕片は図示していないが、総数で213点出土している。石核・剥片類ともに様々な石材が使用されており、総数と重量の内訳は以下のとおりである。(チャート42点：450.8ｇ、流紋岩・頁岩81点：907.8ｇ、砂岩23点：374.8ｇ、姫島産黒曜石34点：107.7ｇ、黒色を呈する黒曜石38点：61.4ｇ、安山岩・サヌカイト10点：24.1ｇ、その他３点：136.6ｇ　※石材鑑定については肉眼観察によるものであり、分析方法によっては数字が変動する可能性が考えられる。）全体の傾向をみると石核も剥片も砂岩・頁岩・流紋岩製のものは大振りなものが多く、そのほかの石材のものは小振りなものとなっている。

敲石・磨石（132～135）

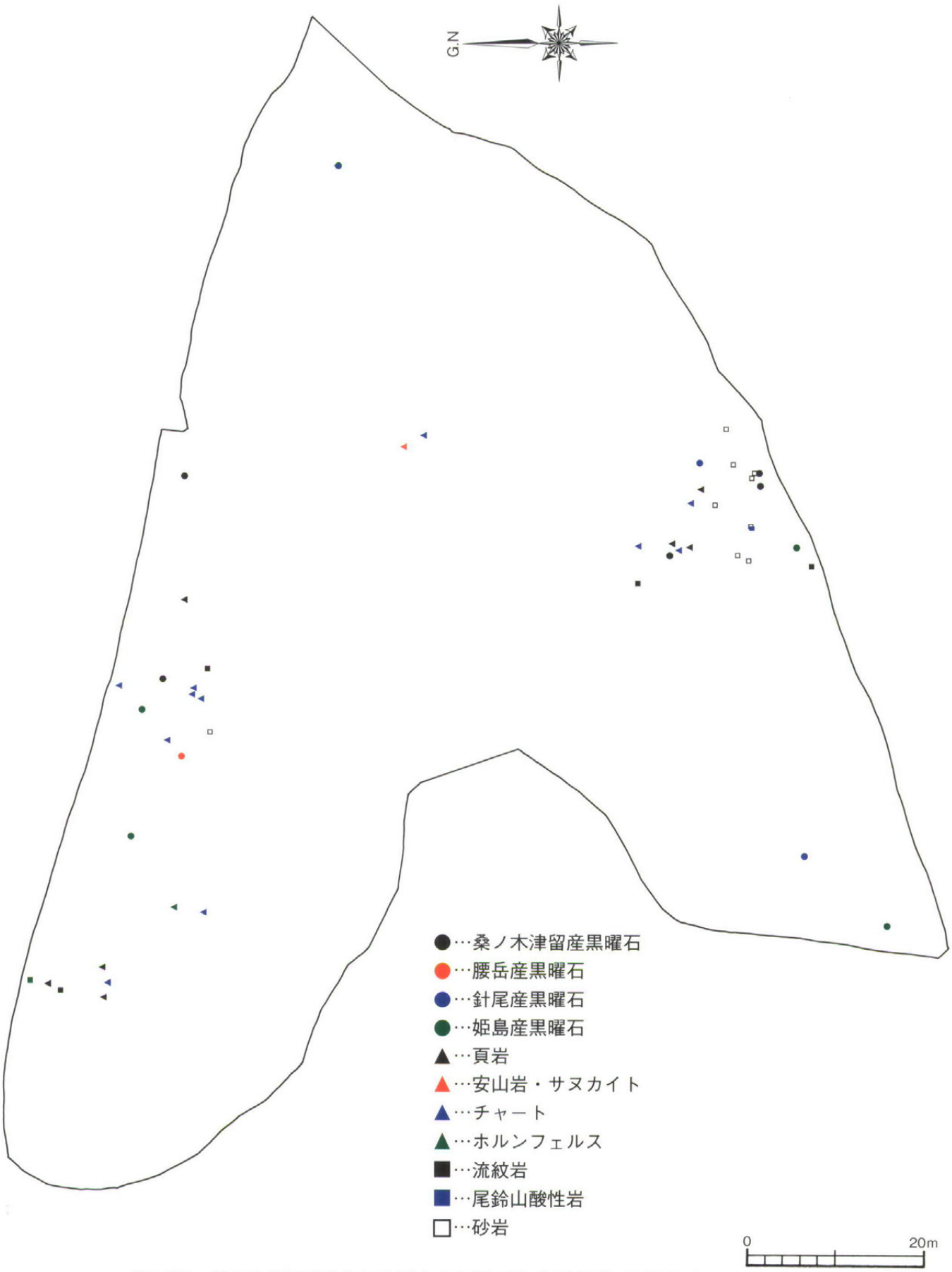
総数で８点出土している。使用石材については砂岩製のものばかりで、尾鈴山酸性岩製のものが１点だけ混じる。敲石は使用痕が端部に見られるものや平坦面に見られるものなどがあり、使用痕の位置で細分が可能である。

石皿

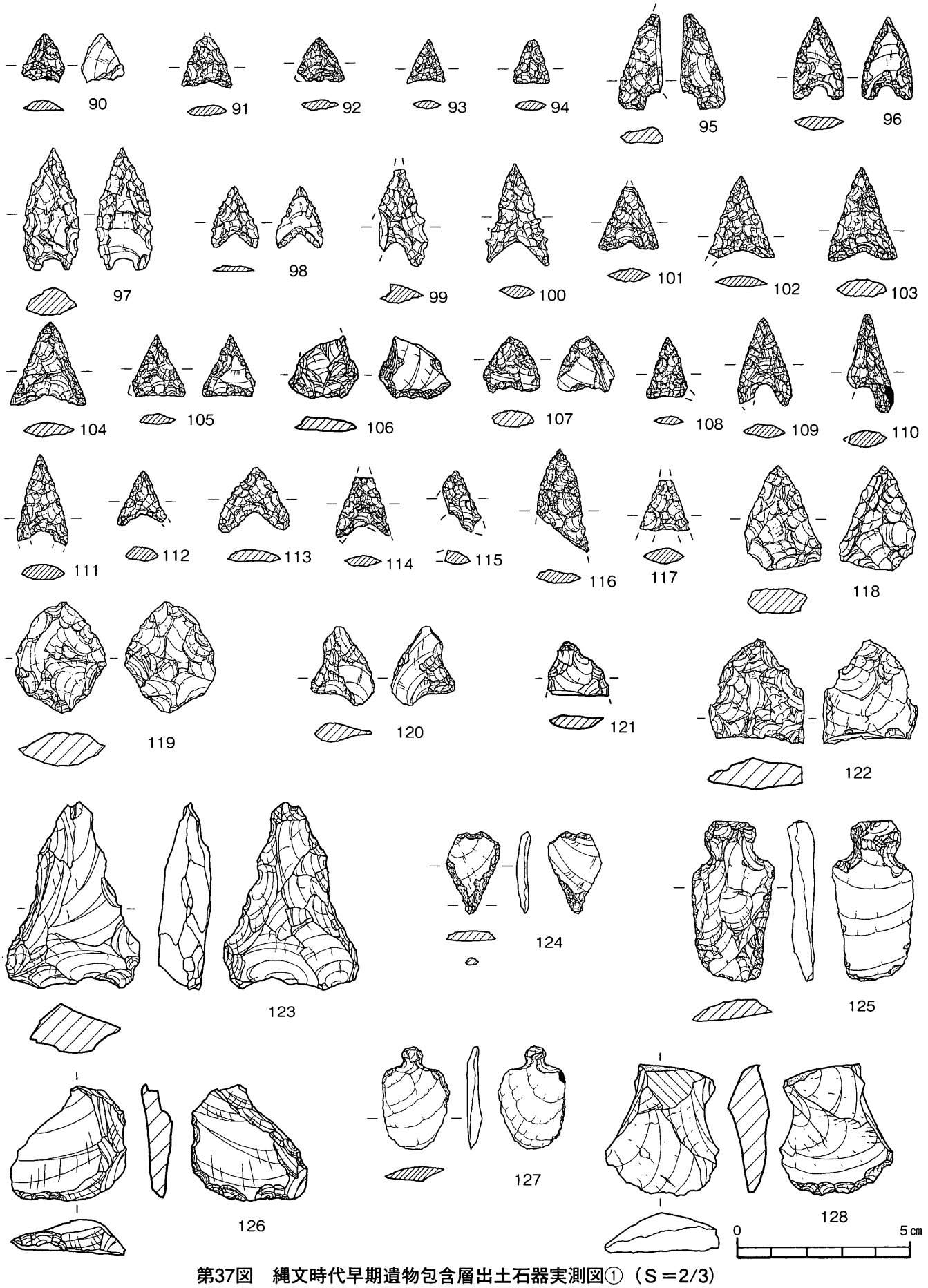
図示しなかったが、総数で５点が出土している。すべて砂岩製である。



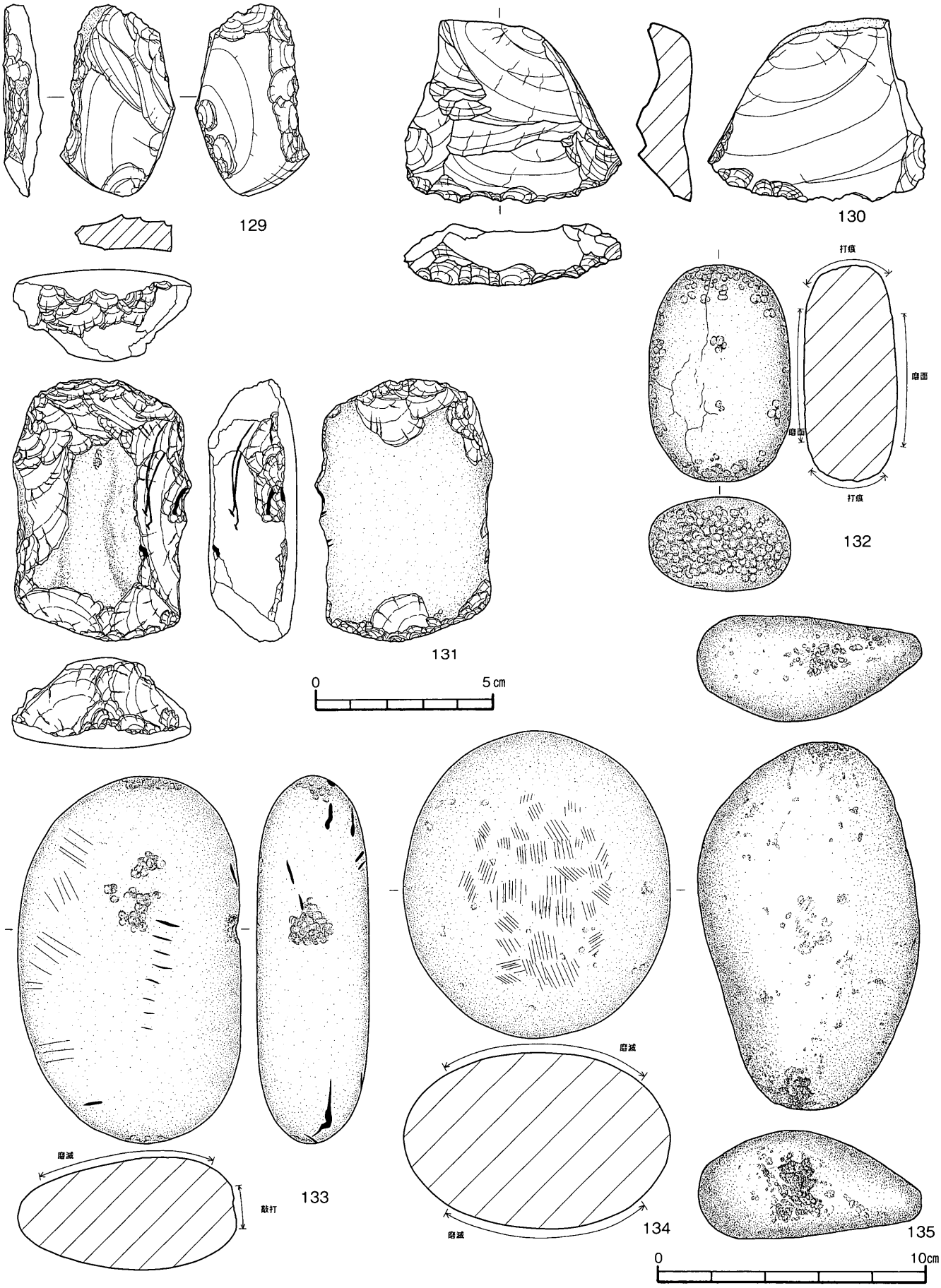
第35図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器【器種別】分布図（S＝1/600）



第36図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器【石材別】分布図（S＝1/600）



第37図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S＝2/3）



第38図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S＝2/3・1/2）

第４表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリット	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
90	15	打製石鏃	F 4	V	黒曜石（針尾）	1.4	1.25	0.3	0.4	
91	41	打製石鏃	G 4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.5)	1.5	0.3	(0.4)	先端部欠損
92	26	打製石鏃	B 3	Ⅵ	頁岩	(1.3)	(1.35)	0.3	(0.4)	脚部欠損
93	32	打製石鏃	C 4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.25	1.05	0.25	0.2	
94	36	打製石鏃	F 4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	1.05	0.25	0.3	
95	48	打製石鏃	C 4	Ⅵ	チャート	(2.75)	(1.3)	(0.45)	(1.3)	鍬形鏃、右半分欠損
96	49	打製石鏃	C 4	Ⅵ	黒曜石（腰岳）	2.35	1.5	0.4	0.9	
97	53	打製石鏃	G 3	V	頁岩	3.5	1.6	0.8	3.8	帖地型石鏃
98	51	打製石鏃	F 2	V	黒曜石（針尾）	1.7	1.35	0.15	0.4	
99	39	打製石鏃	G 3	Ⅵ	黒曜石（姫島）	(2.8)	(1.4)	(0.5)	(1.1)	先端部・脚部欠損
100	34	打製石鏃	F 1	V	黒曜石（姫島）	2.9	1.8	0.35	1.1	
101	30	打製石鏃	C 3	Ⅵ	チャート	(1.8)	1.7	0.4	(0.9)	先端部欠損
102	44	打製石鏃	—	V	チャート	(2.3)	(1.9)	0.3	(0.9)	脚部欠損
103	29	打製石鏃	C 4	Ⅵ	チャート	2.65	2.0	0.5	1.7	
104	31	打製石鏃	C 4	Ⅵ	頁岩	2.4	2.2	0.4	1.3	
105	47	打製石鏃	B 3	Ⅵ	チャート	(1.8)	(1.5)	0.3	(0.5)	脚部欠損
106	396	打製石鏃	F 4	Ⅵ	チャート	(1.75)	2.0	0.4	(1.5)	先端部欠損
107	52	打製石鏃	F 4	Ⅵ	チャート	1.6	1.65	0.5	1.0	
108	40	打製石鏃	G 4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.7)	(1.2)	0.25	(0.4)	脚部欠損
109	28	打製石鏃	C 4	Ⅵ	チャート	(2.5)	(1.55)	0.4	(1.1)	脚部欠損
110	35	打製石鏃	F 4	Ⅵ	頁岩	(2.8)	(1.35)	(0.5)	(1.1)	鍬形鏃、脚部欠損
111	45	打製石鏃	—	V	チャート	(2.6)	(1.5)	0.45	(1.3)	脚部欠損
112	38	打製石鏃	F 4	Ⅵ	頁岩	(1.55)	(1.4)	0.45	(0.5)	脚部欠損
113	27	打製石鏃	C 3	Ⅵ	黒曜石（姫島）	1.9	2.0	0.35	0.7	
114	43	打製石鏃	—	V	チャート	(1.7)	(1.6)	0.3	(0.7)	先端部・脚部欠損
115	12	打製石鏃	—	V	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.75)	(1.1)	(0.45)	(0.4)	脚部欠損
116	37	打製石鏃	F 4	Ⅵ	チャート	(2.95)	(1.5)	(0.35)	(1.1)	脚部欠損
117	42	打製石鏃	—	V	黒曜石（姫島）	(1.45)	(1.4)	(0.45)	(0.6)	先端部・脚部欠損
118	46	打製石鏃未製品	B 3	Ⅵ	頁岩	3.0	2.2	0.7	4.0	
119	55	打製石鏃未製品	G 3	Ⅵ	流紋岩	3.2	2.7	1.0	6.8	
120	50	打製石鏃未製品	F 1	V	黒曜石（姫島）	2.25	1.8	0.5	1.3	
121	400	尖頭状石器未製品	F 3	Ⅵ	流紋岩	(1.5)	(1.8)	(0.4)	(1.0)	石鏃の先端部の可能性有
122	54	尖頭状石器未製品	C 4	V	チャート	2.95	2.7	0.9	7.3	
123	401	尖頭状石器未製品	C 4	Ⅵ	流紋岩	5.3	3.9	1.5	22.8	石核の可能性有
124	56	石錐	F 4	V	頁岩	2.35	1.55	0.4	1.06	
125	57	石匙	D 4	V	チャート	4.65	2.35	0.65	7.82	
126	395	石匙	E 6	V	黒曜石（姫島）	3.25	3.3	1.0	6.8	
127	58	石匙	E 5	V	安山岩	2.9	1.95	0.4	1.95	
128	398	石匙	B 3	Ⅵ	緑色堆積岩	3.7	3.3	1.2	11.5	
129	59	スクレイパー	B 3	Ⅵ	頁岩	5.4	3.3	1.2	17.9	
130	397	スクレイパー	B 3	Ⅵ	流紋岩	5.1	6.1	1.7	42.8	
131	60	石核	C 3	Ⅵ	ホルンフェルス	7.3	5.05	2.5	121.4	
132	62	敲石	C 4	Ⅵ	砂岩	8.1	5.4	3.55	213.4	
133	63	敲石	F 3	Ⅵ	砂岩	13.75	8.45	4.25	684.79	
134	61	磨石	G 3	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	11.55	10.5	6.55	1093.1	
135	399	敲石	G 4	Ⅵ	砂岩	13.7	8.3	4.0	563.7	

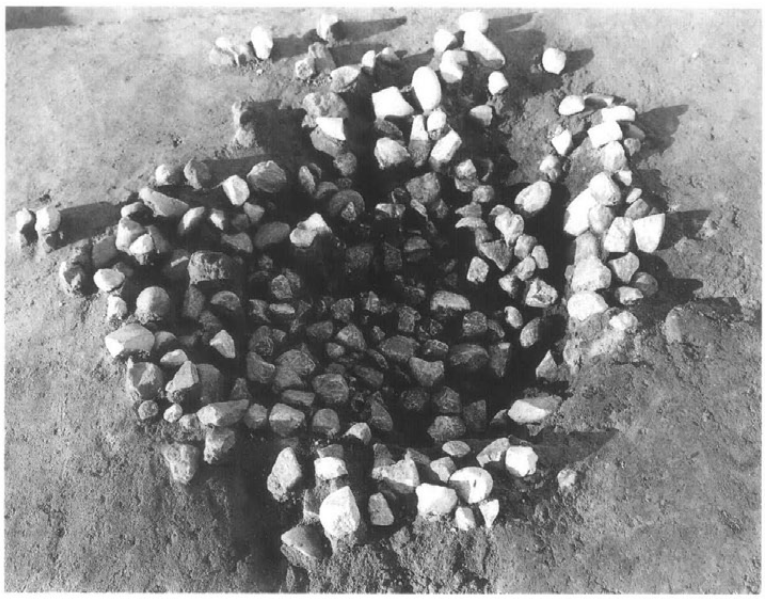
（　　）の値は残存値を示す

SI-34
《^{14}C年代：11530±90年BP》

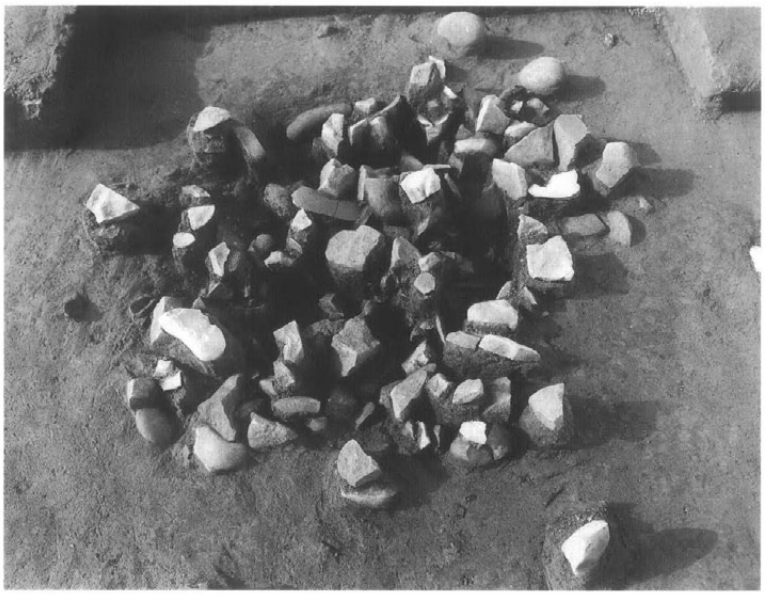
SI-1
《^{14}C年代：9870±70年BP》

SI-28
《^{14}C年代：9620±70年BP》

写真図版５　縄文時代早期遺構①



SI-26
《^{14}C年代：9430±70年BP》



SI-25
《^{14}C年代：9000±70年BP》

SI-35
《^{14}C年代：8770±80年BP》

写真図版６　縄文時代早期遺構②

SI-31
《^{14}C年代：8420±70年BP》

SI-7・9
《7…^{14}C年代：8410±60年BP》
《9…^{14}C年代：8320±70年BP》

SI-6
《^{14}C年代：8330±60年BP》

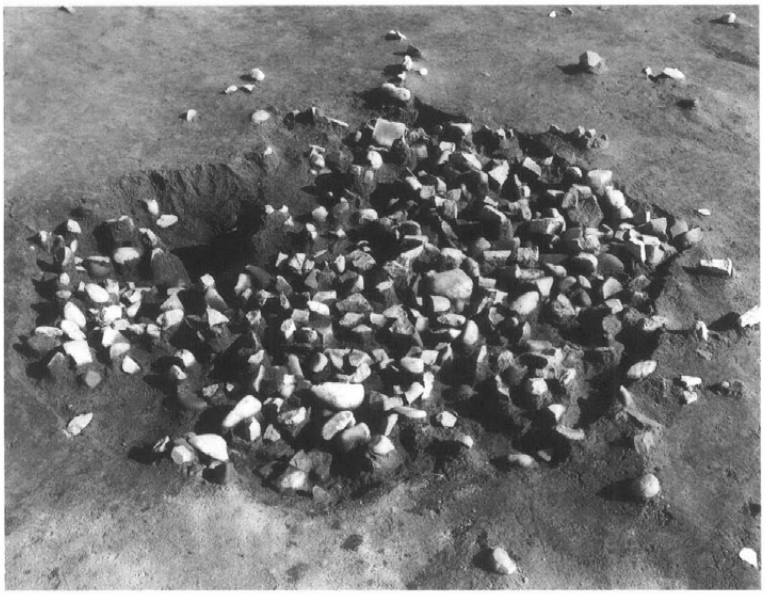
写真図版７　縄文時代早期遺構③

SI-8
《^{14}C年代：8310±70年BP》

SI-29
《^{14}C年代：8210±70年BP》

SI-10
《^{14}C年代：7780±60年BP》

写真図版８　縄文時代早期遺構④



SI-13

SI-11

SI-16・17

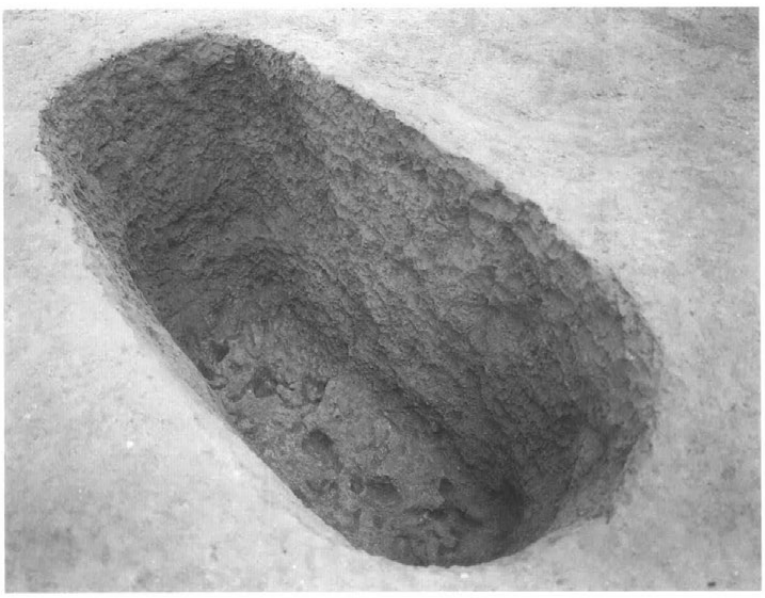
写真図版９　縄文時代早期遺構⑤

SI-19

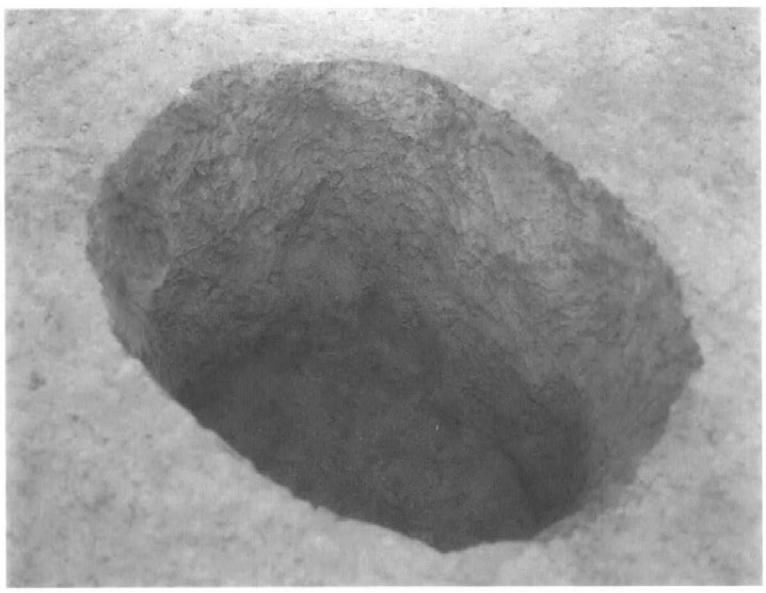
SI-33

SC-3
《^{14}C年代：8920±80年BP》

写真図版10　縄文時代早期遺構⑥



SC-4

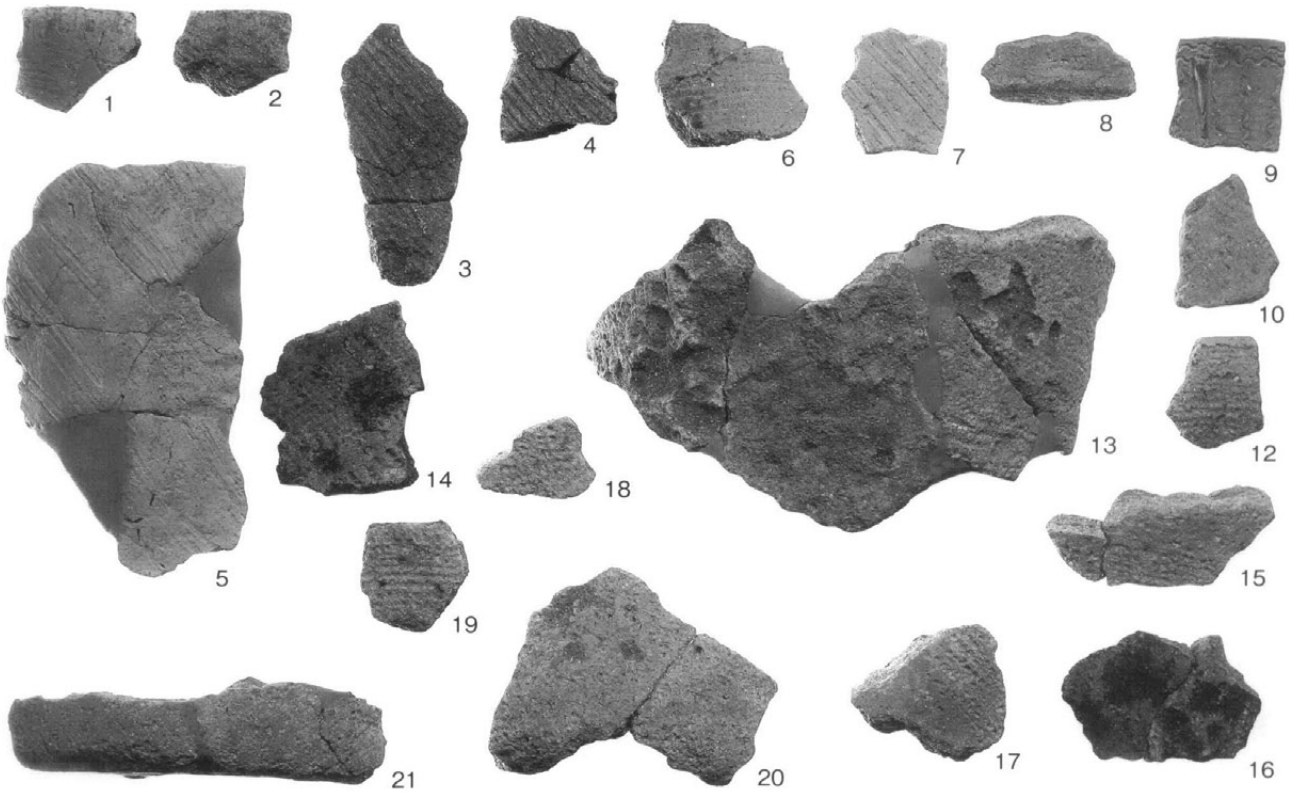


SC-7

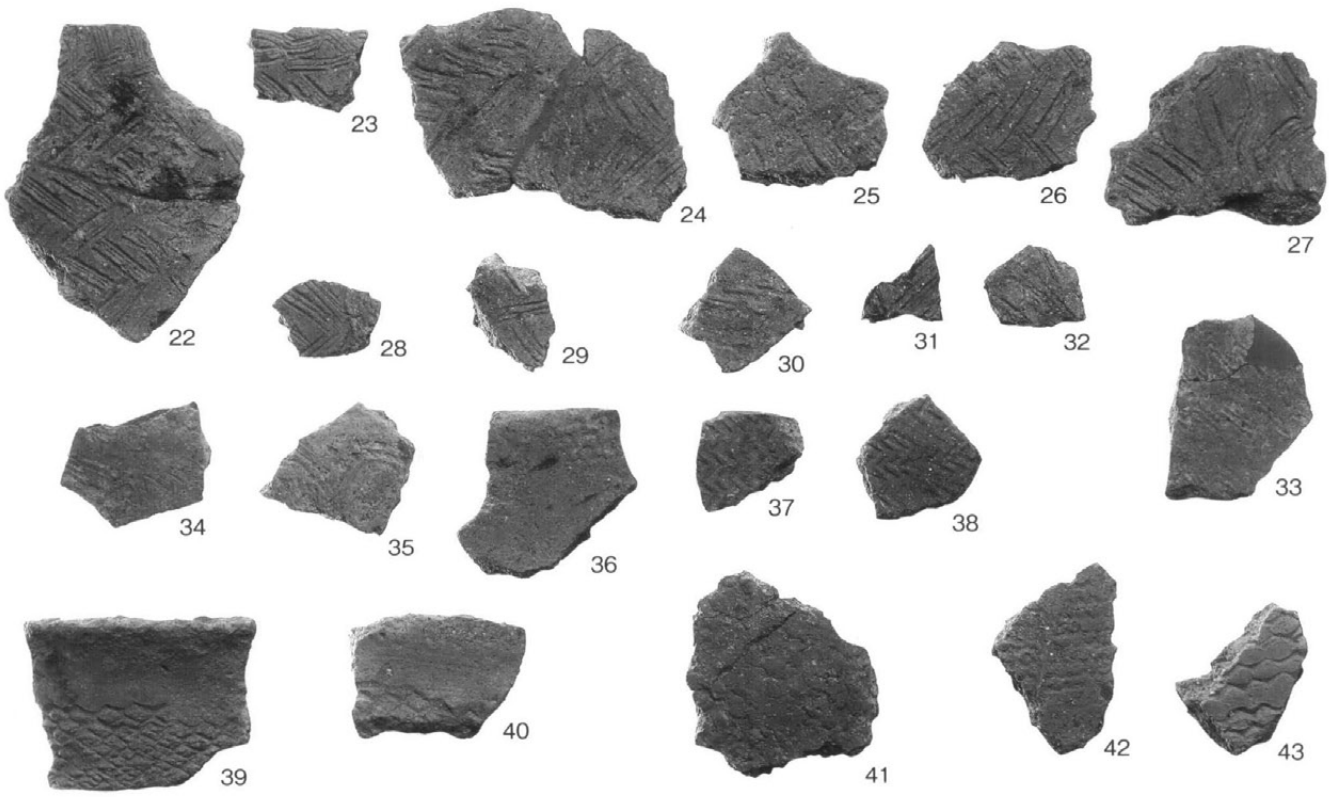
SC-13

写真図版11　縄文時代早期遺構⑦

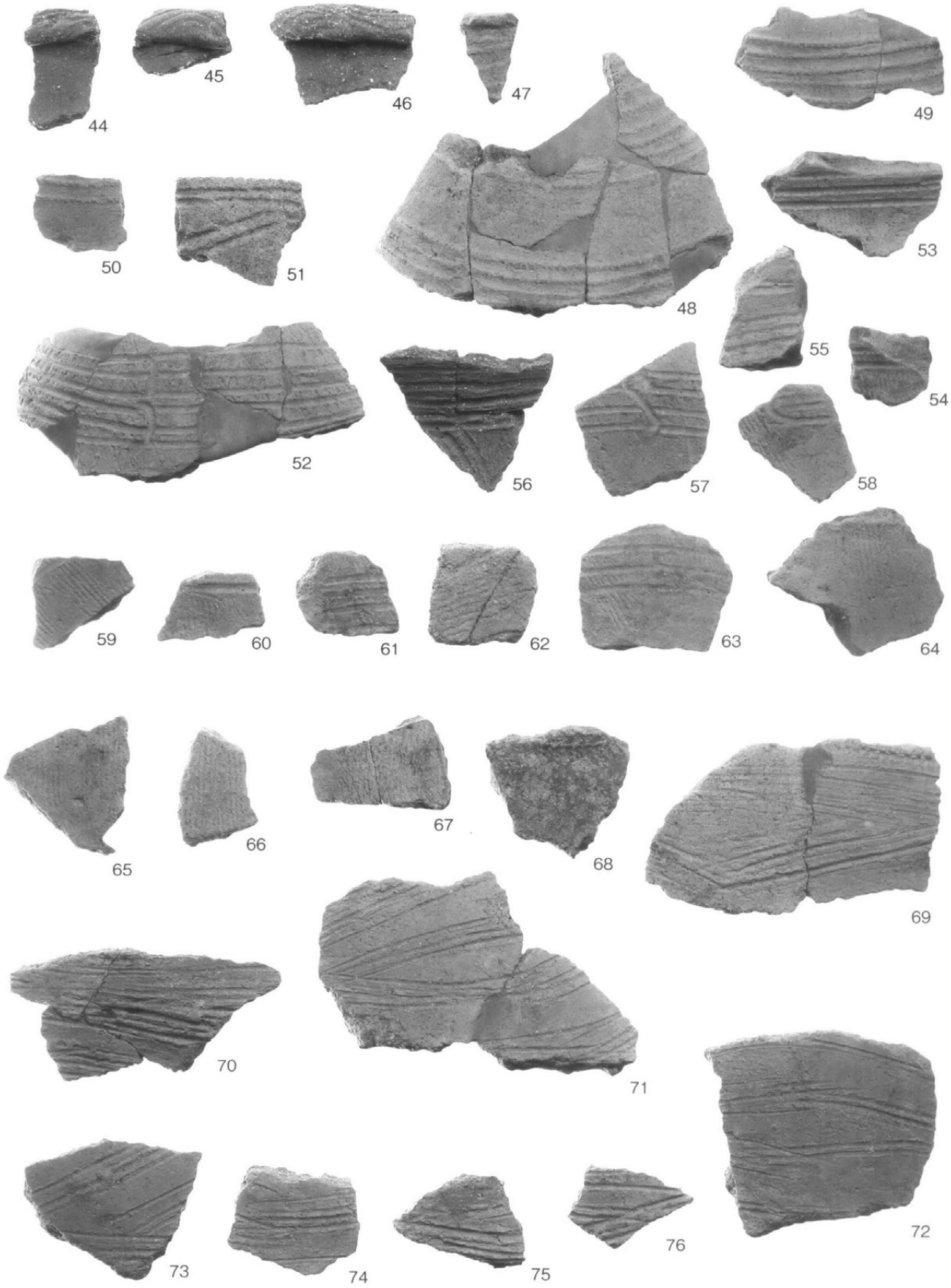
写真図版12　SC-３出土土器



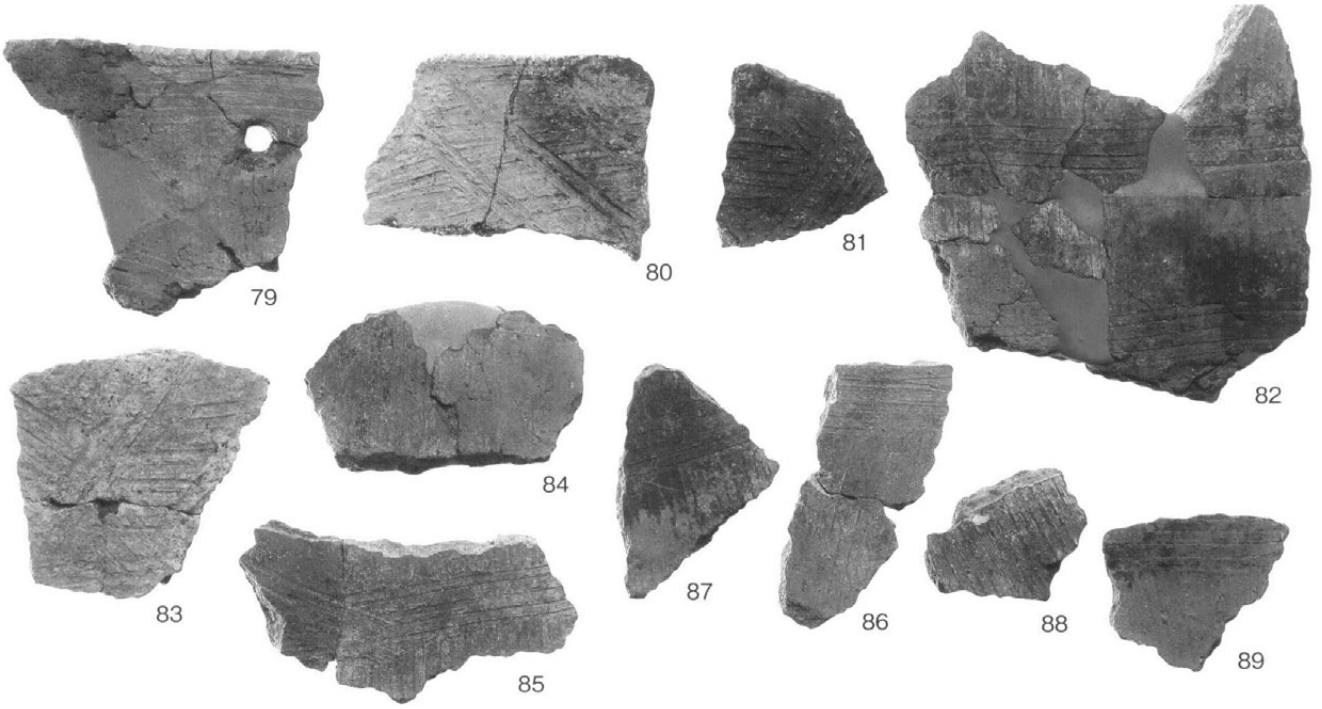
写真図版13　縄文時代早期遺物包含層出土土器①

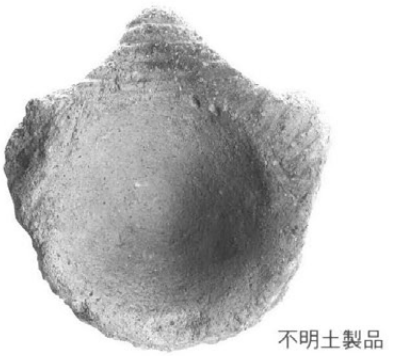


写真図版14　縄文時代早期遺物包含層出土土器②

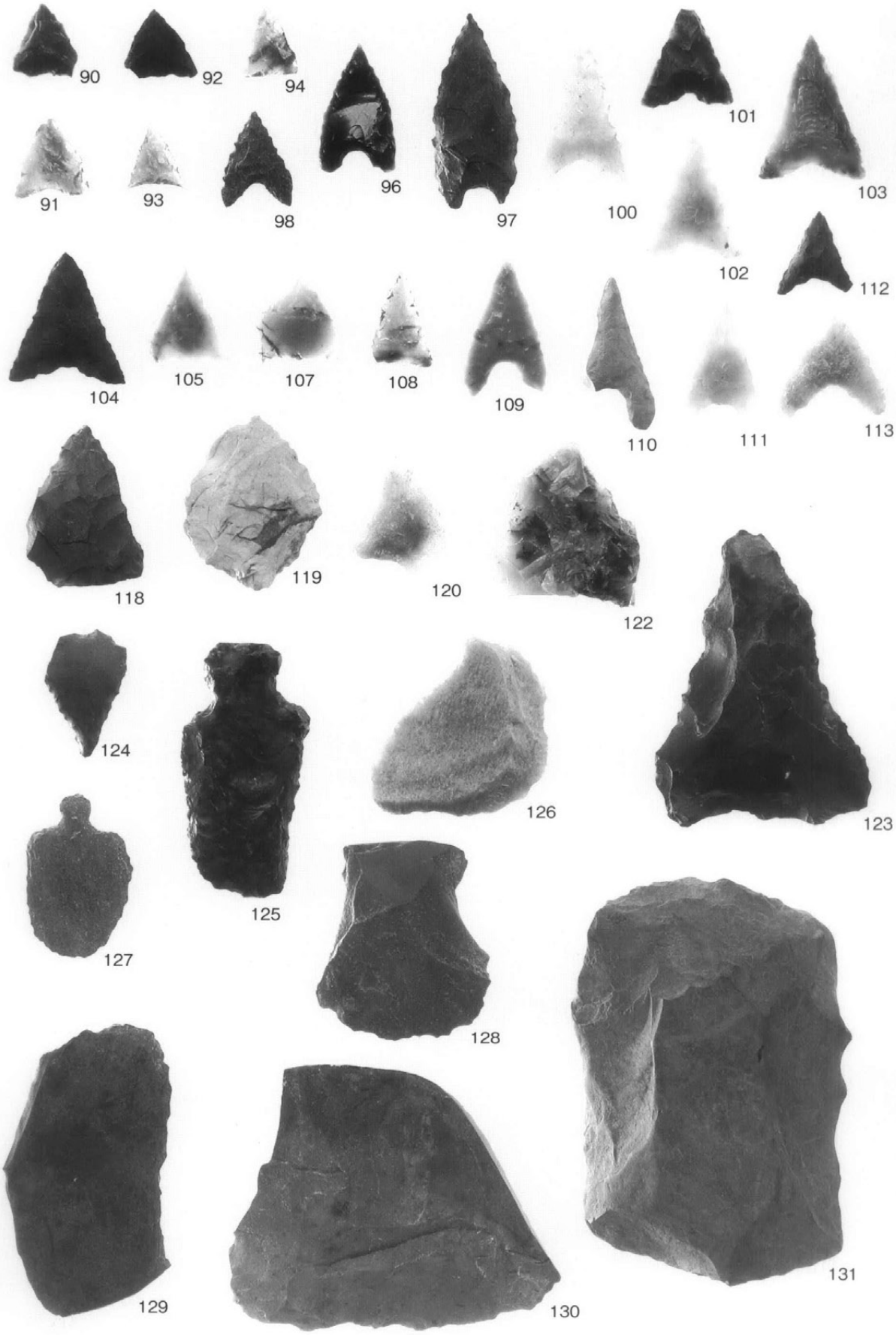


写真図版15　縄文時代早期遺物包含層出土土器③





写真図版16　縄文時代早期遺物包含層出土土器④



写真図版17　縄文時代早期遺物包含層出土石器

3rd Period

第Ⅳ章　アカホヤ火山灰層上位についての調査

第1節　遺　　構

1．土　坑

SC-1

Ⅴ層上面で検出された。平面プランは長軸2.05m・短軸0.85mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは0.7mである。埋土は白色パミスを多量に含む軟質の褐色土で、用途については不明である。

SC-2

Ⅴ層上面で検出された。平面プランは長軸1.3m・短軸0.8mの不整形な楕円形を呈し、検出面からの深さは0.25で、遺構ほぼ中央に直径約0.6m・深さ0.75mのピットを有する。埋土は炭化粒を含むやや軟質の黄褐色土で、その中からは姫島産黒曜石製の石鏃未製品が1点出土している。又、埋土中の炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は470±70年BPという結果が得られているが、用途については不明である。

SC-8

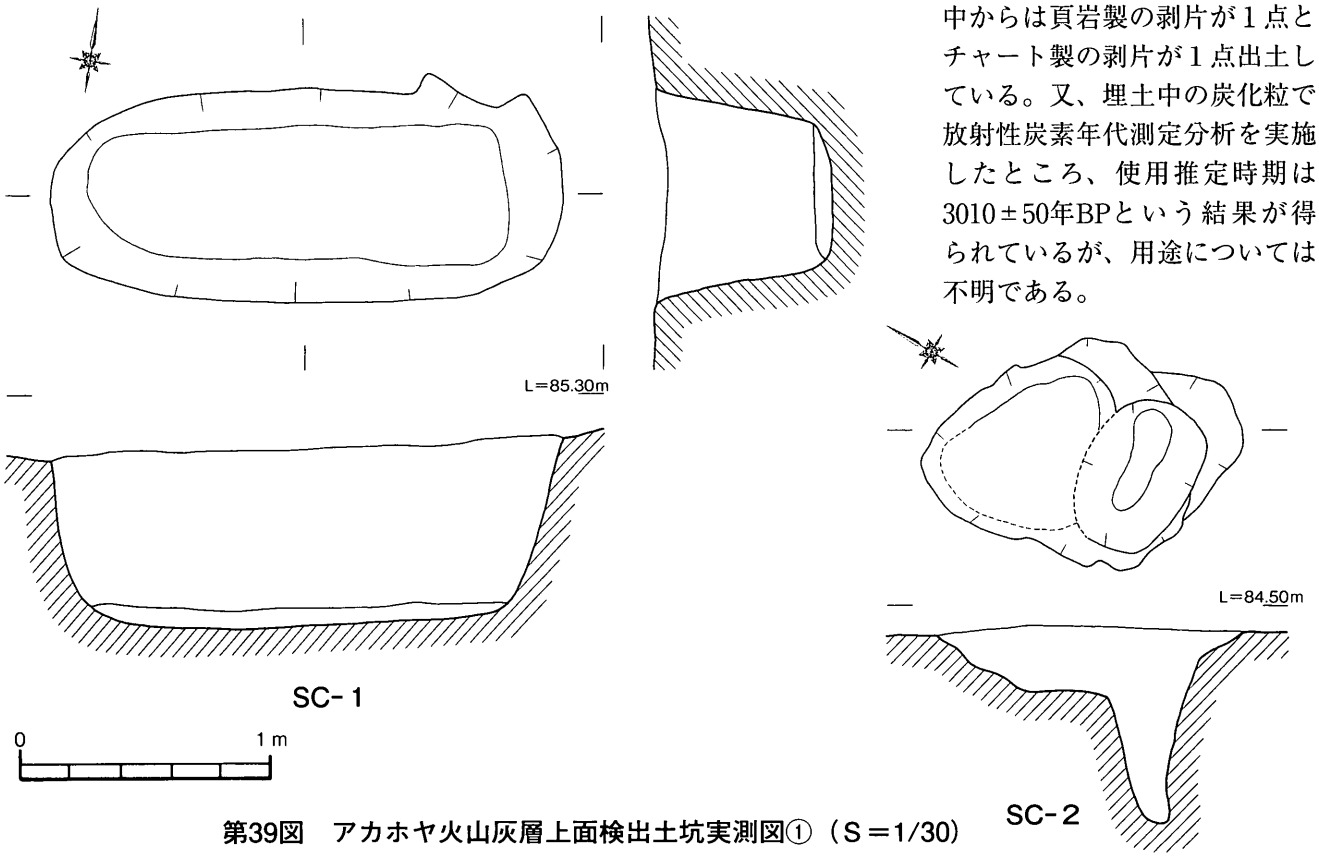
Ⅸ層上面で検出された。平面プランは長軸1.1m・短軸0.55mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは0.55mである。埋土は軟質の褐色土で、用途については不明である。

SC-14

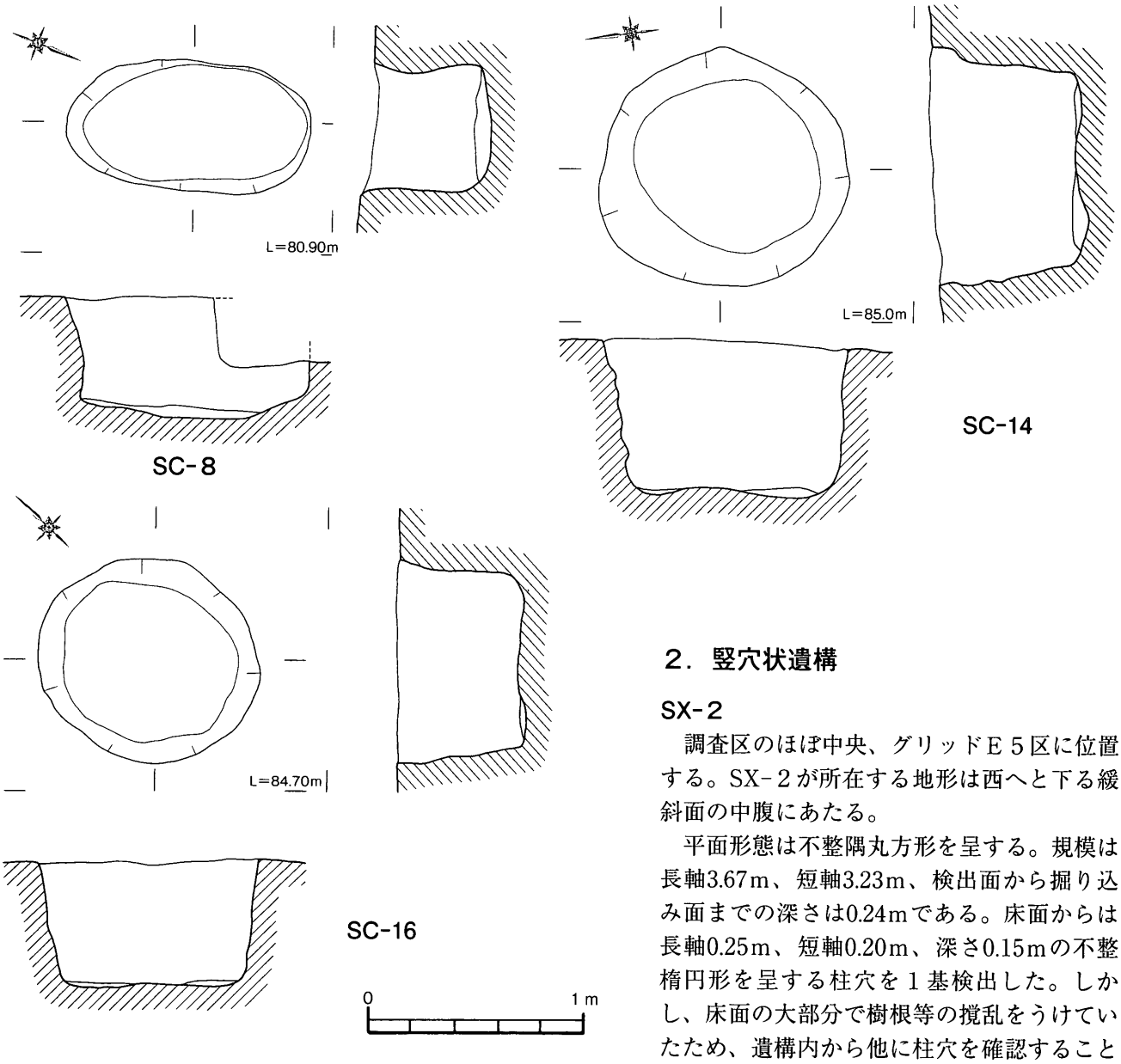
Ⅷ層上面で検出された。平面プランは約1.1mの円形を呈し、検出面からの深さは0.7mである。埋土は炭化粒を含む軟質の黄褐色土で、その中からは黒曜石製の石鏃（先端部のみ）が1点と黒曜石製の剥片が1点出土している。又、埋土中の炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は2980±50年BPという結果が得られているが、用途については不明である。

SC-16

Ⅷ層上面で検出された。平面プランは約1mの円形を呈し、検出面からの深さは0.6mである。埋土は炭化粒を含む軟質の黄褐色土で、その中からは頁岩製の剥片が1点とチャート製の剥片が1点出土している。又、埋土中の炭化粒で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は3010±50年BPという結果が得られているが、用途については不明である。



第39図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑実測図①（S＝1/30）



第40図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑実測図②（S＝1/30）

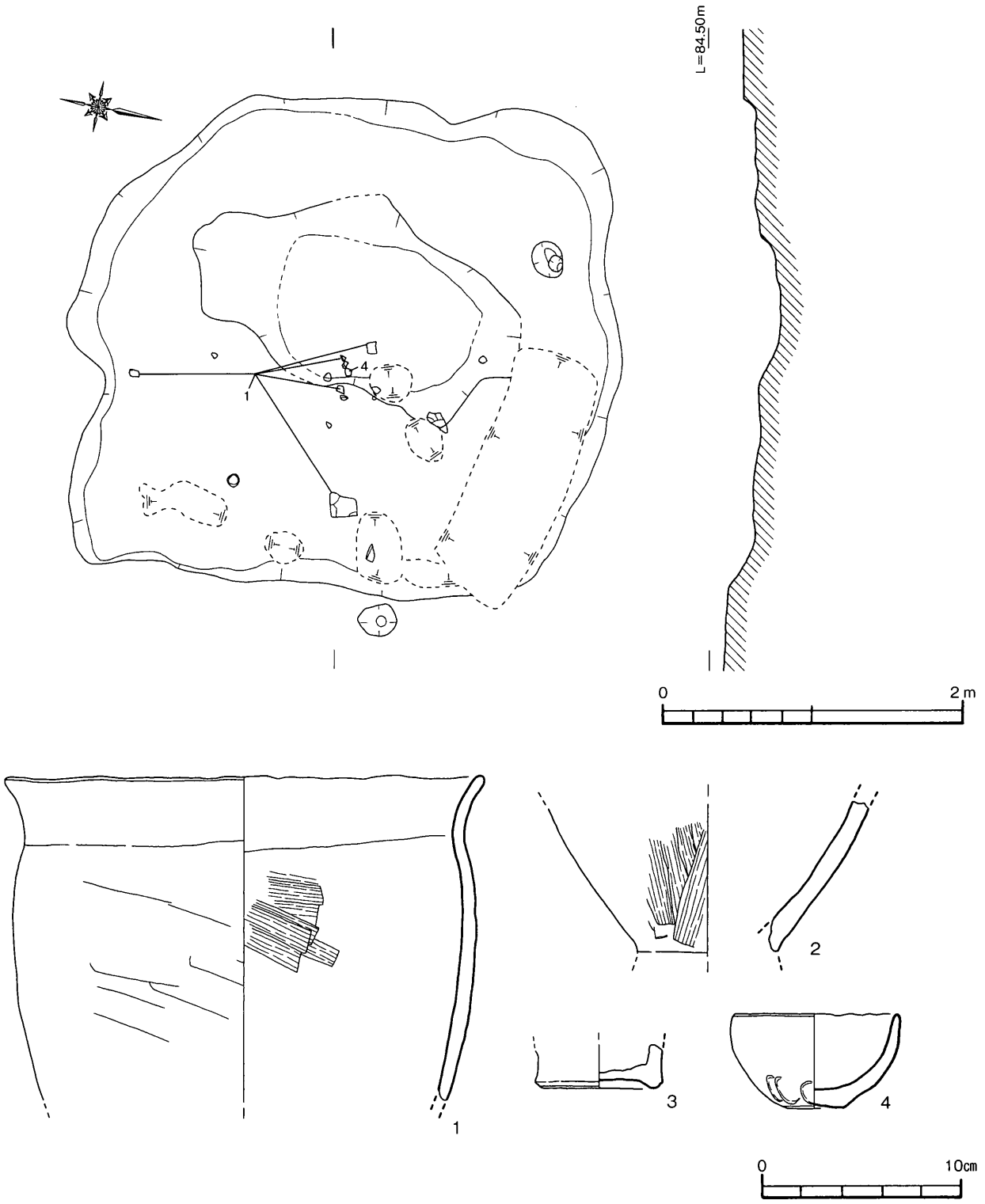
2．竪穴状遺構

SX-2

調査区のほぼ中央、グリッドＥ５区に位置する。SX-２が所在する地形は西へと下る緩斜面の中腹にあたる。

平面形態は不整隅丸方形を呈する。規模は長軸3.67m、短軸3.23m、検出面から掘り込み面までの深さは0.24mである。床面からは長軸0.25m、短軸0.20m、深さ0.15mの不整楕円形を呈する柱穴を１基検出した。しかし、床面の大部分で樹根等の撹乱をうけていたため、遺構内から他に柱穴を確認することはできなかった。また、本遺構周辺からも柱穴が確認されたが、１基のみの検出であったため、上屋を構成するための柱穴かどうかは判断できなかった。なお、遺構中央部には不整楕円形を呈する浅い落ち込みが確認されている。埋土の堆積状況から判断すると、この落ち込みはSX-２に伴うものと思われる。SX-２の性格については、上屋構造を想定できる柱穴の配置が確認されなかったこと、床面が水平でないことなど、竪穴住居と結論付けるには不確定な要素が多かった。そのため、本報告では用途不明の竪穴状遺構とした。

SX-２の埋土中からは数点の弥生土器が出土した。１～３は甕形土器である。**１**は口縁部から胴部まで残存している。口縁部は緩やかに外反する。口唇部は平坦面を形成するが、端部は丸い。胴部はあまり張らない。外面調整は口縁部がナデ、胴部が板状工具によるナデである。内面調整は口縁部がナデ、胴部が横位のハケメである。**２**は胴下半部の破片である。胴部から脚部に至る屈曲部が残存していることから、脚台を有していたものと思われる。調整は外面が縦位のハケメ、内面がナデである。**３**は底部片である。脚台状を呈しており、上げ底である。外面調整はナデ・指オサエである。内面は剥落しているため、調整は不明である。**４**はほぼ完形の鉢形土器である。口縁部は直立して立ち上がり、口唇部を丸くおさめる。底部はやや上げ底である。外面調整は口縁部～胴上半部がナデ、胴下半部が指オサエである。内面調整はナデである。SX-２から出土した遺物の時期は甕形土器の形態的特徴から、弥生時代終末期頃と考えられる。

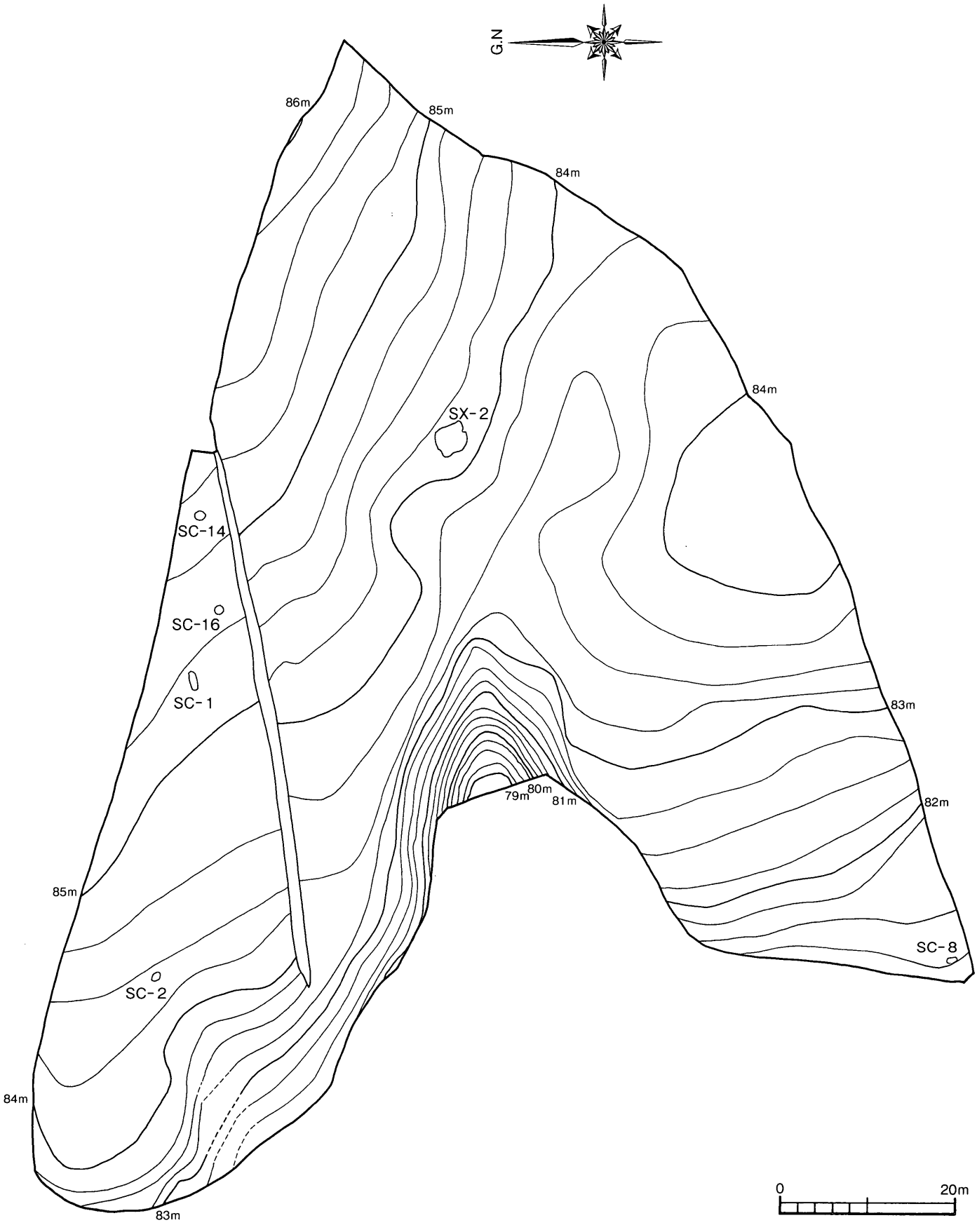


第41図　SX-２実測図（S＝1/40）及びSX-２出土遺物実測図（S＝1/3）

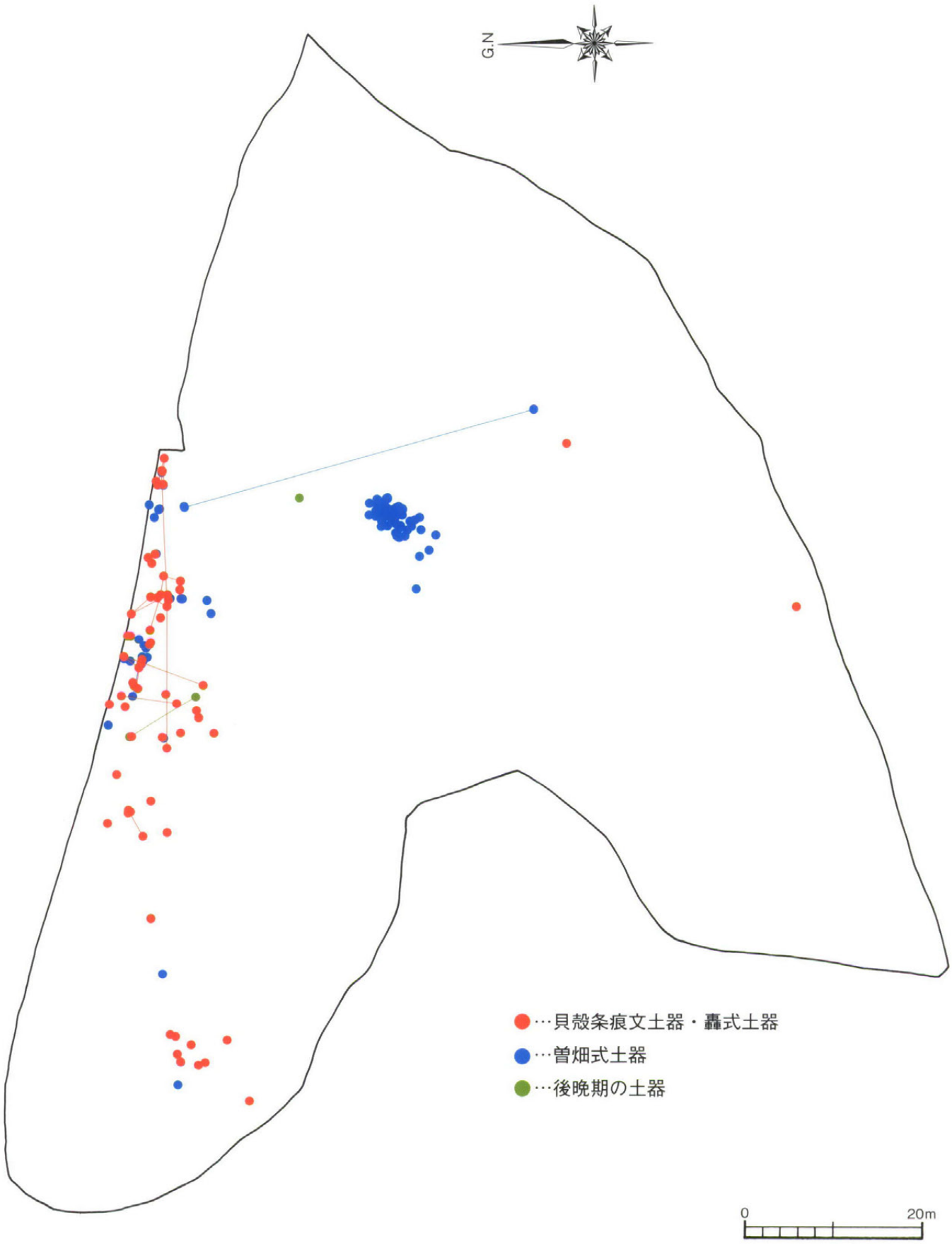
第５表　SX-２出土遺物観察表

遺物No.	出土地点	器種	残存部位	文様及び調整		色調		法量（cm）			備考	遺物整理No.
				外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高		
1	SX-2	甕	口縁～胴部	ナデ　板状工具によるナデ	ナデ　ハケメ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	(23.8)			スス付着　反転復元	429
2	SX-2	甕	胴～脚部	ハケメ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙					369
3	SX-2	甕	底部	ナデ　指オサエ	—	7.5YR5/4 にぶい褐	—		(6.0)		内面剥落　反転復元	370
4	SX-2	鉢	完形	ナデ　指オサエ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR4/3 褐	8.0	2.8	4.6		428

（　　）は復元径である。



第42図　アカホヤ火山灰層上面検出遺構配置図（S＝1/600）



第43図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器分布図（S＝1/600）

第２節　包含層出土遺物

１．縄文土器

アカホヤ火山灰層上位においては、Ⅲ層（通称２次アカ）が残存している区域から縄文土器が出土した。出土した縄文土器はそのほとんどが縄文時代前期のもので、極わずかに縄文時代晩期のものも含まれていた。

貝殻条痕文土器･轟式土器（１～70）

貝殻条痕文土器及び轟式土器は出土した70点全てを資料化している。

１は内外面に貝殻条痕文を施した口縁部片で、口唇部を外反方向に対し垂直な面で平らに仕上げている。**２～６**は内外面に貝殻条痕文を施した胴部片で、いずれも小破片のため器形的特徴は不明である。**７～10**は地文に貝殻条痕文を施したあと断面三角形の隆起帯文を施した口縁部片で、９・10はそれに加え横位の列点文を施している。**11～17**は９・10と同様の特徴をもつ土器群の胴部片である。**18～31**は地文に貝殻条痕文を施したあと断面三角形の隆起帯文を施し、その隆起帯文にキザミ目を施した胴部片である。いずれも小破片のため器形的特徴を把握しにくいが、23については胴部がやや張る器形ではないかと推測される。**32～34**は地文に貝殻条痕文を施したあと隆起帯文を施し（キザミ目有り）、その隆起帯文の下位に刺突文を加えて施した口縁部片及び胴部片である。32については平らに仕上げた口唇部にキザミ目を施している。**35～43**は地文に貝殻条痕文を施しそれに加え隆起帯文を施した口縁部片である。口唇部については平らに仕上げたもの（35・38・39・42）とやや尖り気味に仕上げたものといずれも確認できる。**44～65**は35～43とほぼ同様の特徴をもつ土器群の胴部片で、44・52・58・60については隆起帯文にキザミ目を施している。**66～70**は外面に細い棒状工具による沈線文と隆起帯文（キザミ目有り）を施した胴部片で、いずれも小破片のため器形的特徴などの詳細は不明である（66～70については、地文の貝殻条痕文が判断しにくく、もしかすると轟式土器の範疇には入らないのかもしれないが、轟式土器に後続する野口式土器の特徴も併せ持った土器として今回はこの土器群のなかで取り扱った）。

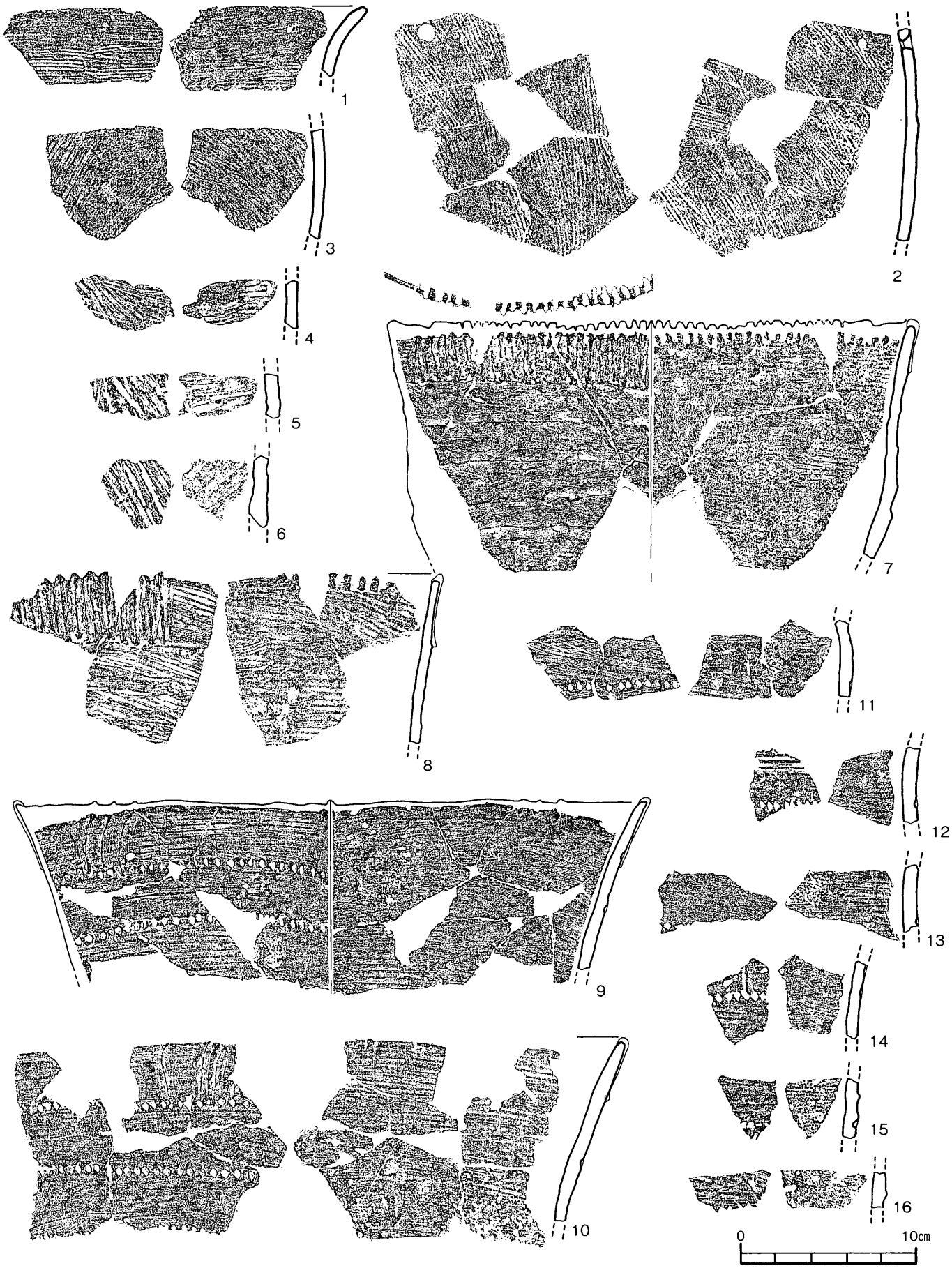
曽畑式土器（71～134）

曽畑式土器は178点出土し、そのうち64点を資料化している。

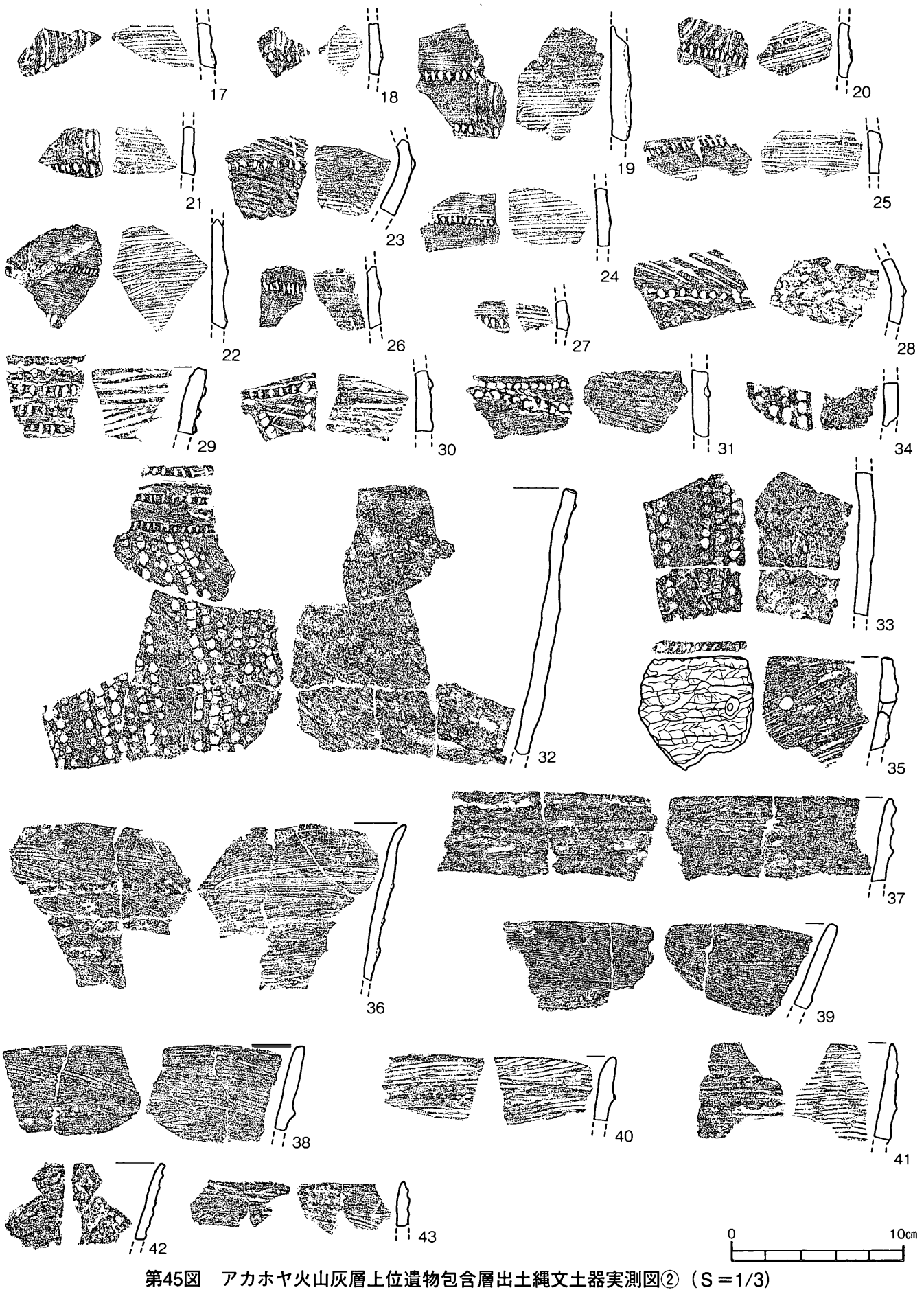
71～85は口縁部外面（口唇部直下）に２列から３列の羽状の刺突文を施し、その下位に沈線文を施した口縁部片（破損して口唇部付近が残存しないものも含む）である。平口縁（71～73・77・81・82）と波状口縁（74～76）いずれもあり、そのほとんどが外反しており、又、平らに仕上げた口唇部にはキザミ目を施している。尚、内面には沈線文を施しているが、その文様形態は外面と似たものが多く見られる。**86～88**は71～85同様口縁部外面（口唇部直下）に刺突文を施しているが、その施文範囲は71～85よりも広く一方向に数列刺突している。内面は71～85とは異なり沈線文は施さず貝殻条痕文のあとナデ調整を行っている。やや外反する71～85と比較すると86・87はいずれも直口しており、平らに仕上げた口唇部にはキザミ目を施している（86）。**89**は内外面に沈線文を施した口縁部片で、平らに仕上げた口唇部にはキザミ目を施している。**90～134**は外面に細い棒状工具による幾何学的な沈線文を施した胴部片である。

その他（135～144）

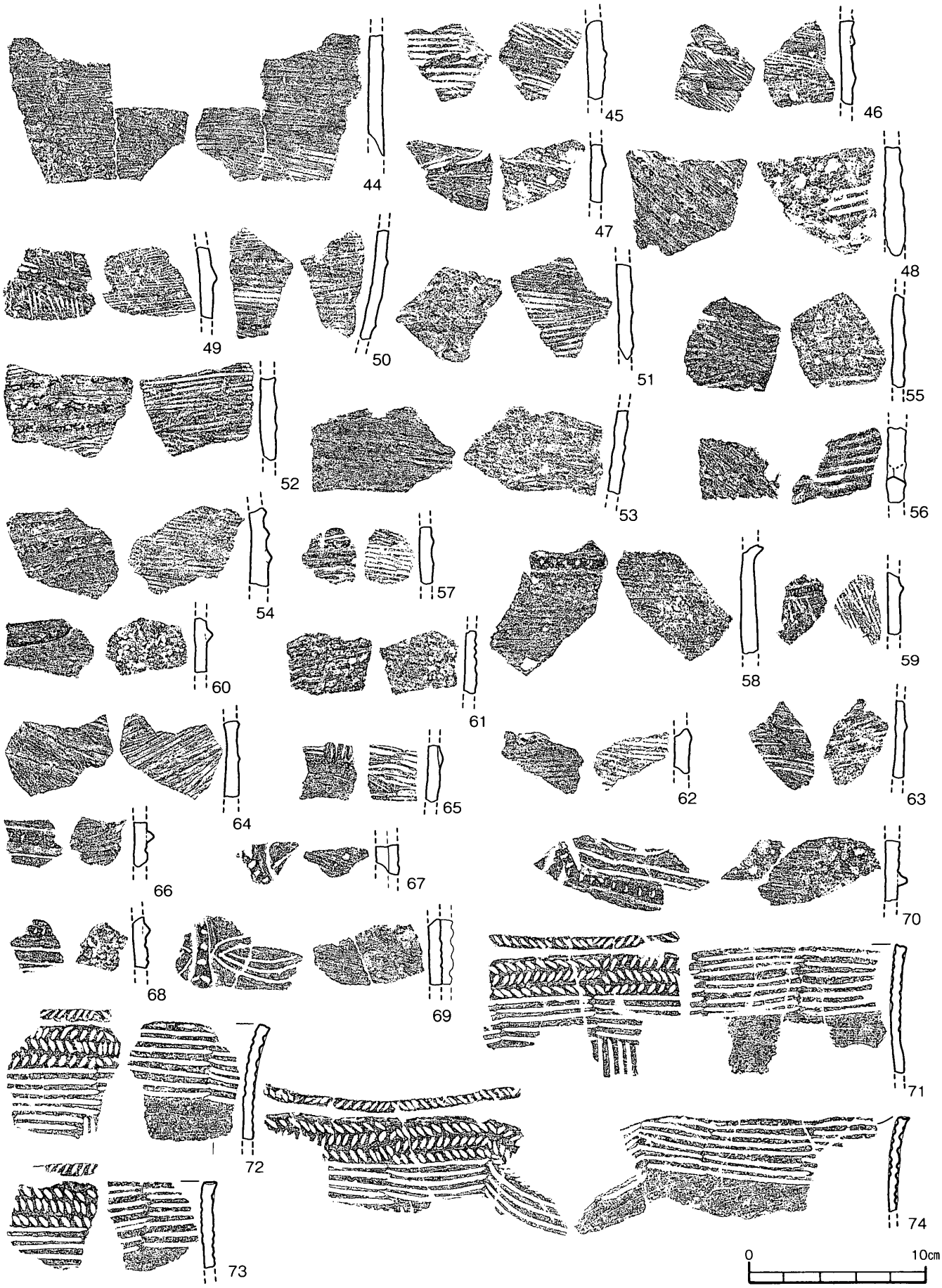
135は外面に刺突文と隆起帯文を内面に貝殻条痕文を施した胴部片である。前述の轟式土器や曽畑式土器とほぼ同時期のものではないかと推測されるが、小破片のため器形的特徴など詳細が不明で断定は出来ない。**136・138**は口縁部に肥厚帯を巡らした口縁部で、いずれも外面に貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っている。**137**は屈曲部をもった胴部片で、136・138とほぼ同様の特徴をもつ土器であろう。**139～144**は内外面ともにミガキ調整を行った胴部片で、小破片のため断定は出来ないが滑川第２遺跡でも出土した胴部に屈曲部を持つ浅鉢の胴部ではないかと推測される。



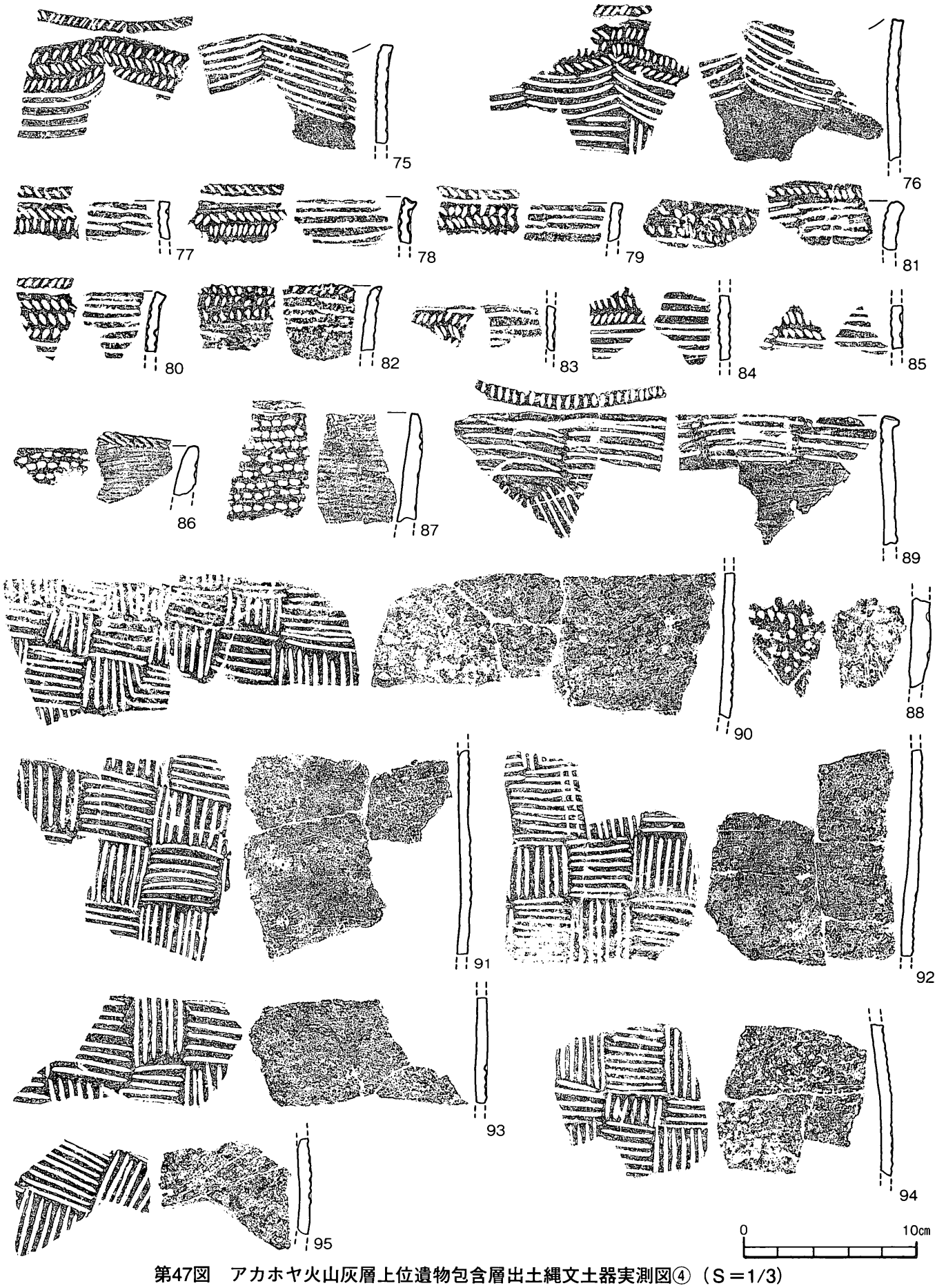
第44図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図①（S＝1/3）



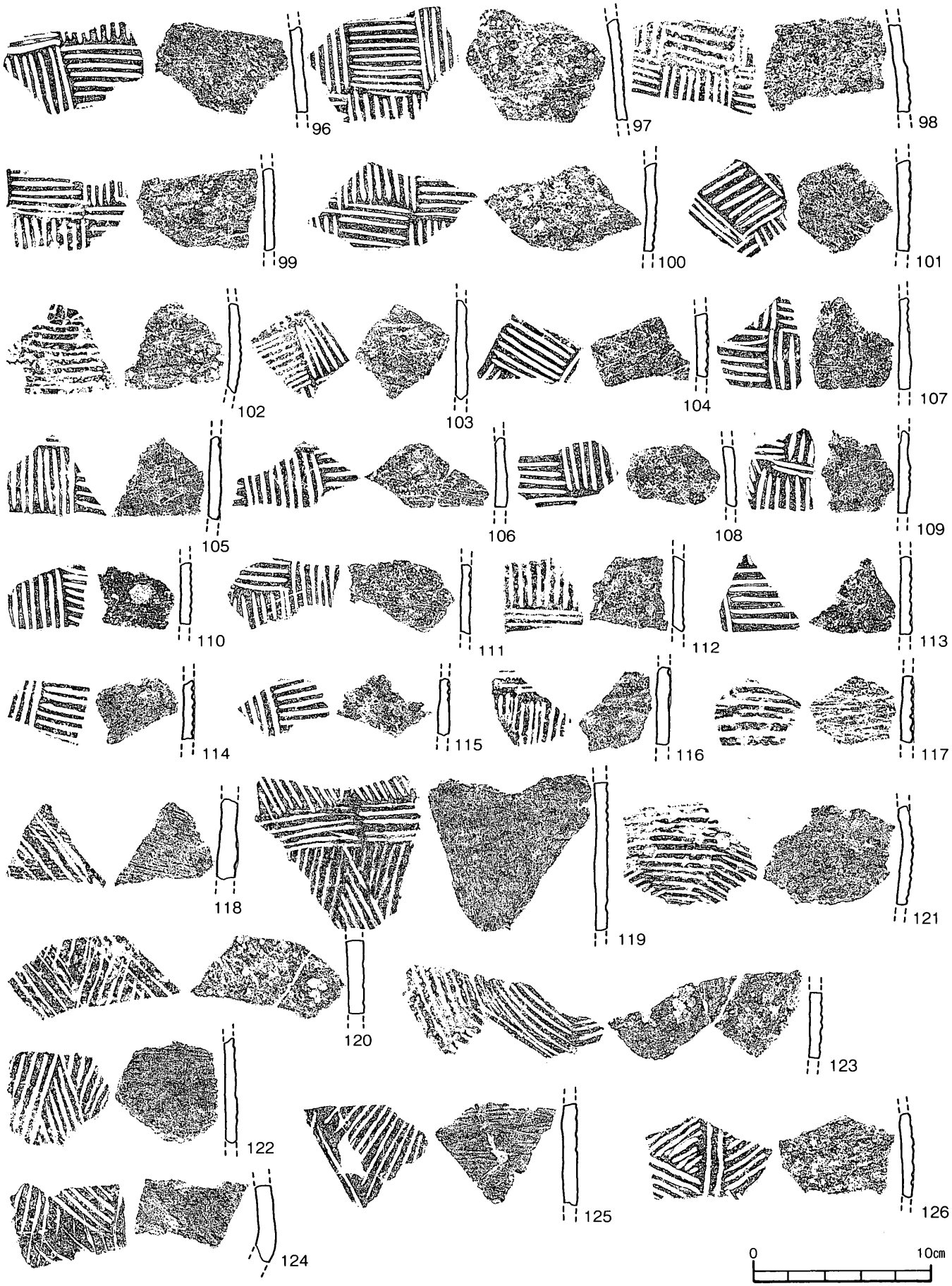
第45図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図②（S＝1/3）



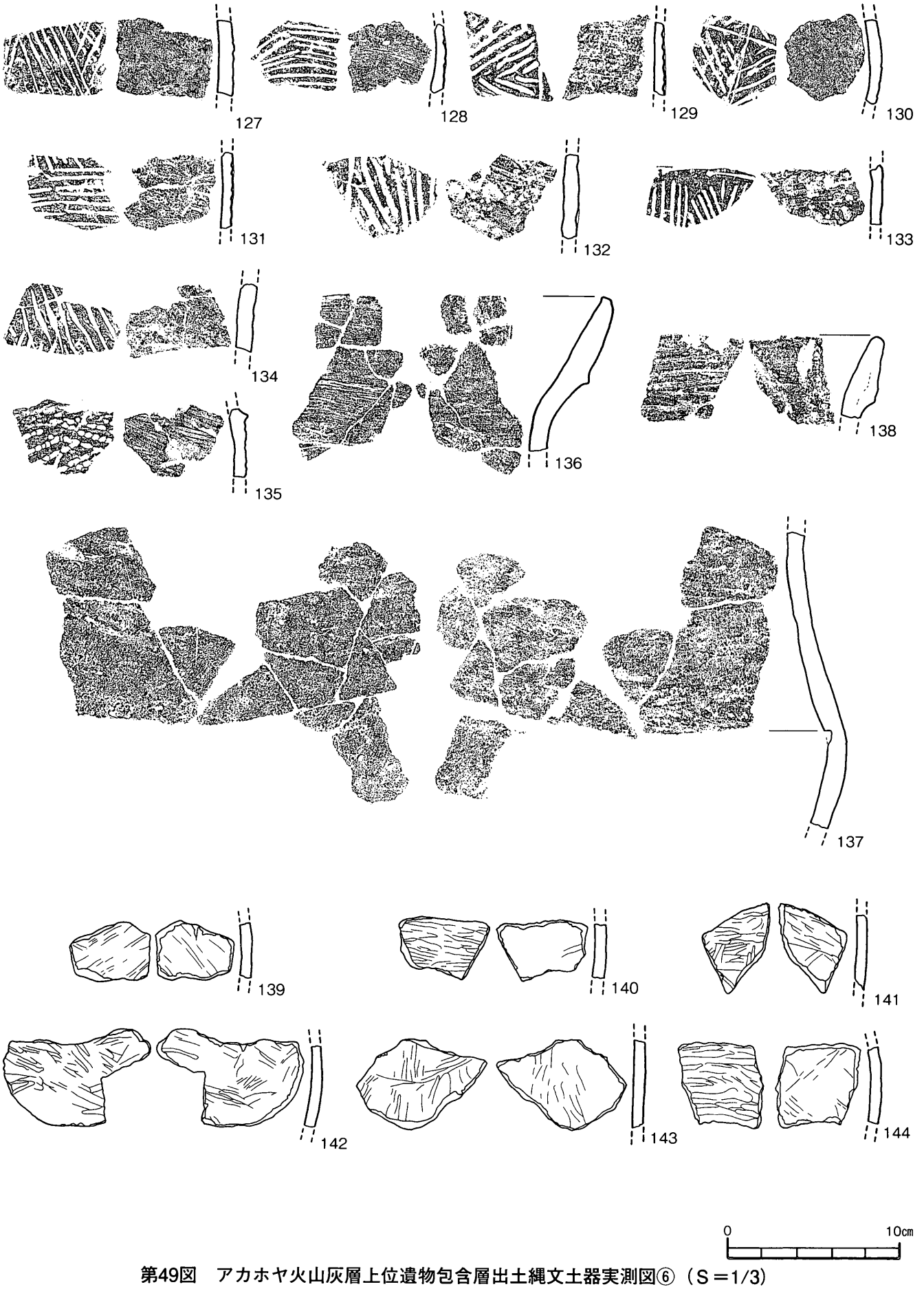
第46図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図③（S＝1/3）



第47図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図④（S＝1/3）



第48図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑤（S＝1/3）



第49図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑥（S＝1/3）

第6表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器観察表

No.	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測番号
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
1	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○5㎜以下		223
2	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下	穿孔有り	225
3	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1.5㎜以下		226
4	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○1.5㎜以下		227
5	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○			○	○3㎜以下		228
6	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○	○			○2㎜以下		229
7	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下	スス付着	241
8	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1.5㎜以下		243
9	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文　列点文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○2㎜以下	口縁径35.6cm	240
10	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文　列点文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○1.5㎜以下		242
11	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文　列点文	貝殻条痕→ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○3㎜以下		247
12	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文　列点文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y4/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4㎜以下		252
13	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文→ナデ 列点文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/1（褐灰）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3㎜以下		249
14	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文　列点文	貝殻条痕→ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y5/1（黄灰）	○	○				○5㎜以下		251
15	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文　刺突文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/4（褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○4㎜以下		236
16	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文　列点文	貝殻条痕→ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○4㎜以下		253
17	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文　刺突文	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○					○2㎜以下	スス付着	288
18	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	10YR4/2（灰黄褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○					○3㎜以下		285
19	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/4（にぶい褐）	○	○	○			○3㎜以下		286
20	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）			○			○1㎜以下	スス付着	287
21	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/4（にぶい褐）	○	○	○			○2㎜以下		289
22	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○		○		○	○2㎜以下		274
23	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕→ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○4㎜以下		67
24	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	5YR4/3（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○		○			○2㎜以下		284
25	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）			○			○2㎜以下		281
26	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○	○			○2㎜以下		280
27	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○		○			○1㎜以下	スス付着	282
28	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3㎜以下	内面の剥離が著しい	273
29	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1㎜以下		291
30	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目） 刺突文	貝殻条痕	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下		266
31	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目） 刺突文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○			○	○9㎜以下	スス付着	265
32	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ 隆起帯文（キザミ目） 刺突文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1㎜以下	スス付着　口縁部にキザミ目	246
33	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文（？） 刺突文	貝殻条痕文（？）	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/4（にぶい黄褐）	○	○				○1㎜以下		250
34	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文（？） 刺突文	貝殻条痕文（？）	10YR5/4（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1㎜以下		248
35	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	隆起帯文 （貝殻腹縁押圧）	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○			○	○4㎜以下	スス付着　口唇部にキザミ目　穿孔有り	257
36	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○4㎜以下		244
37	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文（？） 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○3㎜以下	スス付着	260
38	—	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1㎜以下		245
39	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕→ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○3㎜以下	スス付着	258
40	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2㎜以下		261
41	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○1㎜以下		259
42	—	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1㎜以下		234
43	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○1.5㎜以下		230
44	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（キザミ目）	貝殻条痕	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下		224
45	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	10YR5/2（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○1㎜以下	スス付着	272
46	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文（貝殻腹縁押圧）	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○2㎜以下	スス付着	277

No.	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測番号
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
47	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文 (貝殻腹縁押圧)	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/3（褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○3㎜以下		271
48	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下		278
49	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3㎜以下		279
50	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○3㎜以下		254
51	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下		270
52	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文(キザミ目)	貝殻条痕	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○1㎜以下		290
53	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2.5㎜以下	炭化物有り	231
54	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○8㎜以下	スス付着	276
55	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2㎜以下		233
56	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下	穿孔有り	235
57	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1㎜以下	スス付着	283
58	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻条痕文 隆起帯文(キザミ目)	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○2㎜以下		239
59	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○3㎜以下		237
60	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文(キザミ目)	貝殻条痕→ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下		238
61	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○1㎜以下	炭化物有り	232
62	—	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○3㎜以下		269
63	—	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3㎜以下		256
64	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下	スス付着	275
65	—	深鉢	胴部	貝殻条痕文 隆起帯文	貝殻条痕	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1㎜以下		255
66	Ⅲ層	深鉢	胴部	隆起帯文　沈線文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○			○	○1㎜以下		264
67	Ⅲ層	深鉢	胴部	隆起帯文(キザミ目) 沈線文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○			○	○1㎜以下		268
68	Ⅲ層	深鉢	胴部	隆起帯文(キザミ目) 沈線文	ナデ	7.5YR4/3（褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下	スス付着	263
69	Ⅲ層	深鉢	胴部	隆起帯文(キザミ目) 沈線文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR7/1（明褐灰）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○2㎜以下		262
70	Ⅲ層	深鉢	胴部	隆起帯文(キザミ目) 沈線文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○			○	○2㎜以下		267
71	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	刺突文・沈線文	沈線文・ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○1㎜以下	波状口縁　口唇部にキザミ目(棒状)	292
72	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	刺突文・沈線文	沈線文・ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○			○	○1㎜以下	口唇部にキザミ目(棒状)	318
73	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	刺突文・沈線文	沈線文・ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○2㎜以下	口唇部にキザミ目(棒状)	295
74	Ⅲ層	深鉢	口縁部	刺突文・沈線文	沈線文・ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○			○	○2㎜以下	口唇部に刺突文	341
75	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	刺突文・沈線文	沈線文・ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○2㎜以下	波状口縁　口唇部にキザミ目(棒状)	293
76	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	刺突文・沈線文	沈線文・ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○4㎜以下	波状口縁　口唇部にキザミ目(棒状)	294
77	Ⅲ層	深鉢	口縁部	刺突文	沈線文	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○1㎜以下	口唇部にキザミ目(棒状)	296
78	Ⅲ層	深鉢	口縁部	刺突文	沈線文	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○1.5㎜以下	口唇部に刺突文	342
79	Ⅲ層	深鉢	口縁部	刺突文	沈線文	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○2㎜以下	口唇部にキザミ目(棒状)	320
80	Ⅲ層	深鉢	口縁部	刺突文・沈線文	沈線文	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y5/3（黄褐）	○	○				○1㎜以下	口唇部に刺突文	343
81	Ⅲ層	深鉢	口縁部	刺突文・沈線文	沈線文	2.5Y4/2（暗灰黄）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○	○1㎜以下	口唇部にキザミ目(棒状)	319
82	Ⅲ層	深鉢	口縁部	刺突文・沈線文	刺突文（貝殻腹縁）？ ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2㎜以下	口唇部にキザミ目	297
83	—	深鉢	胴部	刺突文・沈線文	沈線文	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○1㎜以下		300
84	—	深鉢	胴部	刺突文・沈線文	沈線文	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3㎜以下		326
85	Ⅲ層	深鉢	胴部	刺突文・沈線文	沈線文	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）		○			○	○5㎜以下	スス付着	299
86	—	深鉢	口縁部	刺突文(竹管状)	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○4㎜以下	口唇部にキザミ目	322
87	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	刺突文(竹管状)	貝殻条痕→ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○4㎜以下	口唇部？	321
88	—	深鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下		323
89	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	沈線文	ヘラナデ・沈線文	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	○	○			○	○3㎜以下	口唇部にキザミ目(棒状)	298
90	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○4㎜以下		340
91	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○4㎜以下		301
92	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3㎜以下		304
93	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR7/1（明褐灰）	○	○			○	○5㎜以下	スス付着	303
94	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○3㎜以下	スス付着	305
95	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○1㎜以下	スス付着	302

No.	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測番号
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
96	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○			○	○3㎜以下		338
97	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○3㎜以下		337
98	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○2㎜以下		329
99	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3㎜以下		333
100	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○	○			○	○3㎜以下	スス付着	307
101	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○			○	○2㎜以下		309
102	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○3㎜以下		332
103	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○2㎜以下		339
104	—	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○1㎜以下		335
105	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/1（褐灰）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○1㎜以下		345
106	—	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4㎜以下		308
107	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/1（褐灰）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○1㎜以下	スス付着	334
108	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2㎜以下		336
109	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○1.5㎜以下		346
110	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3㎜以下		325
111	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○1㎜以下		328
112	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○3㎜以下		306
113	—	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○4㎜以下		327
114	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2㎜以下		349
115	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/1（褐灰）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○2㎜以下		344
116	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y4/2（暗灰黄）	○	○				○1.5㎜以下		354
117	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕→ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下		353
118	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕	7.5YR4/1（褐色）	10YR5/3（にぶい黄褐）						○2㎜以下		347
119	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○5㎜以下	炭化物有り	310
120	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/4（にぶい橙）	○	○				○3㎜以下		317
121	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○			○	○4㎜以下		311
122	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○7㎜以下	スス付着	315
123	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	2.5Y4/1（黄灰）	○	○			○	○2㎜以下		331
124	Ⅲ層	深鉢	胴～底部付近	沈線文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○					○2㎜以下		314
125	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/2（暗黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○4㎜以下	スス付着	312
126	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2㎜以下		330
127	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2㎜以下		316
128	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	2.5Y4/1（黄灰）	○	○			○	○2㎜以下		348
129	—	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○2㎜以下		350
130	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR4/1（褐灰）	○	○				○3㎜以下		313
131	—	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕→ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2㎜以下		352
132	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2㎜以下		355
133	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○			○	○3㎜以下		356
134	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	5YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1㎜以下		351
135	Ⅲ層	深鉢	胴部	貼付突帯（キザミ目）押引文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2㎜以下	スス付着	324
136	Ⅲ層	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○2㎜以下		358
137	Ⅲ層	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○2㎜以下	スス付着	359
138	—	深鉢	口縁部	貝殻条痕文→ナデ	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○5㎜以下		357
139	—	鉢	胴部	ミガキ	ミガキ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y5/1（黄灰）	○	○				○1㎜以下		360
140	Ⅲ層	鉢	胴部	ミガキ	ミガキ（剥離多い）	10YR6/4（にぶい黄橙）	2.5Y5/1（黄灰）	○	○				○1㎜以下		361
141	—	鉢	胴部	ミガキ	ミガキ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○1㎜以下		362
142	—	鉢	胴部	ミガキ	ミガキ	10YR5/3（にぶい黄褐）	2.5Y5/1（黄灰）	○	○				○1㎜以下		363
143	Ⅲ層	鉢	胴部	ミガキ	ミガキ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○1㎜以下		364
144	—	鉢	胴部	ミガキ	ミガキ	2.5Y5/2（暗灰黄）	2.5Y5/1（黄灰）	○	○				○1㎜以下		144

２．弥生土器

アカホヤ火山灰層上位の包含層が残存しているグリッドのうちＦ５区から弥生土器が集中して出土した。その他Ｃ２・Ｃ５・Ｅ４区からも出土がみられたが、遺物量はＦ５区に比べて極端に少なかった。以下、各土器の詳細について器種ごとに述べていきたい。

甕形土器

145～149は口縁端部に一条の刻目突帯文を貼り巡らす口縁部片である。突帯部の刻目は、いずれもヘラ状工具によるものである。突帯部の断面形態は**145～148**は蒲鉾状、**149**は三角形を呈している。調整は**145・148**が外面ハケメ、内面ナデで、**146・147・149**は内外面ともにナデである。また、**148**は突帯部直下に穿孔が認められた。なお、刻目突帯文を有する土器は近隣の滑川第２遺跡から多数出土している。滑川第２遺跡の報告書中で刻目突帯文を有する甕形土器の口縁部片をⅠ～Ⅵ類に分類したが、今回出土した土器はⅥ類のみであった。滑川第２遺跡と滑川第３遺跡における刻目突帯文土器の組成の違いは時期差をあらわす可能性もあるが、今回出土した土器の量が極めて少量であったため単純に比較することはできなかった。

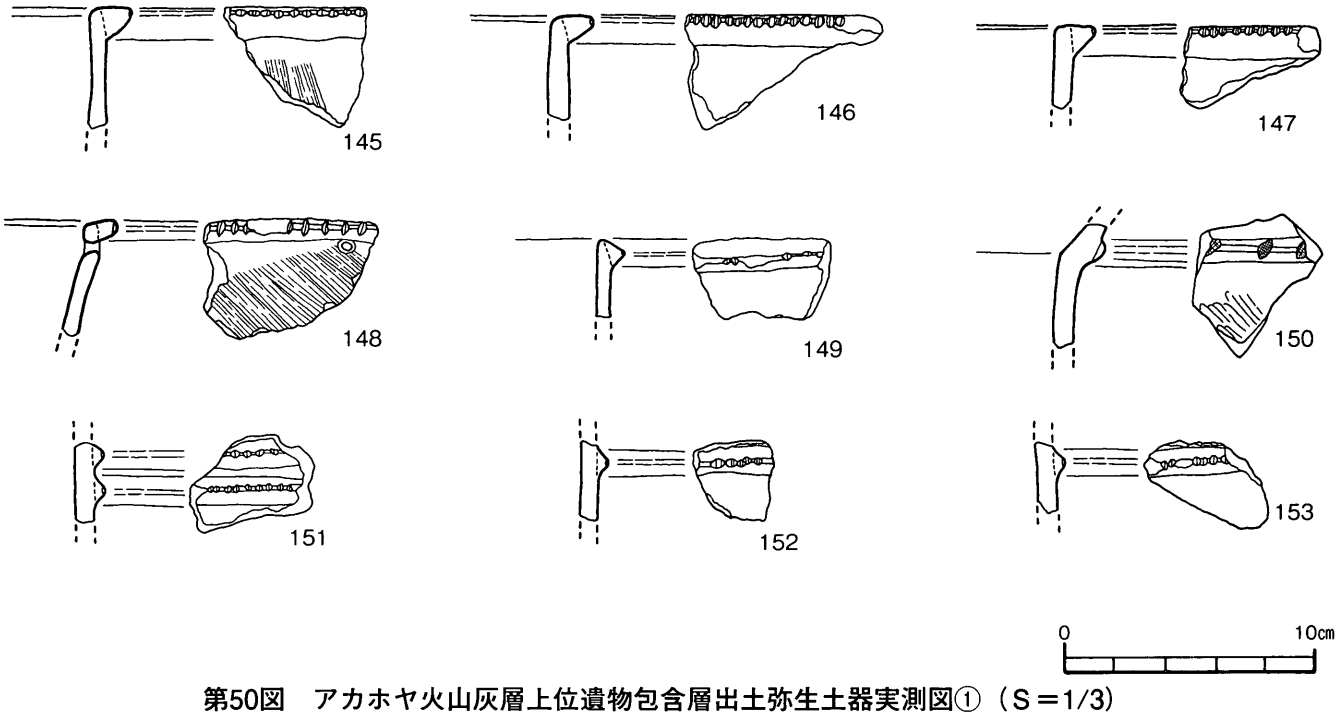
150は頸部片である。頸部に一条の刻目突帯文をもつ。刻目部分には布目圧痕が認められた。口縁部は斜め上方へ開くものと思われる。いわゆる「中溝式土器」に該当する。調整は外面がミガキ、内面がナデである。

151～153は胴部片である。**151**は二条の刻目突帯文をもつ。**152・153**は小破片であるため判断できないが、少なくても一条以上の刻目突帯文を有していたものである。突帯部の刻目はいずれもヘラ状工具によるものである。**151～153**の土器の調整は全て内外面ともにナデである。

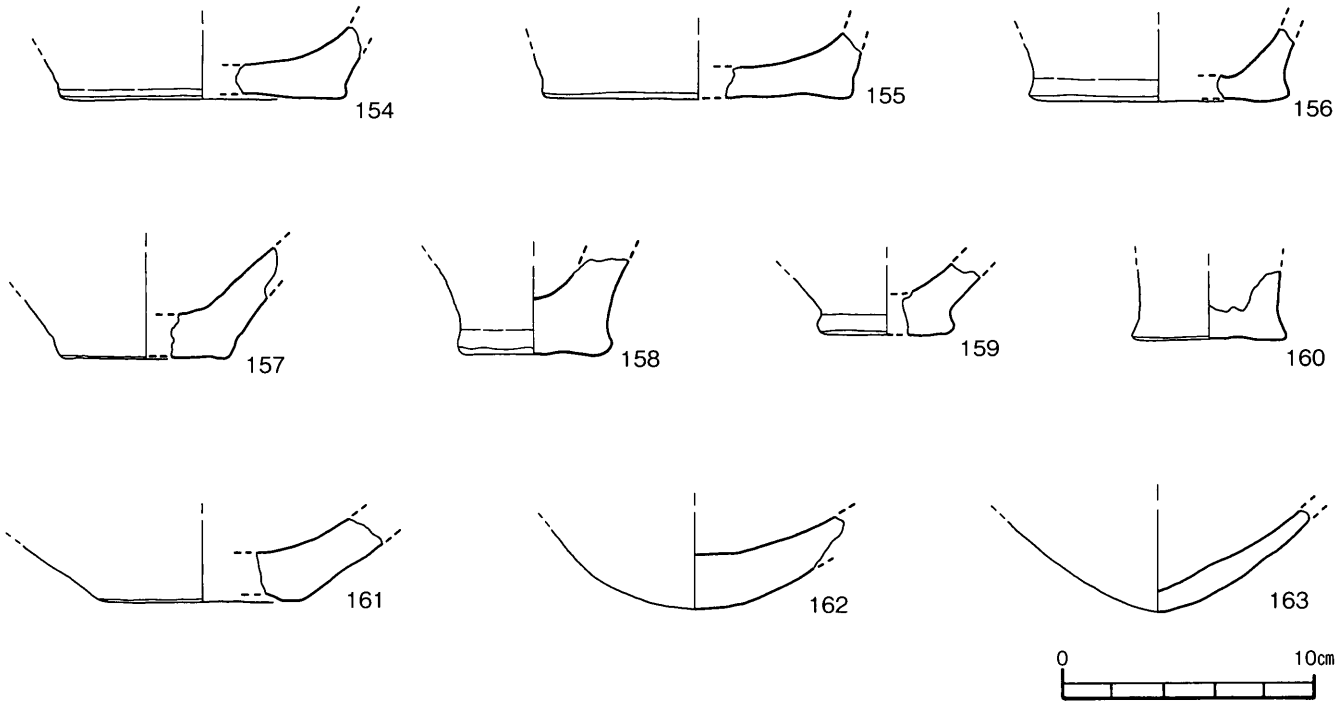
154～160は底部片である。**154～156**は安定した平底で端部がわずかに張り出す。いずれの調整も内外面ともにナデである。**157**も安定した平底であるが、154～156の土器に比べて底径が極端に小さい。調整は内外面ともにナデである。**158～160**は脚台状を呈する土器である。いずれも平底である。**158・159**の調整は内外面ともにナデである。**160**の調整は、外面はナデであるが、内面は剥落しているため調整を観察することができなかった。

壺形土器

161～163は底部片である。底部形態は**161**が平底、**162**が丸底、**163**がやや丸底気味の尖底である。調整はいずれの土器も内外面ともにナデである。



第50図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器実測図①（Ｓ＝1/3）



第51図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器実測図②（S＝1/3）

第7表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器観察表

遺物No.	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		法量（cm）			備考	遺物整理No.
				外　面	内　面	外　面	内　面	口径	底径	器高		
145	—	甕	口縁部	刻目突帯文 ハケメ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐					376
146	—	甕	口縁部	刻目突帯文 ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐				スス付着	377
147	Ⅲ層	甕	口縁部	刻目突帯文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐					378
148	—	甕	口縁部	刻目突帯文 ヨコナデ　ハケメ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐				穿孔有り	374
149	Ⅲ層	甕	口縁部	刻目突帯文 ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙					375
150	Ⅲ層	甕	頸部	刻目突帯文 ミガキ	ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR6/4 にぶい黄橙					379
151	Ⅲ層	甕	胴部	刻目突帯文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐					176
152	—	甕	胴部	刻目突帯文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐					178
153	—	甕	胴部	刻目突帯文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐					177
154	—	甕	底部	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐		(11.0)		反転復元	384
155	—	甕	底部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙		(11.6)		反転復元	386
156	Ⅲ層	甕	底部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y4/2 暗灰黄		(10.3)		反転復元	381
157	Ⅲ層	甕	底部	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙		(6.5)		反転復元	383
158	—	甕	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐		5.4			385
159	Ⅲ層	甕	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐		(4.9)		反転復元	382
160	—	甕	底部	ナデ	—	10YR5/3 にぶい黄褐	—		(6.0)		内面剥落　反転復元	380
161	—	壺	底部	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐		(8.0)		反転復元	372
162	Ⅲ層	壺	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙					373
163	Ⅲ層	壺	底部	ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐				反転復元	371

（　　）は復元径である。

3．石器

アカホヤ火山灰層上位の遺物包含層中より150点の石器が出土している。ここでは製品類を中心に報告を行う。なお器種分類については前述のとおり縄文時代早期の遺物包含層から出土した石器と同様の基準で分類をおこなっており、各器種の分類基準については各器種の項目で定義を述べている。

石鏃（164～173）

剥片を素材として両面調整や半両面調整によって鋭い先端部を作り出し、平面形がおおむね三角形や五角形を想定させるものを石鏃として分類した。欠損品も含めて総数で10点が出土している。

166は平面形が縄文早期に見られる帖地型に類する。**168～170**は刃部が鋸歯状を呈しており、縄文早期の石鏃のⅢ類に見られるものと同様である。このような資料の存在はアカホヤ火山灰層上位遺物包含層には縄文前期以降の遺構の形成過程などによる縄文早期の遺物包含層の掘削作用等により、アカホヤ火山灰層上位に縄文早期の遺物が混在している可能性があるという問題点を指摘するものである。縄文早期の遺物包含層の存在しない遺跡の資料を基にこのような問題を解決していかなければならないだろう。**173**は縄文時代晩期に特徴的に見られる五角形鏃の範疇に入るものと考えられる。

石鏃未製品（174・175）

剥片を素材とし石鏃とほぼ同規模で両面調整や半両面調整によって平面形が三角形や楕円形を呈するもの。石鏃に比べ先端部が鈍いものや加工状況が未熟なもの、分厚いものなどを石鏃の未製品であると判断した。一部には尖頭状石器、石錐も含まれている可能性が考えられる。

石錐（176・177）

剥片を素材として両面調整・半両面調整によるかまたは素材剥片の一部に調整を施し、尖端部を作り出したもの。総数で２点が出土している。剥片素材を多く残すもの（**176**）と加工が素材の全体に及ぶもの（**177**）とに細分できる。

石匙（178～181）

剥片を素材とし、一部に両側縁からの調整によりつまみ部分を作り出し、その他の部分には刃部加工を施すもの。総数で４点が出土している。横型の資料（**178・180**）と縦型の資料（**179・181**）と細分することができる。

スクレイパー（182～184）

剥片を素材とし、その縁辺に連続的な調整により刃部を作り出したもの。刃部調整は周縁部にとどまる。総数で３点出土している。

石核（185）・剥片・砕片

石核は礫または剥片を素材とするが形態を整えるためとは見なしがたいネガティブな剥離面をもつものをまとめた。６点（内訳：砂岩製４点、黒曜石製２点）が出土しており、砂岩製の１点を図示している。剥片類は剥片を素材として、意図が不明瞭な加工を施しているものやまったく加工が施されていないものをまとめた。整理作業では砕片との違いは規模によって分類をおこなった（砕片は１cm四方に収まる規模のものとした）。剥片類は図示していない。

石核・剥片類の総数と総重量の内訳については以下のとおりである。(チャート４点：15.6ｇ、流紋岩・頁岩17点：146.3ｇ、砂岩17点：4214.9ｇ、姫島産黒曜石41点：80.6ｇ、黒色を呈する黒曜石23点：67.6ｇ、安山岩・サヌカイト３点：7.2ｇ、玉髄７点：15.6ｇ、その他６点：55.3ｇ　※石材鑑定については肉眼観察であるため、分析方法よっては数字が変動する可能性がある。)

敲石・磨石（186・187）

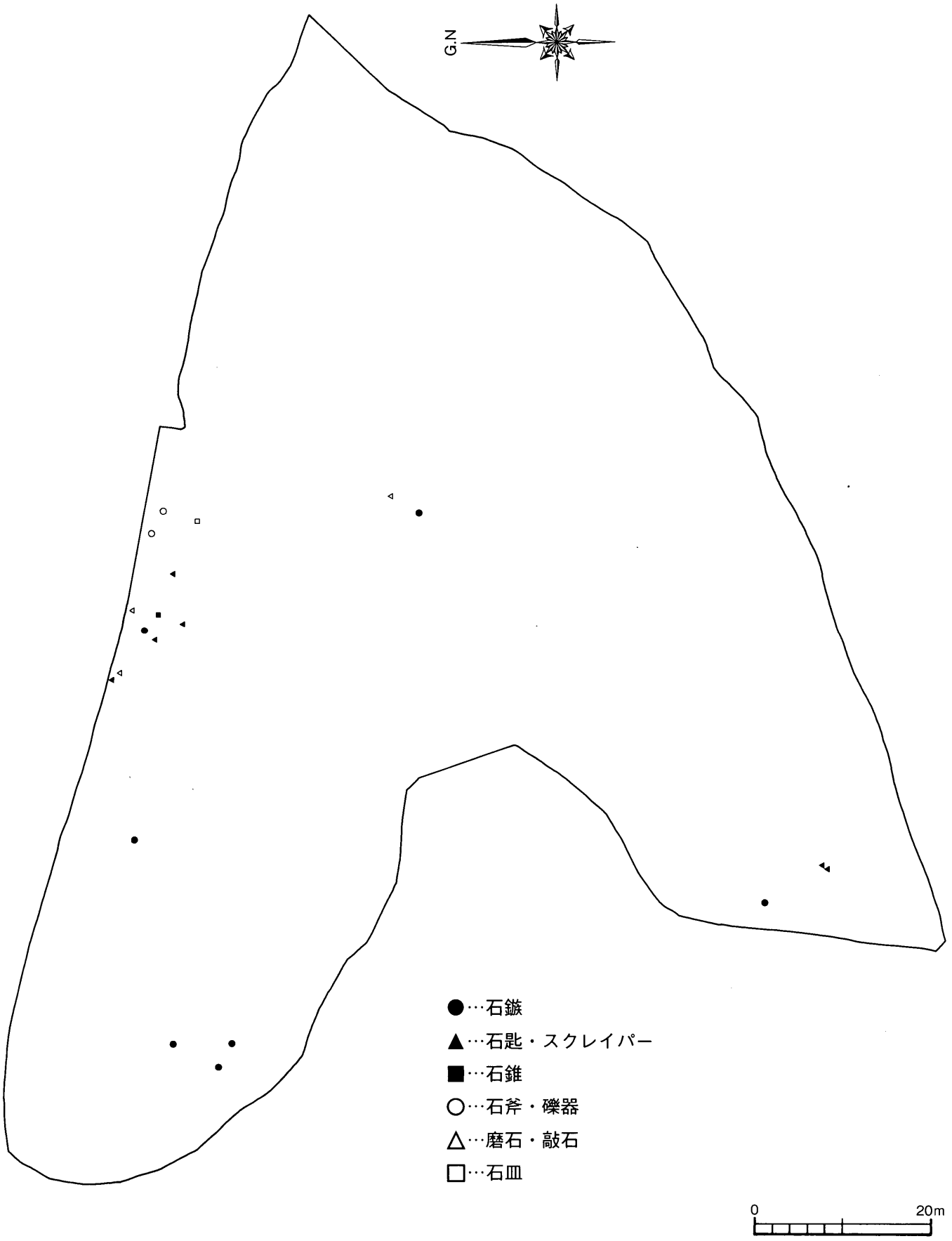
敲石は円礫・角礫の一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つものを分類した。また磨石は円礫の平らな面の片面または両面に平滑な面をもつものを分類した。いずれも砂岩製のもので総数８点出土しており、うち２点を図示した。

礫器（188）

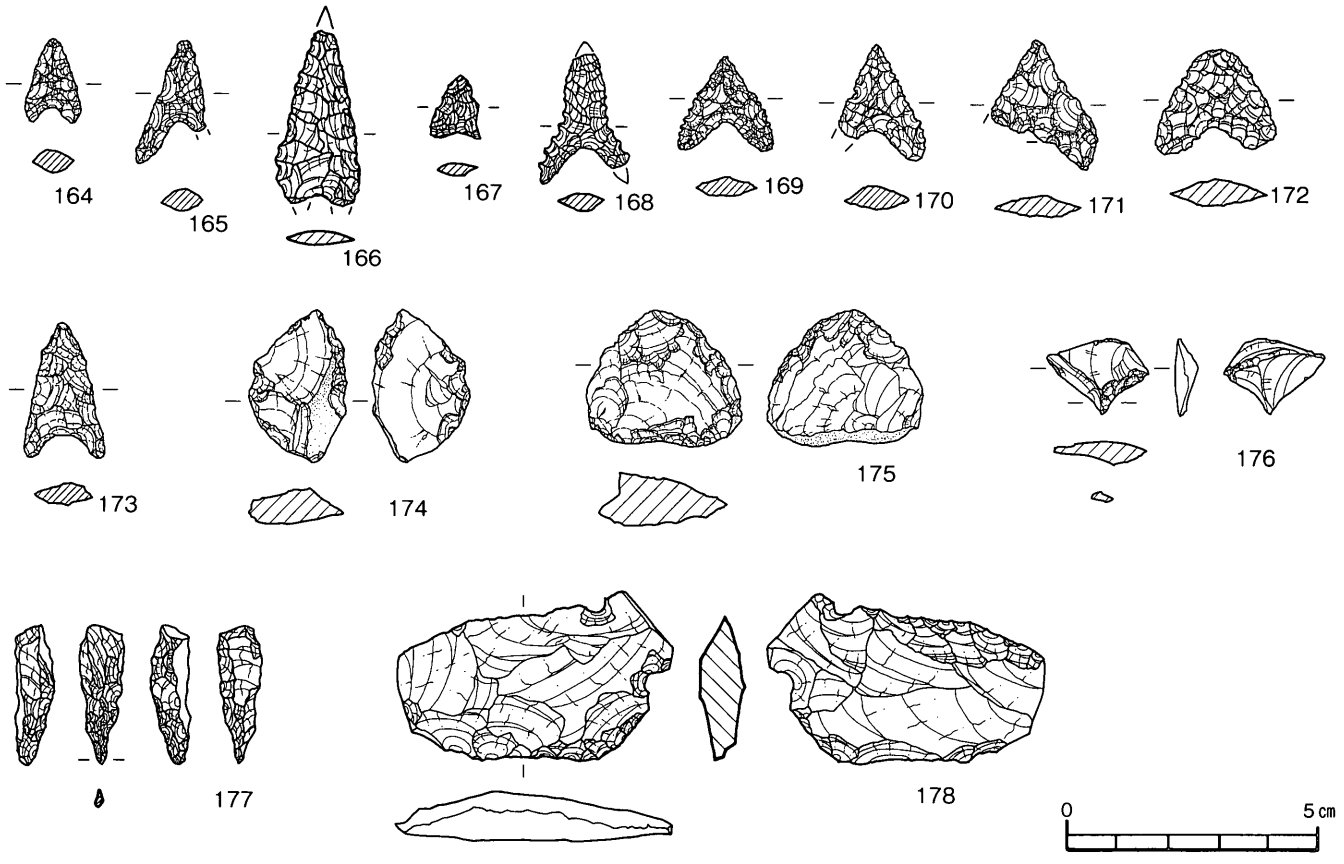
円礫や角礫を素材としてその一端に片側又は両側から荒い加工を施し、刃部を作り出しているものをまとめた。一部には石核が含まれている可能性も考えられる。

磨製石斧（189）

剥片または扁平な礫を素材とし、平面形が三角形または四角形を呈し、その短辺に研磨による刃部を作成するもの。１点のみ出土している。ホルンフェルス製で全体に敲打の痕跡が確認される。



第52図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土主要石器分布図（S＝1/600）

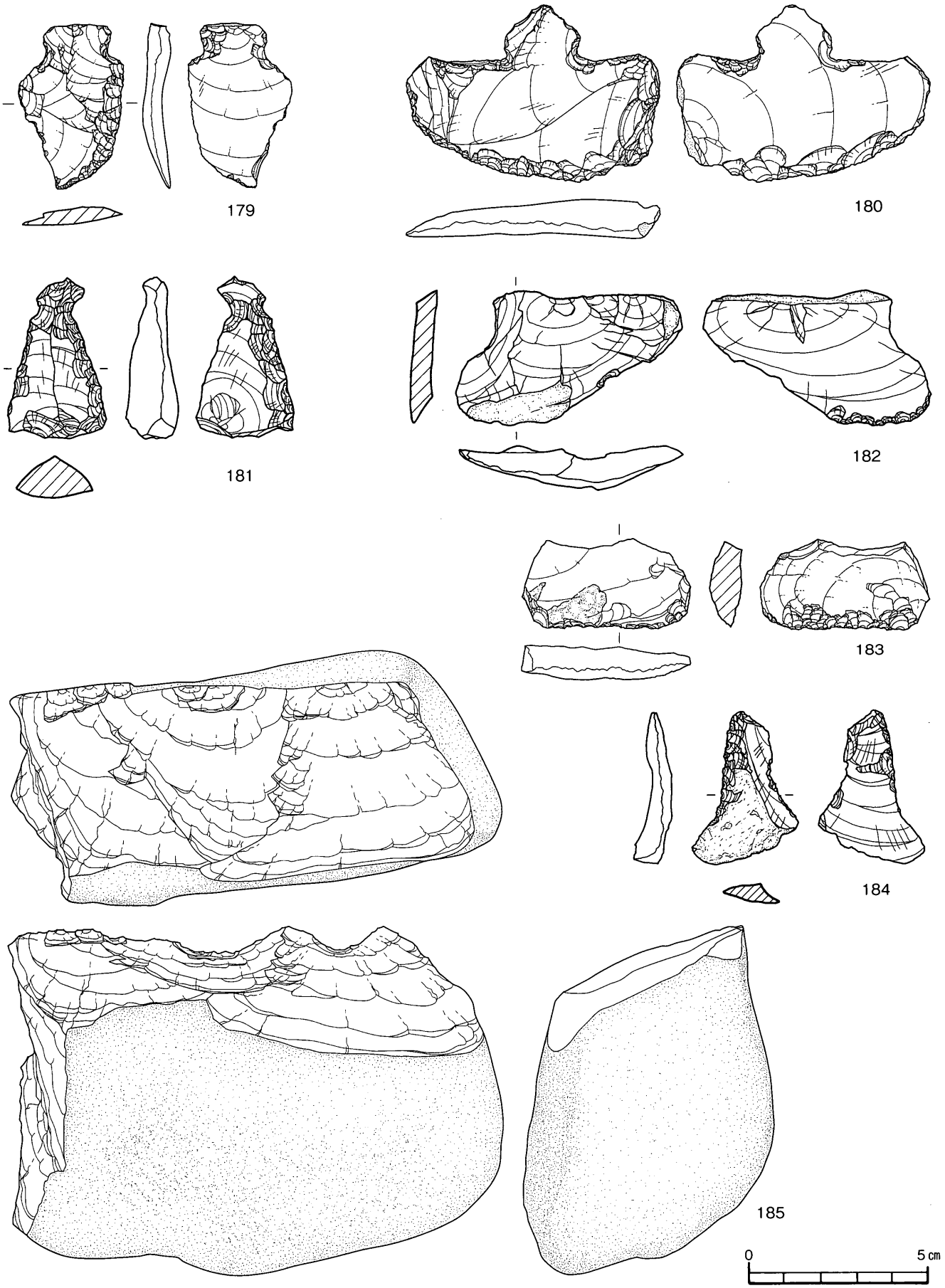


第53図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図①（S＝2/3）

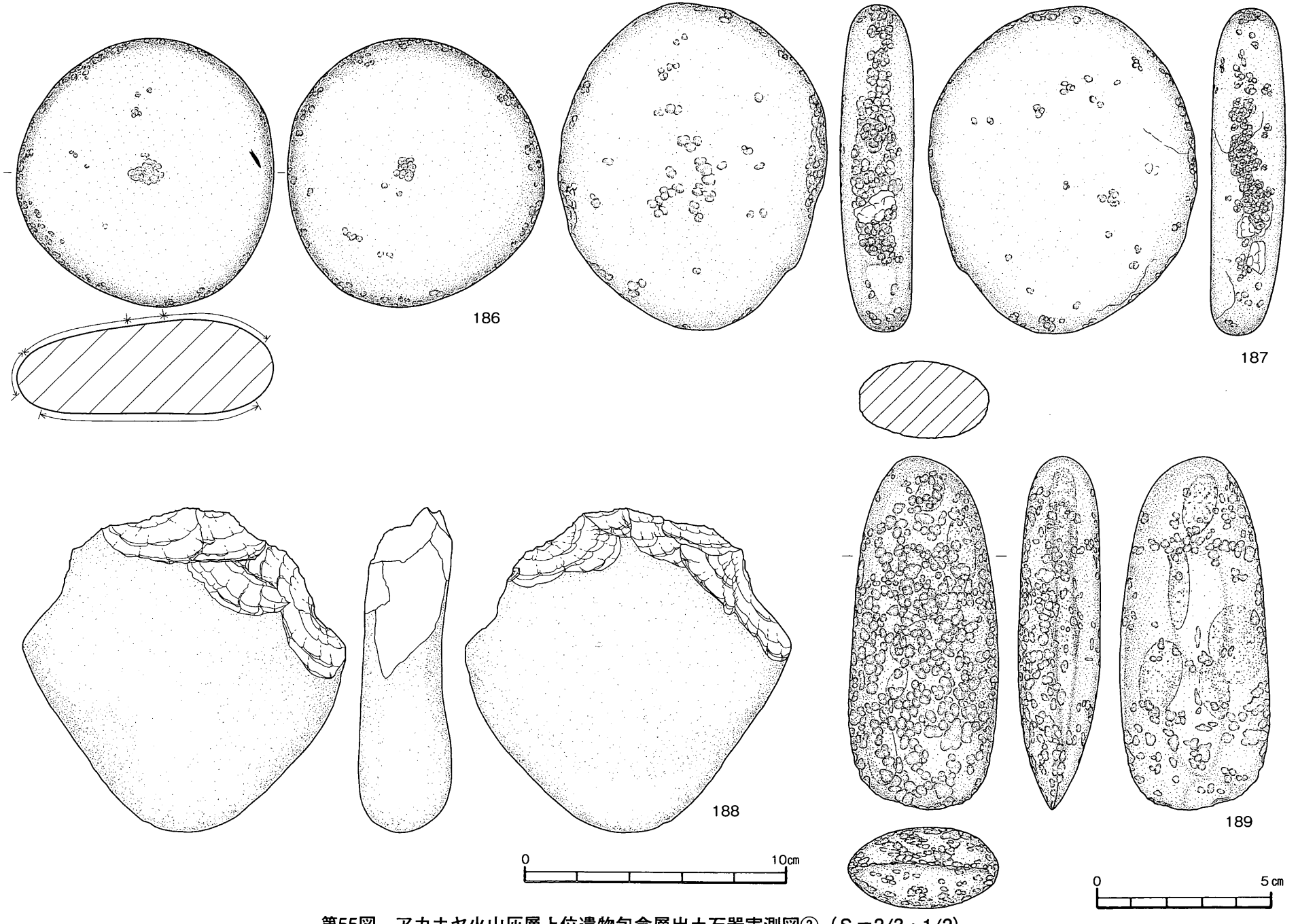
第８表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器　種	出土グリット	層位	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
164	11	打製石鏃	—	Ⅲ	チャート	1.6	1.1	0.45	0.57	
165	13	打製石鏃	—	Ⅲ	チャート	(2.4)	(1.4)	0.45	(0.7)	脚部欠損
166	392	打製石鏃	F 1	Ⅲ	チャート	(3.4)	1.65	0.25	(1.7)	先端・脚部欠損
167	393	打製石鏃	F 5	Ⅲ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	1.0	0.25	0.1	
168	391	打製石鏃	F 1	Ⅲ	黒曜石（姫島）	(2.5)	1.8	0.35	(0.7)	先端・脚部欠損
169	5	打製石鏃	C 3	Ⅲ	黒曜石（姫島）	1.85	1.9	0.4	0.7	
170	4	打製石鏃	C 2	Ⅲ	黒曜石（姫島）	(2.3)	(1.75)	0.45	(0.9)	脚部欠損
171	3	打製石鏃	C 2	Ⅲ	黒曜石（姫島）	(2.5)	(2.1)	0.45	(1.1)	脚部欠損
172	6	打製石鏃	C 3	Ⅲ	黒曜石（姫島）	2.1	2.4	0.5	1.5	
173	10	打製石鏃	—	Ⅲ	ホルンフェルス	2.65	1.6	0.4	1.3	
174	16	打製石鏃未製品	—	Ⅲ	流紋岩	3.0	1.9	0.7	3.0	
175	14	打製石鏃未製品	F 2	Ⅲ	チャート	2.65	3.1	1.0	8.9	
176	17	石錐	C 4	Ⅲ	黒曜石（針尾）	1.5	2.05	0.45	0.7	
177	415	石錐	C 4	Ⅲ	チャート	2.7	0.9	0.8	1.7	
178	417	石匙	C 4	Ⅲ	安山岩	3.35	5.5	0.95	13.2	
179	20	石匙	F 1	Ⅲ	黒曜石（針尾）	4.55	2.9	0.8	6.2	
180	18	石匙	C 4	Ⅲ	流紋岩	4.9	7.1	1.1	25.1	
181	389	石匙	C 5	Ⅲ	黒曜石（姫島）	4.4	2.75	1.5	10.0	
182	390	スクレイパー	F 2	Ⅲ	流紋岩	3.7	6.35	1.2	19.0	
183	19	スクレイパー	C 4	Ⅲ	チャート	2.5	4.75	0.95	12.3	
184	394	スクレイパー	C 3	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	4.35	2.95	1.1	5.0	
185	22	石核	D 5	Ⅲ	砂岩	7.06	13.83	9.79	1169.6	
186	24	磨石	C 4	Ⅲ	砂岩	10.55	9.95	3.65	531.8	
187	25	敲石	—	Ⅲ	砂岩	12.7	10.35	2.9	546.2	
188	23	礫器	C 5	Ⅲ	砂岩	12.7	12.5	3.6	627.1	
189	21	磨製石斧	C 5	Ⅲ	ホルンフェルス	10.35	4.3	2.35	153.3	

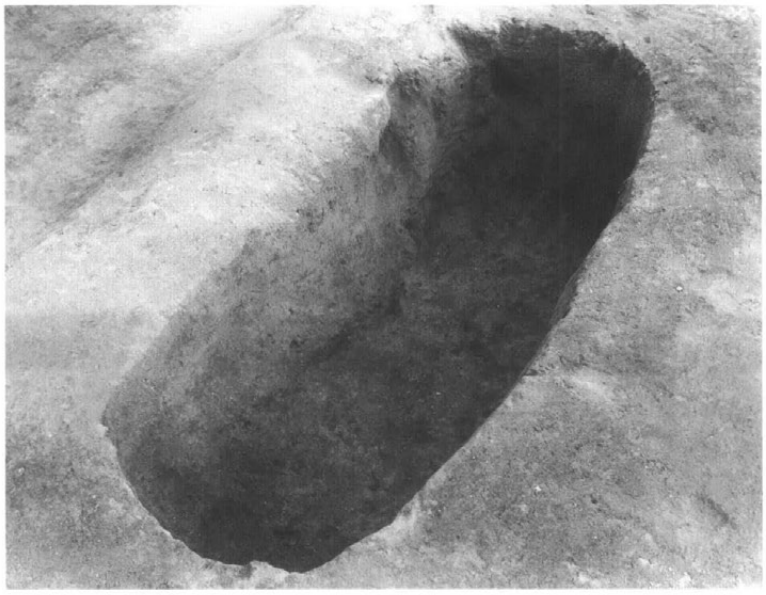
（　　）の値は残存値を示す



第54図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図②（S＝2/3）



第55図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図③（S＝2/3・1/2）

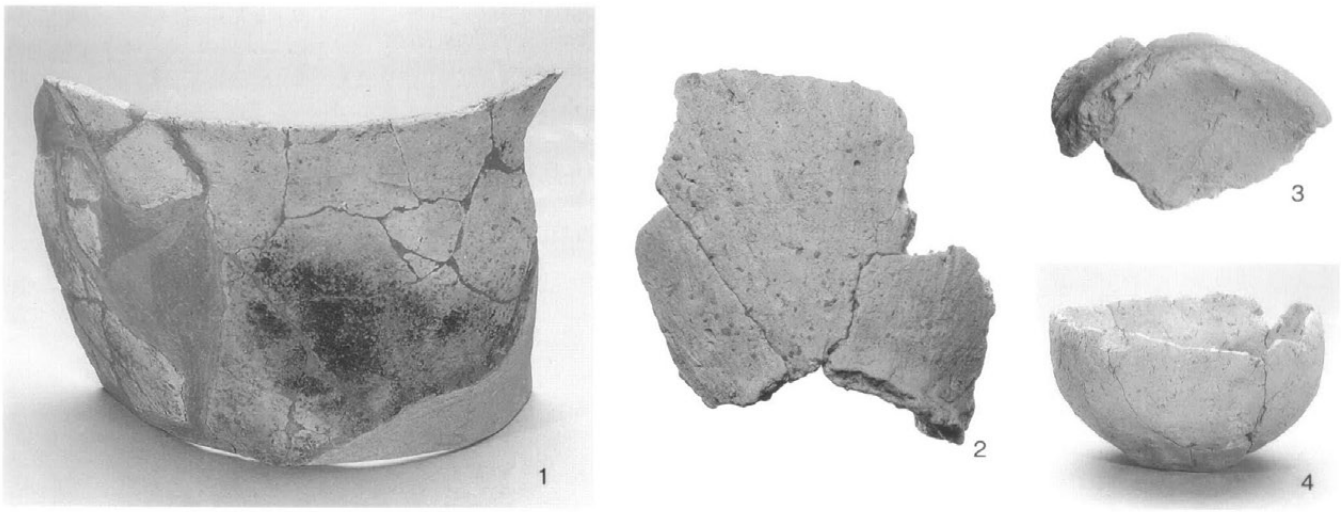


SC-1

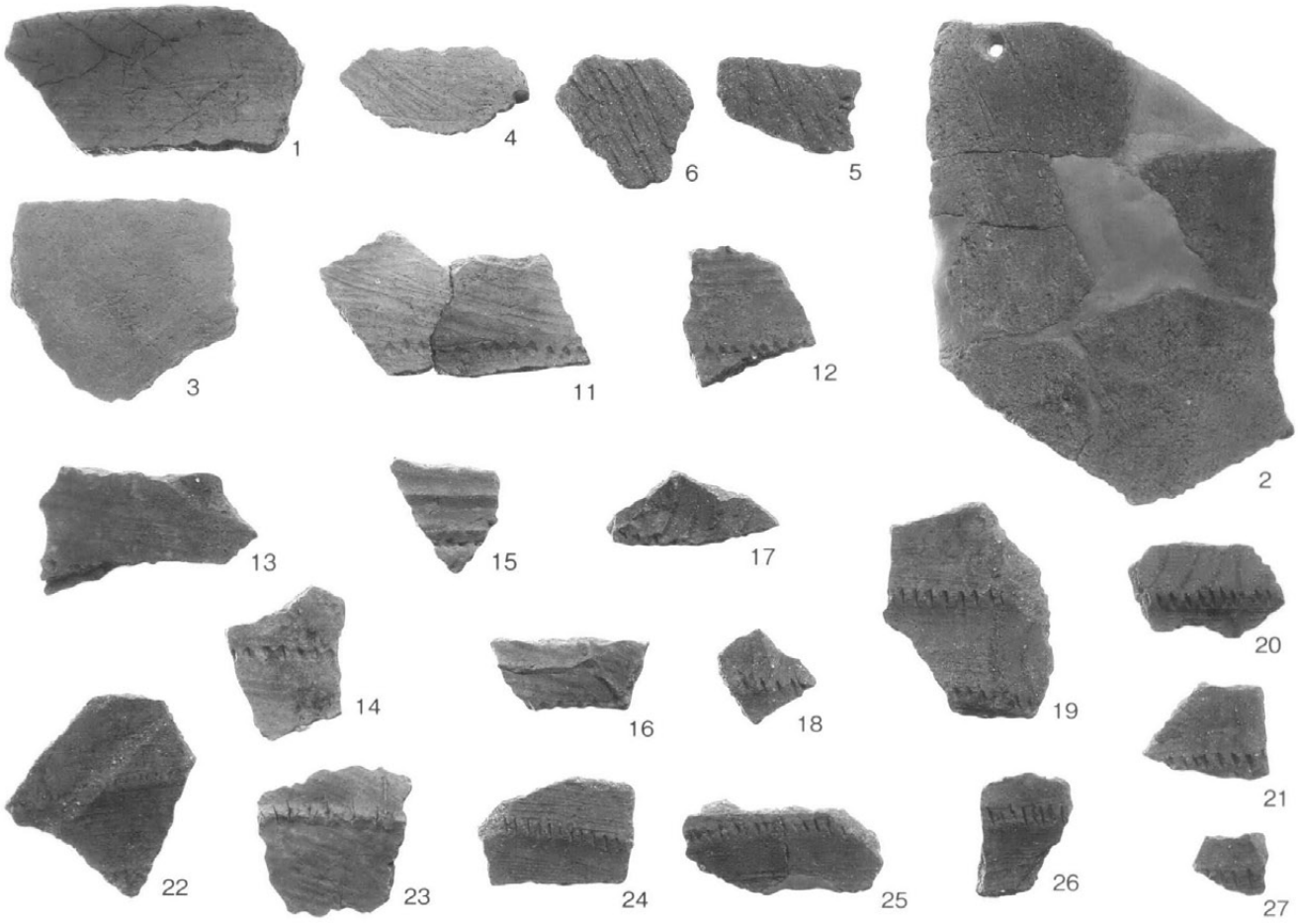
SC-16

SX-2

写真図版18　アカホヤ火山灰層上面検出遺構

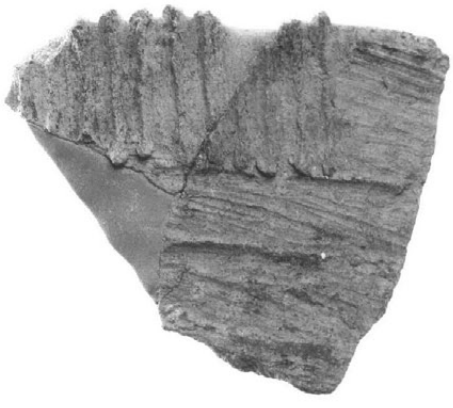


写真図版19　SX-２出土土器



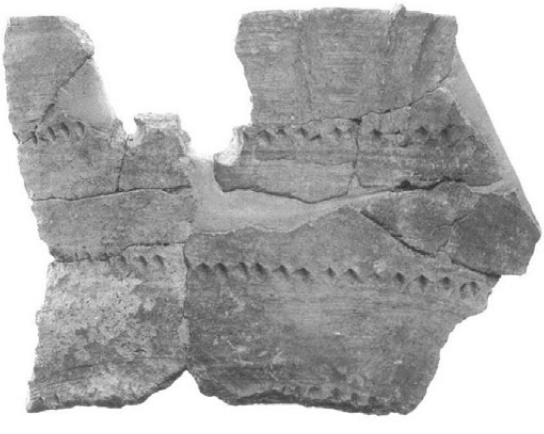
写真図版20　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器①

7



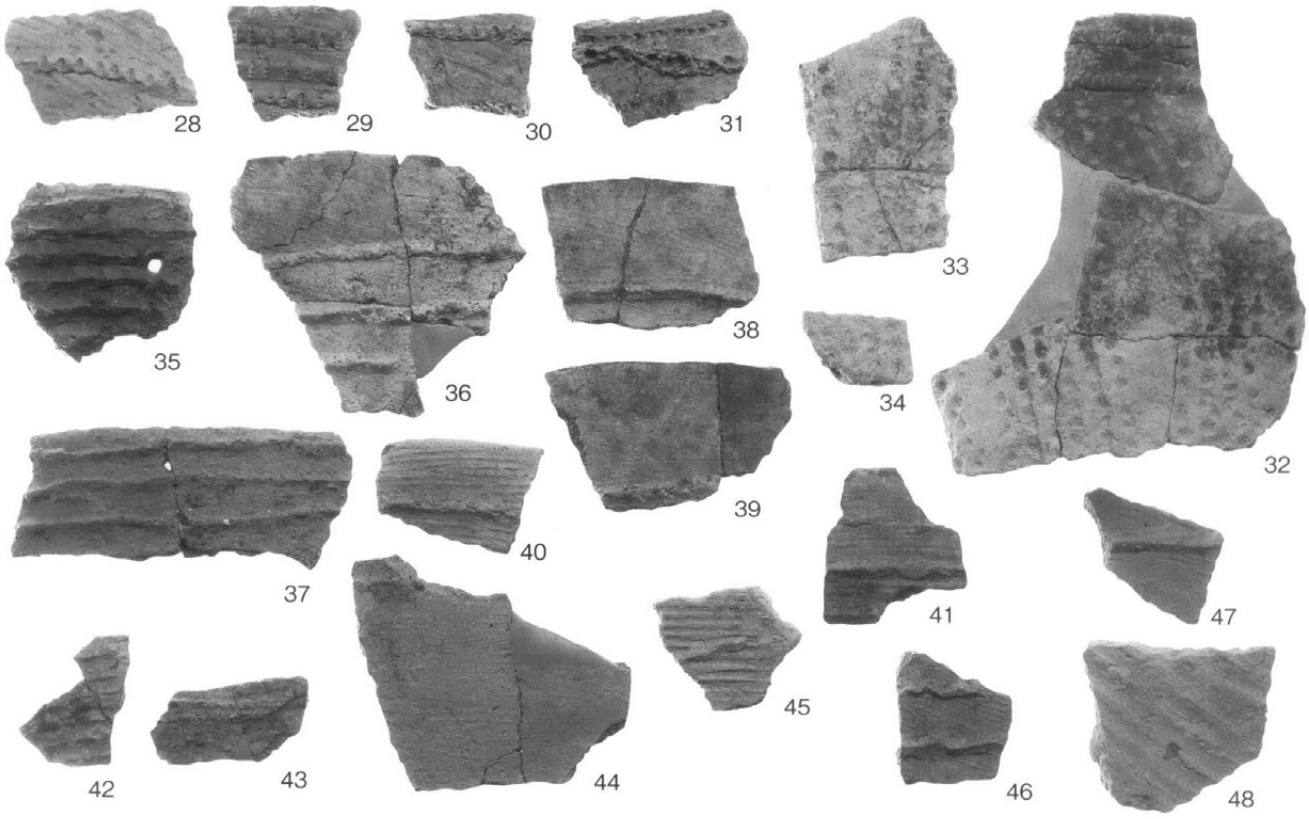
8

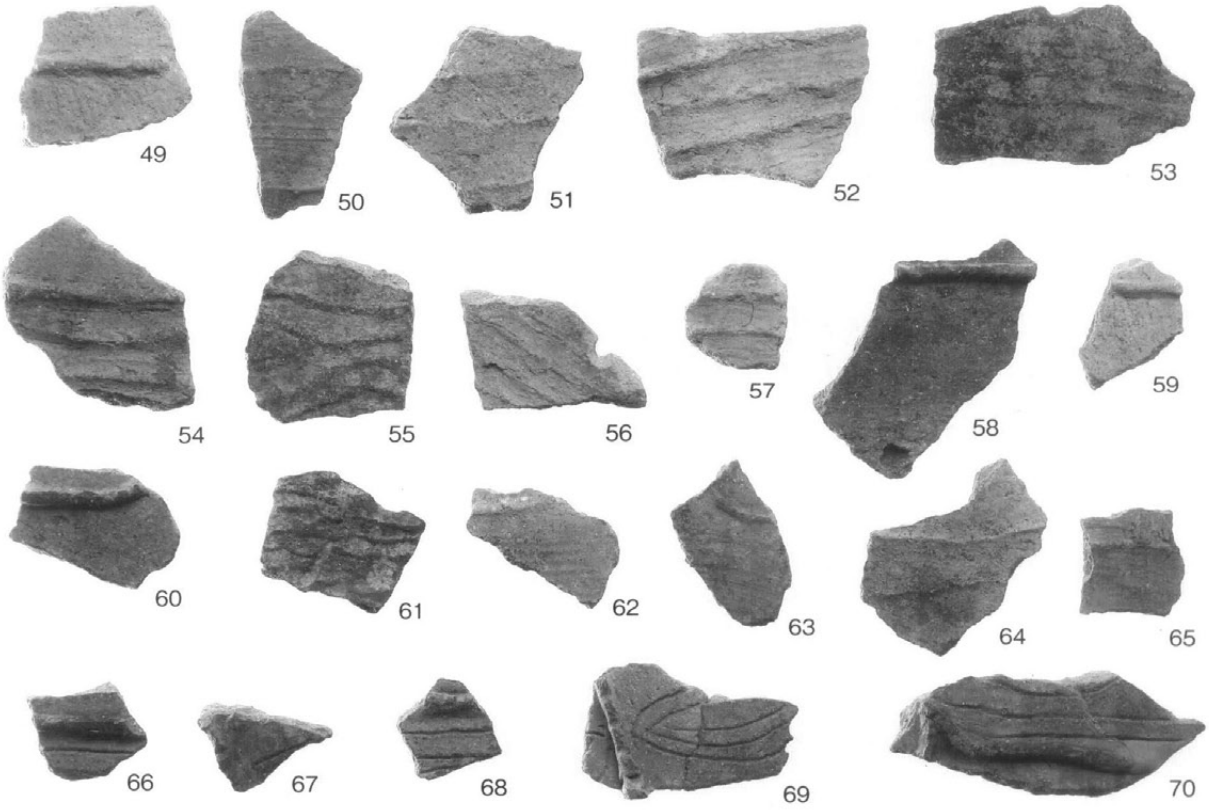
9



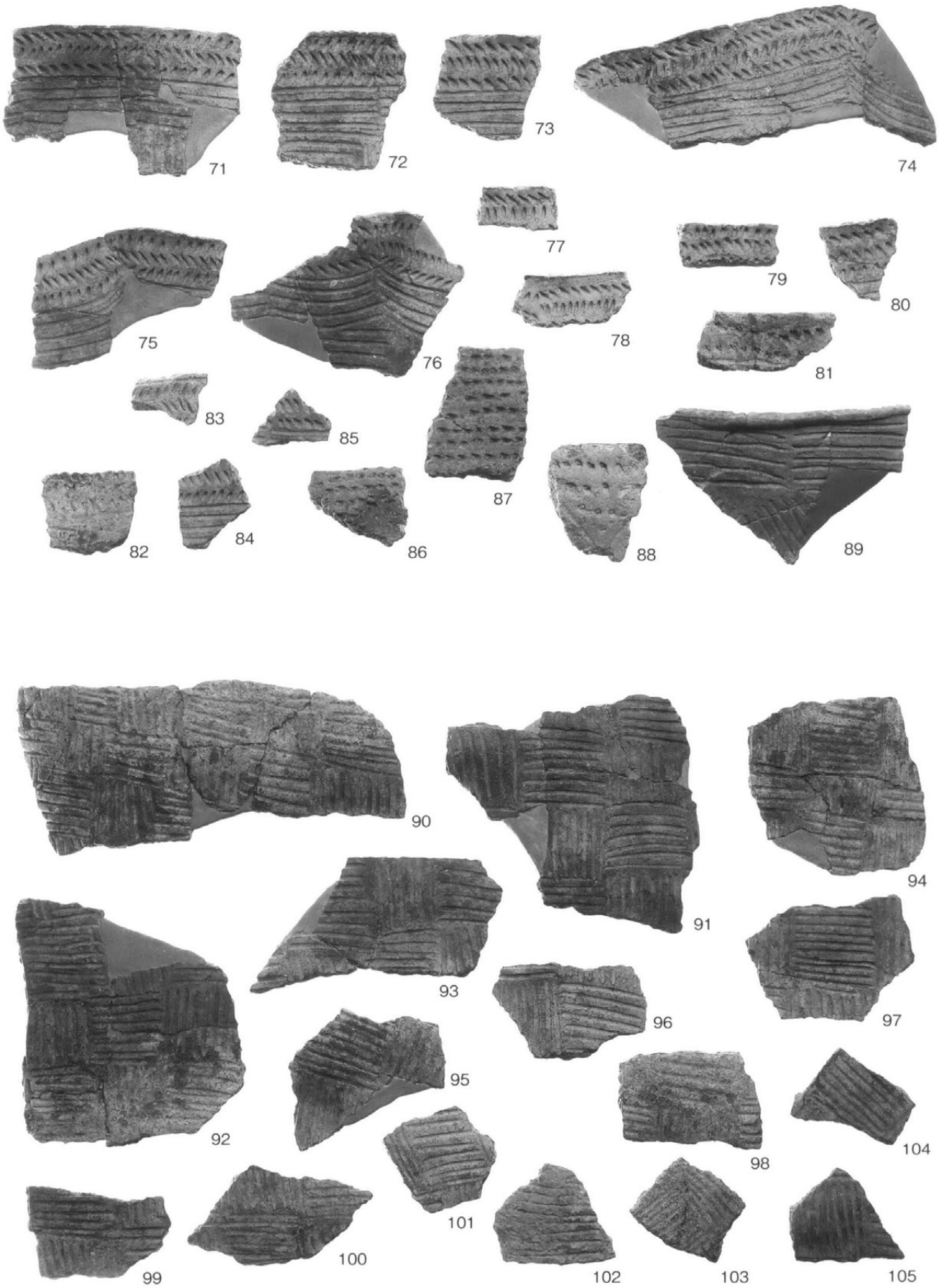
10

写真図版21　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器②

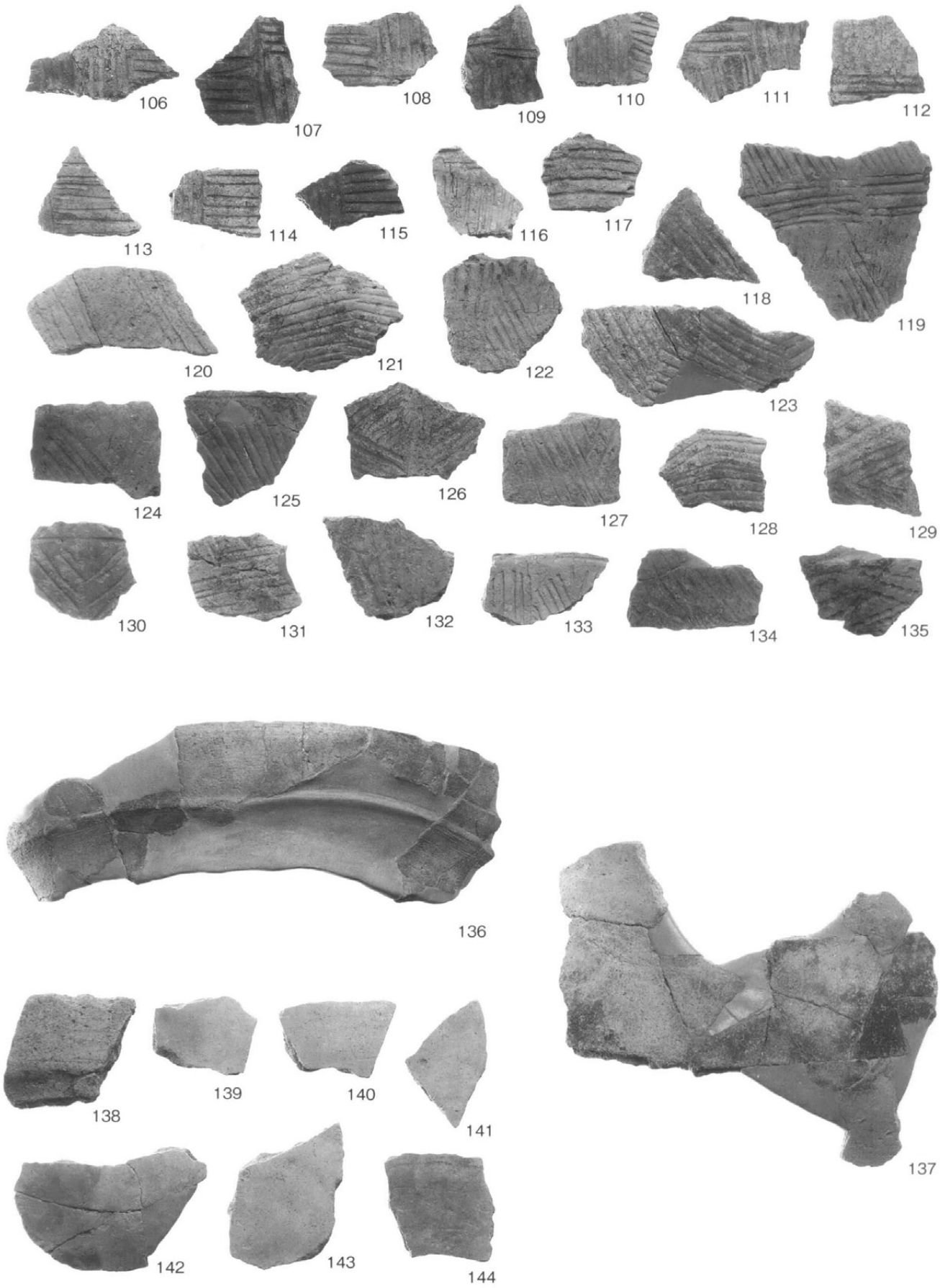




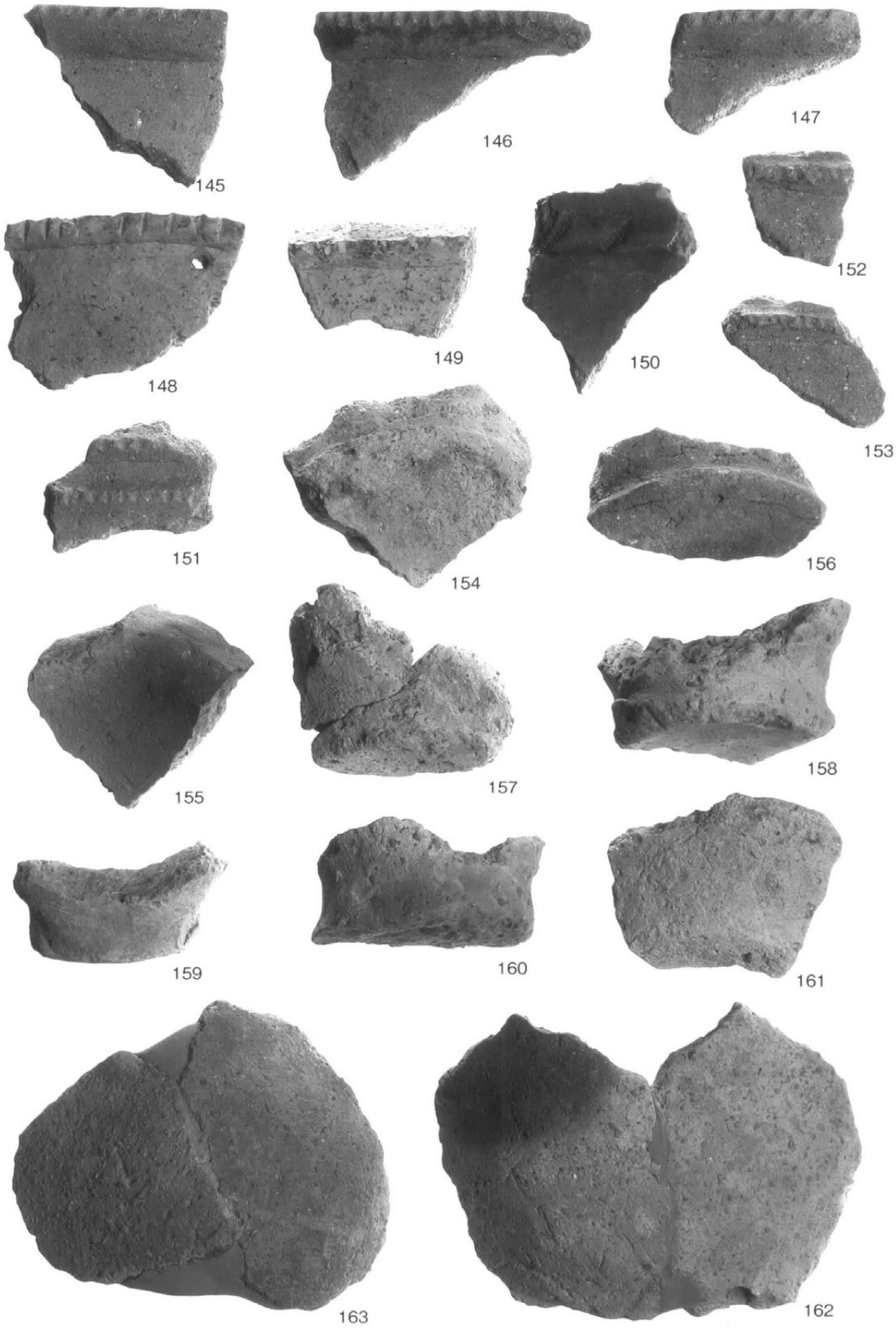
写真図版22　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器③



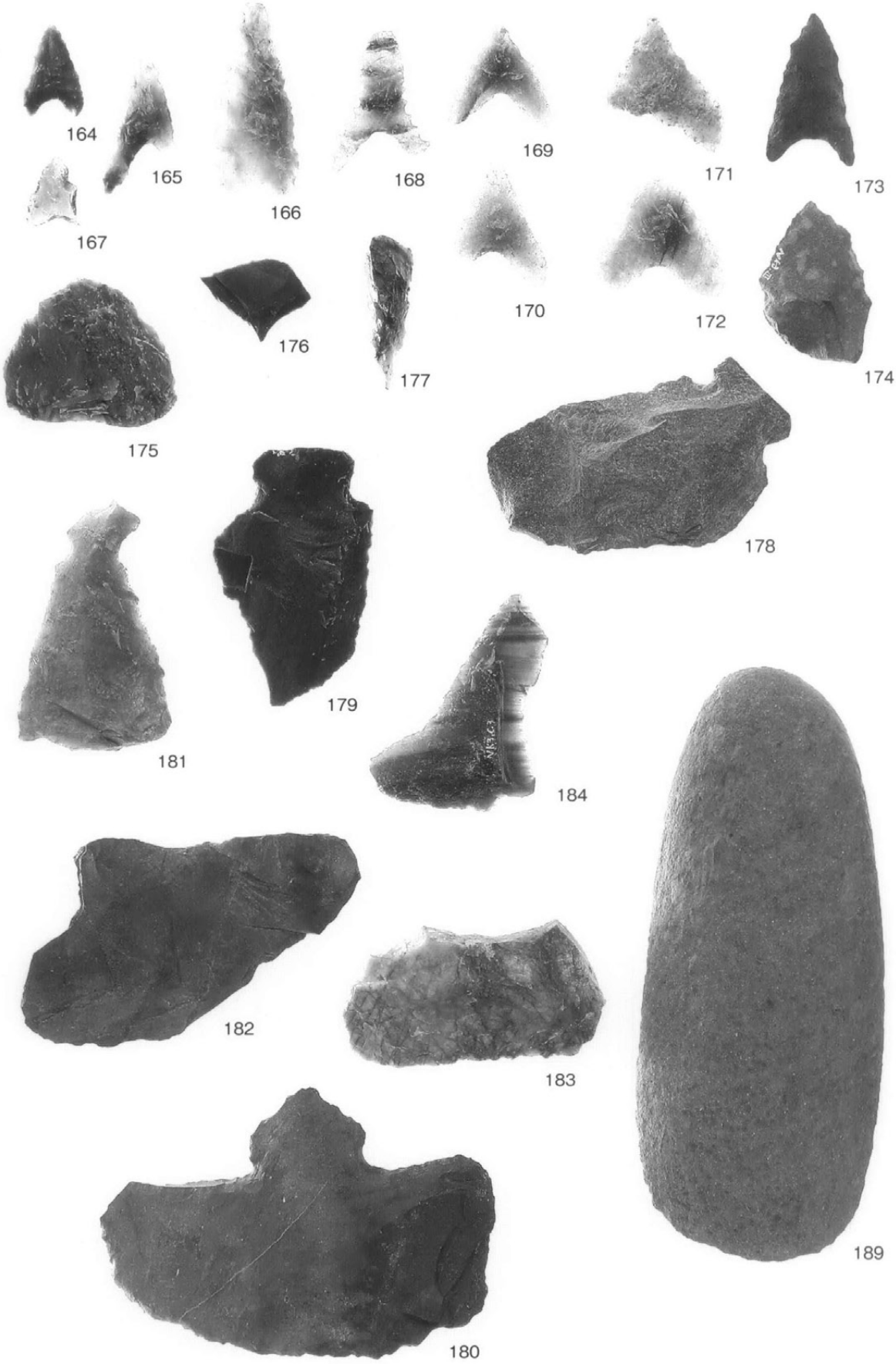
写真図版23　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器④



写真図版24　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑤



写真図版25　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土弥生土器



写真図版26　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器

4th Period

第Ⅴ章　まとめ

滑川第３遺跡について（総括）

本遺跡では、旧石器遺物包含層において３箇所の石器集中箇所を検出した。但し、Ｂ・Ｃブロックは製品類が少なくその位置づけについての検討は難しいため、最も充実した石器群を保持しているＡブロックについての考察をおこなうこととする。Ａブロックのナイフ形石器に注目すると同台地上に立地する坂元遺跡で出土している切り出し型のナイフ形石器及び部分加工のナイフ形石器・一側縁加工のナイフ形石器が出土している。その反面坂元遺跡では確認されなかった国府型ナイフ形石器（瀬戸内技法）や剥片尖頭器･槍先形尖頭器が出土している。これらの資料は滑川第２遺跡では出土しているが、両遺跡の石器群の時間的位置づけについては遺物の出土層位の違いから滑川第２遺跡の石器群は坂元遺跡の石器群に後出する資料であると報告している。本遺跡の石器群がすべて同一時期の一括性の高い資料であるものと考えれば、両方の遺跡の特徴を有しており、坂元遺跡と滑川第２遺跡の中間の時期に位置づけられるものと結論付けられる。しかし、本遺跡の石器群が異なる時期の資料が混在する状況である場合、坂元遺跡の時期の資料と滑川第２遺跡の時期の資料が混じって出土したものと結論付けられるだろう。今回の報告においてはその点が十分に検討することができずに報告にいたったため、再度平面分布及び垂直分布と接合状況を検討し、本遺跡の石器群の位置づけを明確に出来るよう努めていきたい。

縄文時代早期における当遺跡の特徴としてまず挙げられるのは､他の近隣遺跡と同じく集石遺構が多数（36基）検出されたことである。自然科学分析の結果から、縄文時代早期をとおして集石遺構が営まれていたことが明らかになったが、使用のピークは8400年BPから8200年BPあたりではないかと考えられる。近隣遺跡でも確認されている断面形状がＶ字形の超巨大なタイプの集石遺構は１基のみの検出にとどまり、それ以外は比較的小型のものが多い傾向がみられる。陥し穴状遺構については、逆茂木など捕らえた獲物を逃がさないための工夫がなされたものが２基検出された。この２基以外にも陥し穴ではないかと推測される土坑が検出され、これらがもし同時期に構築されたものであったなら、遺跡西側の湧水点を意識した配置となるが、それぞれの使用時期の断定にまでは今回至っていないため遺構単独での考察にとどめている。

包含層から出土した土器については、貝殻円筒形土器・押型文土器・平栫式土器・塞ノ神式土器・貝殻条痕文土器と大別して５種の土器群が計206点確認され、そのなかでは塞ノ神式土器が95点と約半数を占めていた。これら縄文時代早期の土器群と、同包含層から出土した石鏃の分布状況について注目すべき点が幾つか確認されたため、両者の関係について考察をおこなうこととする。縄文早期の遺物包含層から出土した塞ノ神式土器は調査区の北側の中央部と南側の中央部に集中箇所が見られる。同様の分布状況を示す石鏃に注目すると、石鏃Ⅱ類とⅣ類が調査区の北側中央部付近にのみ分布が確認される。また石鏃Ⅰ類は調査区の南側中央部付近と北西部に分布が見られ、同様の分布状況を示す土器に注目すると貝殻円筒形土器が同じ分布状況を呈しているようである。平面分布が重なる資料を同時期のものとして考えると石鏃Ⅰ類は貝殻円筒形土器の時期の資料、石鏃Ⅱ類・Ⅳ類は塞ノ神式土器の時期の資料と考えることができるであろう。ただし、本遺跡における石鏃の出土量は少なく、各類型の石鏃の集中している箇所を観察するというよりもむしろ個々の資料の出土位置を確認しているに過ぎないという状況である。そのため、他の遺跡の状況を見極めなければ時期決定の結論を言うことはできないであろう。石器と土器の時間的な結びつきは大きな課題であるが、今後様々な角度からの検証を重ねながら解決していきたい重要なテーマだと考えている。

本遺跡の弥生時代遺物包含層からは、中期初頭の刻目突帯文土器、中期後半～後期前半の中溝式土器が出土している。器種構成は甕形土器が圧倒的に多く、あとは少量壺形土器が存在するのみであった。弥生時代の遺構はほとんど検出されていないが、唯一SX-２が検出されている。この遺構については、竪穴住居跡の可能性も考えられたが、竪穴住居跡と認定するための根拠が弱かったため今回は竪穴状遺構として報告している。この遺構の構築時期については、埋土中から出土した遺物のほとんどが弥生時代終末期頃のものであるため、弥生時代終末期と考えて問題ないであろう。

滑川第３遺跡における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

１．試料と方法

試料名	地点・遺構	種類	前処理・調整	測定法
No.1	NK 3　SI-1	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.2	NK 3　SI-6	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.3	NK 3　SI-7	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.4	NK 3　SI-8	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.5	NK 3　SI-9（1）	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.6	NK 3　SI-10（C 3）	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.7	NK 3　SI-21（C 4）	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.8	NK 3　SI-25	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.9	NK 3　SI-26（1）	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.10	NK 3　SI-28	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.11	NK 3　SI-29	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.12	NK 3　SI-31	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.13	NK 3　SI-32	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.14	NK 3　SI-34	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.15	NK 3　SI-35	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.16	NK 3　SC-2	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.17	NK 3　SC-3	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.18	NK 3　SC-14	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.19	NK 3　SC-16	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.20	NK 3　SC-5	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.21	NK 3　SC-10	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析(AMS)法

2．測定結果

試料名	^{14}C年代 (年BP)	δ^{13}C (‰)	補正^{14}C年代 (年BP)	暦年代（西暦） （1σ：68%確率，2σ：95%確率）
No.1	9910±70	−27.2	9870±70	交点：cal BC 9280 1σ：cal BC 9325～9250 2σ：cal BC 9580～9565，9395～9225
No.2	8340±60	−25.6	8330±60	交点：cal BC 7455，7395，7370 1σ：cal BC 7495～7320 2σ：cal BC 7535～7185
No.3	8450±60	−27.7	8410±60	交点：cal BC 7515 1σ：cal BC 7550～7470 2σ：cal BC 7575～7335
No.4	8330±70	−26.1	8310±70	交点：cal BC 7430，7420，7350 1σ：cal BC 7490～7300 2σ：cal BC 7535～7145
No.5	8340±70	−26.5	8320±70	交点：cal BC 7445，7405，7360 1σ：cal BC 7495～7310 2σ：cal BC 7540～7165
No.6	7830±60	−28.1	7780±60	交点：cal BC 6615 1σ：cal BC 6655～6505 2σ：cal BC 6700～6465
No.7	9010±70	−27.3	8970±70	交点：cal BC 8230 1σ：cal BC 8260～8185，8045～8010 2σ：cal BC 8285～7955
No.8	9040±70	−27.3	9000±70	交点：cal BC 8240 1σ：cal BC 8270～8205 2σ：cal BC 8295～8150，8140～7975
No.9	9480±70	−28.3	9430±70	交点：cal BC 8720 1σ：cal BC8775～8615 2σ：cal BC 9110～9005，8830～8545
No.10	9620±70	−24.7	9620±70	交点：cal BC 9145，8965，8945 1σ：cal BC 9205～9095，9020～8810 2σ：cal BC 9235～8760
No.11	8240±70	−27.1	8210±70	交点：cal BC 7185 1σ：cal BC 7330～7080 2σ：cal BC 7470～7060
No.12	8430±70	−25.7	8420±70	交点：cal BC 7520 1σ：cal BC 7560～7470 2σ：cal BC 7585～7330
No.13	9510±70	−23.7	9530±70	交点：cal BC 8795 1σ：cal BC 9130～8985，8920～8745 2σ：cal BC 9195～8630

No.14	11530±90	−25.3	11530±90	交点：cal BC 11515 1σ：cal BC 11815～11785，11550～11480 2σ：cal BC11855～11710，11625～11375 BC 11300～11250
No.15	8790±80	−26.3	8770±80	交点：cal BC 7795 1σ：cal BC 7965～7650 2σ：cal BC 8205～7595
No.16	500±70	−26.8	470±70	交点：cal AD 1435 1σ：cal AD 1410～1460 2σ：cal AD 1315～1350，1390～1520 AD 1575～1625
No.17	8960±80	−27.4	8920±80	交点：cal BC 8200 1σ：cal BC 8240～7960 2σ：cal BC 8275～7780
No.18	3030±50	−27.9	2980±50	交点：cal BC 1215 1σ：cal BC 1290～1120 2σ：cal BC 1380～1030
No.19	3020±50	−25.9	3010±50	交点：cal BC 1270 1σ：cal BC 1360～1355，1315～1190 2σ：cal BC 1400～1105
No.20	11050±90	17.6	11170±90	—
No.21	11900±90	16.4	12040±90	—

（1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

（2）δ^{13}C（デルタ）測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{14}C/^{12}C比）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

（3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料のδ^{13}C値を−25（‰）に標準化することによって得られる年代である。

（4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）。calはcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（シグマ）（68％確率）と2σ（95％確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

調査抄録

フリガナ	ヌメリカワ　ダイサン				
書名	滑川第３遺跡				
副書名	県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書				
巻次	第１集				
シリーズ名	清武町埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	第23集				
編集者名	井田篤・秋成雅博・今村結記				
発行機関	清武町教育委員会				
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地				
発行年月日	2007年３月				
所在遺跡名	所在地	市町村:遺跡番号	北緯	東経	調査期間
滑川第３遺跡	清武町大字 船引字滑川	清武町：210	31° 52′ 31″	131° 22′ 11″	97.8.1～98.3.31
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
6,940㎡	農業関連	集落	旧石器 縄文(早期･前期) 弥生	礫群 集石遺構 陥し穴状遺構 土坑 など	石器 縄文式土器 弥生式土器 など
特記事項					

清武町埋蔵文化財調査報告書第23集

滑川第3遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

発行年月日　2007年3月29日
編集発行　清武町教育委員会
〒889-1696　宮崎県宮崎郡清武町大字船引204
TEL.0985 (85) 8111　FAX.0985 (84) 2634
印　　刷　有限会社　いろは企画
〒889-1603　宮崎県宮崎郡清武町正手3丁目19－2
TEL.0985 (85) 5889　FAX.0985 (85) 5889